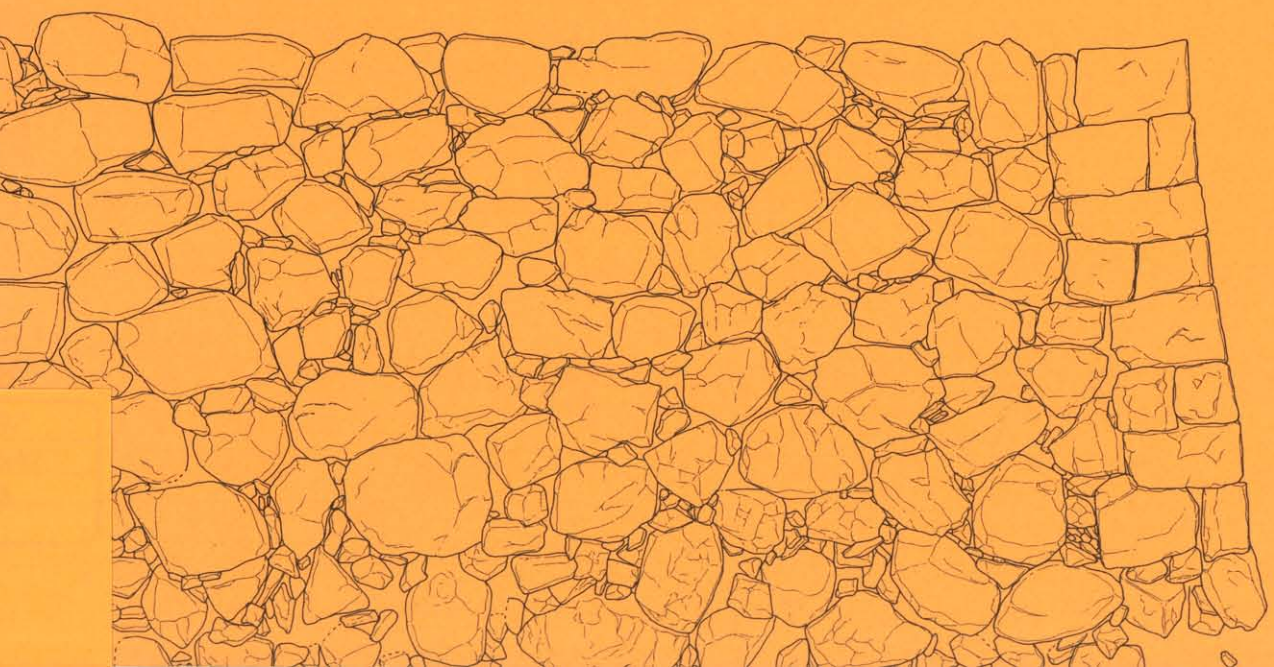
高松市埋蔵文化財調査報告 第72集

高松市内遺跡発掘調査概報

-平成15年度国庫補助事業-

２００４年3月

高松市教育委員会

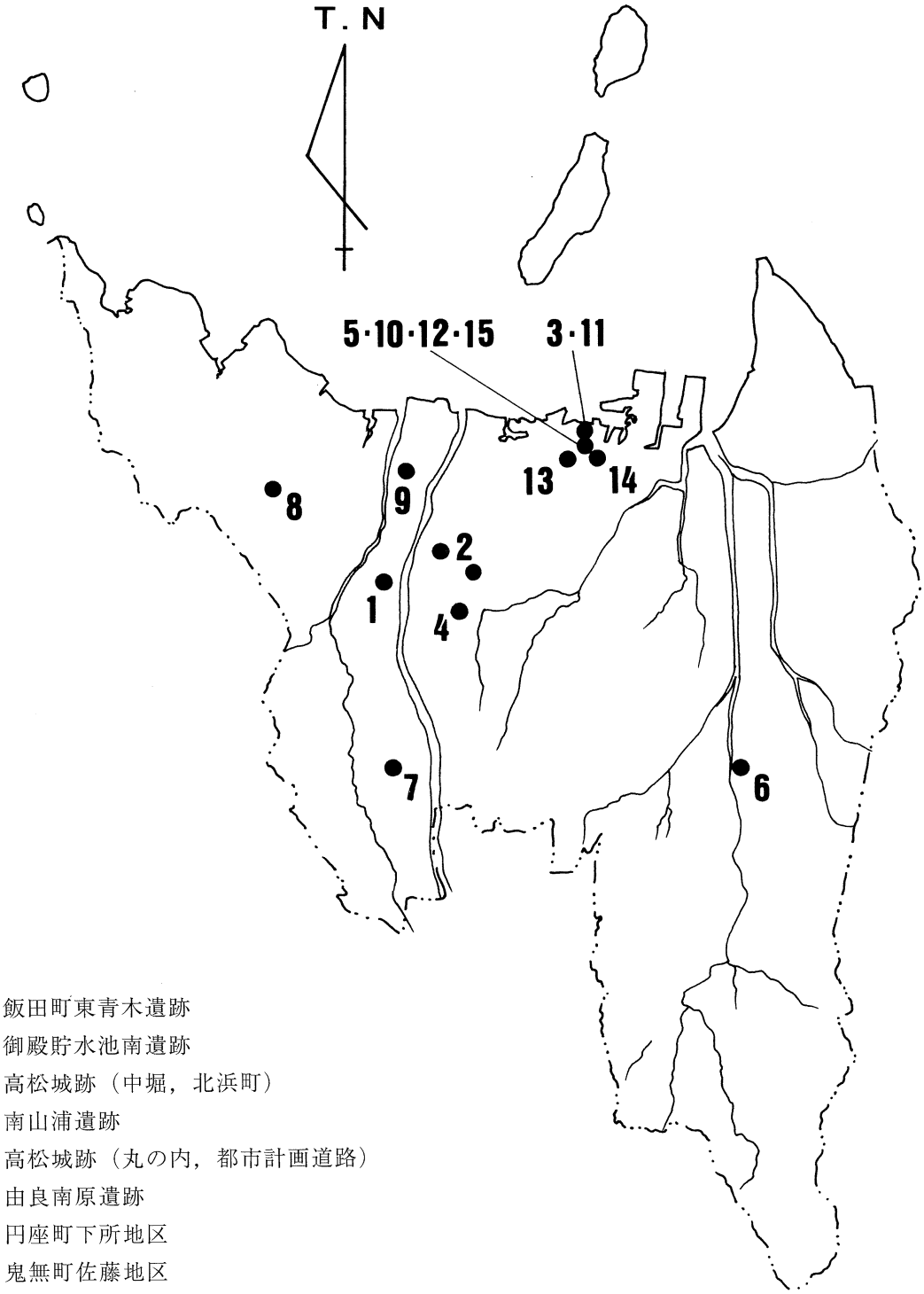


例 言

1　本書は，高松市教育委員会が平成15年度に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。
2　本書には平成15年度事業のうち，調査期間が平成15年４月から12月にかけて実施した試掘・立会調査13件についてそれぞれ収録した。なお，平成14年度事業だが概報印刷時期の関係で昨年度概報に未収録であった試掘調査２件も収録している。
3　調査は，高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員川畑　聰・山元敏裕・大嶋和則・小川賢が担当した。
4　本書の執筆は調査担当者が行い，編集は川畑が行った。
5　調査の実施にあたっては，次の方々の指導・協力を得た。（敬称略，五十音順）
穴吹興産株式会社，香川県教育委員会，四国電力株式会社，社会福祉法人つくし福祉会，高松琴平電気鉄道株式会社，谷口建設興業株式会社，小倉史也，片桐節子，片桐孝浩
6　本書の挿図として，国土地理院発行地形図２万５千分の１を一部改変して使用した。
7　発掘調査で得られたすべての資料は，高松市教育委員会で保管している。
8　本報告書の高度値は，海抜高または地表面からのマイナス値を表わす。方位は，T.Nが座標北，M.Nが磁北を表している。

目 次

≪平成１４年度≫
飯田町東青木遺跡（青木公園（仮称）整備工事）…… 3
御殿貯水池南遺跡（都市計画道路木太鬼無線街路事業ほか）…… 8
≪平成１５年度≫
高松城跡（中堀，北浜町，共同住宅建設）…… 10
南山浦遺跡（児童福祉施設建設）…… 12
高松城跡（丸の内，都市計画道路高松海岸線街路事業）…… 14
由良南原遺跡（（仮称）川島放課後児童クラブ建設）…… 18
円座町下所地区（高松市立円座小学校校舎増築工事）…… 20
鬼無町佐藤地区（送電線鉄塔建設）…… 21
香西東町新田地区（都市計画道路郷東檀紙西線街路事業）…… 22
高松城跡（丸の内，個人住宅建設）…… 23
史跡高松城跡（二の丸，玉藻公園西門料金所整備工事）…… 25
高松城跡（丸の内，再生水管布設工事）…… 29
高松城跡（外堀，西内町，共同住宅建設）…… 33
高松城跡（鶴屋町，共同住宅建設）…… 39
高松城跡（丸の内，共同住宅建設）…… 45



1　飯田町東青木遺跡
2　御殿貯水池南遺跡
3　高松城跡（中堀，北浜町）
4　南山浦遺跡
5　高松城跡（丸の内，都市計画道路）
6　由良南原遺跡
7　円座町下所地区
8　鬼無町佐藤地区
9　香西東町新田地区
10　高松城跡（丸の内，個人住宅）
11　史跡高松城跡（二の丸）
12　高松城跡（丸の内，再生水管）
13　高松城跡（外堀，西内町）
14　高松城跡（鶴屋町）
15　高松城跡（丸の内，共同住宅）

第１図　平成14年度末・15年度高松市内遺跡調査位置図

飯田町東青木遺跡（いいだちょうひがしあおきいせき）

1．所　在　地　高松市飯田町1219番地1ほか
2．調 査 期 間　平成15年２月20日～３月５日
3．調査担当者　大嶋和則
4．調査の原因　青木公園（仮称）整備
5．調査の概要

（1）調査の概要と基本層序

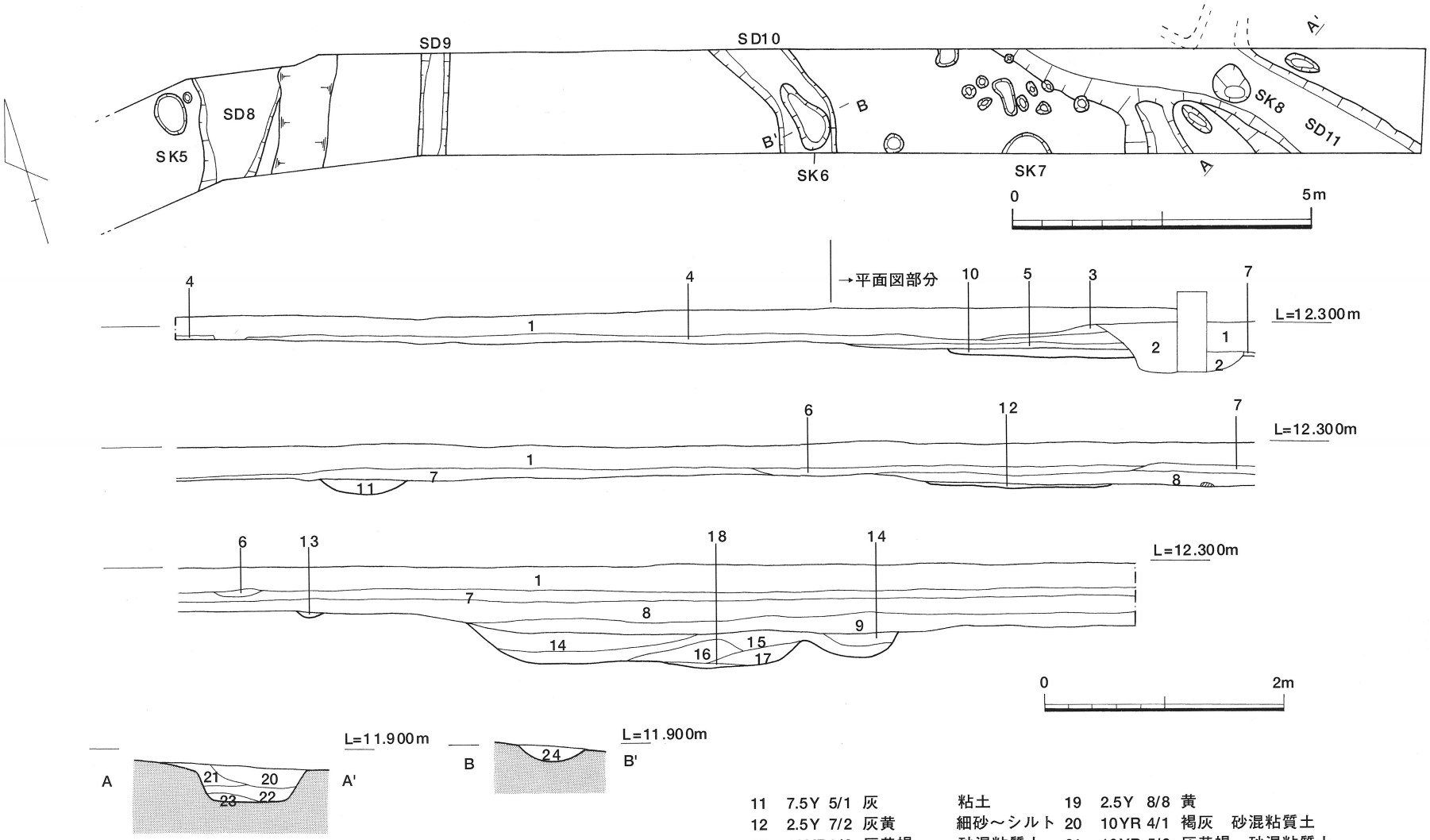
調査地周辺は発掘調査例が少ないこともあって，集落遺跡の存在は知られていない地域であった。しかし，周辺の田畑には中世墓と考えられる径１～５ｍ程度の塚が十数基認められることから，周辺に遺跡が所在する可能性が高いと考えられた。このため工事に際し，事業主体である高松市都市開発部公園緑地課と協議を行い，現状地盤下に掘削が及ぶ範囲について工事立会を行い，遺跡の有無を確認することとした。

公園工事については，盛土造成のため地下遺構に影響が無いが，公園への進入道路の擁壁及び暗渠水路部分約100㎡については現地表面下約70cmまで掘削を行うため，この範囲を調査対象地とした。２月20日に擁壁工事部分（第１トレンチ）の立会調査を実施した。工事の掘削深度で遺構の有無確認を行ったところ，遺構が多数検出された。このため，掘削を遺構面までで止め，調査を行った。また，暗渠水路部分（第２トレンチ）でも遺構を多数検出したため，暗渠水路部分については３月４・５日に立会調査を実施し，両トレンチあわせて溝11条，土坑９基，ピット19基を検出した。

基本層序は，第１トレンチ西半では耕作土直下，第２トレンチ東半でも床土直下において地山の黄色シルト～粘土層が認められ，遺構面の削平が著しい。第１トレンチ西半では耕作土と地山の間に灰黄色砂混粘質土層が認められ，西側に向かって堆積層が厚くなっている。また，第２トレンチ東半でも床土と地山の間に灰黄褐色砂混粘質土層および浅黄色シルト～粘土層が認められ，東側に向かって堆積層が厚くなっている。このため，遺構面は調査地中央が高く，東西に向かってやや低くなっている。なお，東側の堆積層中からは土師質土器（第６図３・４）が出土しており，中世頃の堆積層と考えられる。

第２図　飯田町東青木遺跡調査地位置図

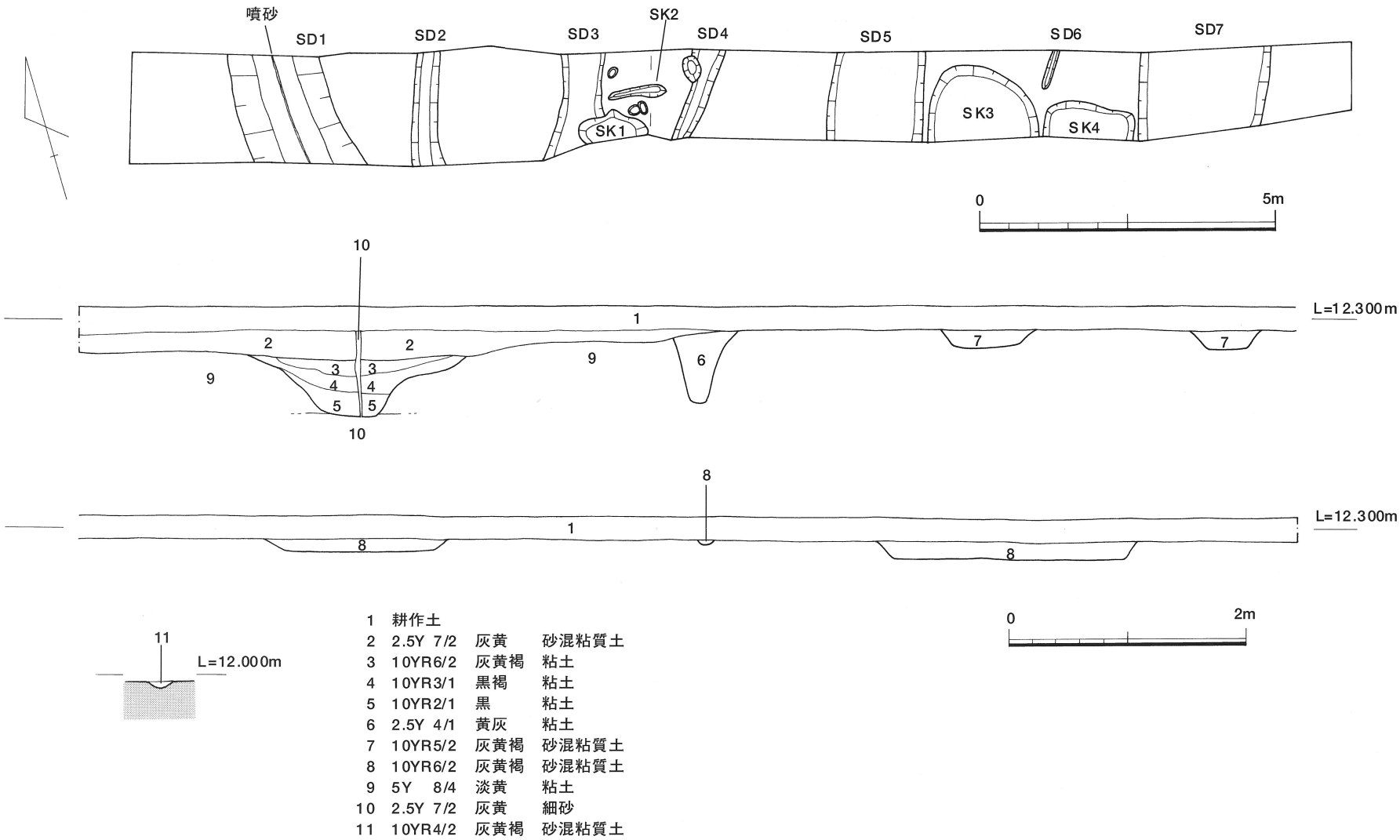
第３図　飯田町東青木遺跡トレンチ配置図及び周辺塚分布図（縮尺1／2,500）



1	10GY 3/1	暗緑灰	砂混粘質土（耕作土）	6	10GY4/1	暗緑灰	砂混粘質土	11	7.5Y 5/1	灰	粘土
2	7.5GY3/1	暗緑灰	砂混粘質土	7	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土	12	2.5Y 7/2	灰黄	細砂～シルト
3	10YR 6/4	にぶい黄橙	シルト～粘土	8	2.5Y7/3	浅黄	シルト～粘土	13	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土
4	7.5Y 8/2	灰白	シルト～粘土	9	10YR 5/2	灰黄褐	砂混粘質土（地山の粘土ブロック含）	14	10YR4/3	にぶい黄褐	砂混粘質土
5	7.5Y 6/1	灰	シルト～粘土	10	5Y 6/1	灰	シルト～粘土	15	10YR5/1	褐灰	砂混粘質土
								16	10YR3/2	黒褐	砂混粘質土
								17	10YR6/3	にぶい黄橙	砂混粘質土
								18	2.5Y 5/1	黄灰	細砂

19	2.5Y 8/8	黄	
20	10YR 4/1	褐灰	砂混粘質土
21	10YR 5/2	灰黄褐	砂混粘質土
22	2.5Y 4/1	黄灰	砂混粘質土
23	5Y 5/1	灰	細砂
24	2.5Y 4/2	暗灰黄	砂混粘質土（地山の粘土ブロック含）

第４図 飯田町東青木遺跡第２トレンチ平面・断面図（縮尺1/100，1/50）



1	耕作土		
2	2.5Y 7/2	灰黄	砂混粘質土
3	10YR6/2	灰黄褐	粘土
4	10YR3/1	黒褐	粘土
5	10YR2/1	黒	粘土
6	2.5Y 4/1	黄灰	粘土
7	10YR5/2	灰黄褐	砂混粘質土
8	10YR6/2	灰黄褐	砂混粘質土
9	5Y 8/4	淡黄	粘土
10	2.5Y 7/2	灰黄	細砂
11	10YR4/2	灰黄褐	砂混粘質土

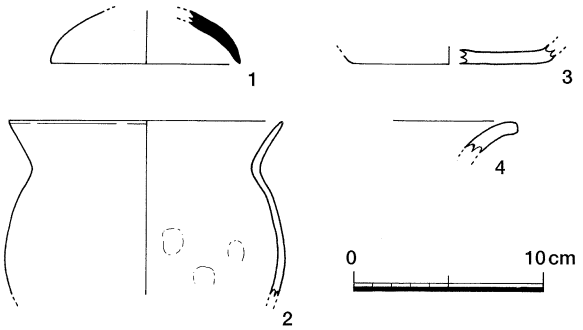
第５図 飯田町東青木遺跡第１トレンチ平面・断面図（縮尺1/100, 1/50）

（2）古墳時代の遺構

ＳＤ１・２・３・４・11，ＳＫ２・６・７・８が該当する。ＳＤ１は幅1.9m，深さ約50cmを測る。埋土は３層に分層できる。出土遺物は第６図１の須恵器１点のみで，７世紀頃のものと考えられる。

ＳＤ２は幅55cm，深さ60cmを測る溝で，埋土は黄灰色粘土の単層である。ほぼ条里地割と同方向の溝である。

ＳＤ３は幅70cm，深さ15cmを測る溝で，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。ＳＤ２同様，ほぼ条里地割と同方向の溝である。遺物は出土していない。



第６図 飯田町東青木遺跡出土遺物実測図

ＳＤ４は幅55cm，深さ10cmを測る溝で，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。条里地割に対してはやや斜行する。遺物は出土していない。

ＳＤ11は第２トレンチ東端で検出した遺構である。幅1.5m，深さ40cmを測り，北西から南東方向に流れる溝で，検出範囲の中央部から南と北へ分岐する溝を検出しており，北壁断面でも北側へ分岐する溝が確認できた。南北へ分岐する溝については，幅・深さともやや小規模であるが，埋土はＳＤ11と同じである。遺物は土師器の小片が数点出土したのみで，時期は不明であるが，規模・埋土の状態がＳＤ１に近似することから，ＳＤ１と同時期・同性格の遺構である可能性が高い。また，分岐部の溝底で黒褐色粘土層のＳＫ８を検出した。

ＳＫ2は幅20cm，長さ１ｍの溝状の土坑である。東側が深くなってはいるものの，全体に浅く，最深部で５cm程度であり，埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。土坑中央部から第６図２の土師器甕が出土している。

ＳＫ６は中近世の溝と考えられるＳＤ10の下層で検出した。長辺1.2m，短辺55cmの土坑である。遺物は出土していない。

ＳＫ7は北半しか検出していないが，径約１ｍの円形の土坑と考えられる。深さ２～３cmと非常に浅い。遺物は出土していない。

（3）中・近世以降の遺構

第１トレンチ東半から第２トレンチ西半にかけて検出したＳＤ５～10，ＳＫ１・ＳＫ３～５，ＳＰ６があげられる。この中のＳＤ８上面で京信楽系陶器碗および肥前系磁器碗の細片が出土しており，江戸時代の遺構であると考えられる。他の遺構については出土遺物が無く，時代を特定できないが，古墳時代の遺構の埋土が黒褐色～褐灰色であるのに対し，ＳＤ８と同様の灰色～灰黄褐色である共通点から，概ね中・近世以降の遺構と考えられる。

（4）噴砂（第５図）

第１トレンチの西端，ＳＤ１の中央で，流路に平行する形で検出した。砂脈は地山の黄色シルト～粘土層の下層に認められる灰黄色細砂層から噴き上がっており，その幅１～２cm，高さ75cmを測り，ＳＤ１及び中世前半の堆積層を切って，耕作土直下まで達している。このため中世後半以降の地震の痕跡と考えられる。

６．まとめ

調査地周辺では，東側に香東川の河岸段丘，西側にも高月池へ流れ込むような旧河道の存在を示す微地形が見られる。今回の調査においても遺構面は調査区中央部が高く，東西両方向へ低くなっている。このため調査地は，西側と東側に旧河道が存在し，両旧河道間の微高地上に営まれた集落と考えられる。また，周辺には中世墓と考えられる塚が点在しており，同時期の遺構を想定していたが，古墳時代の遺構を検出するに至った。周辺の塚の大多数は直径１ｍ程度，高さ数十cmのものであるが，中には直径４～５ｍ以上，高さ数

mになるものもある。今回の調査成果や，鶴市町相作牛塚古墳や檀紙町中森古墳の事例を考慮すると，これら比較的大形の塚が古墳である可能性も十分考えられる。

写真１　調査前全景（西から）

写真２　第１トレンチ遺構検出状況（西から）

写真３　SD1および噴砂断面（南から）

写真４　第２トレンチ遺構検出状況（東から）

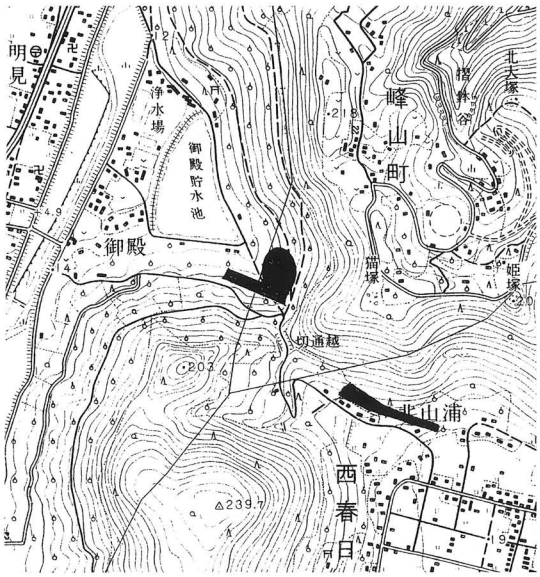
写真５　第２トレンチ完掘状況（東から）

写真６　SD11完掘状況（東から）

御殿貯水池南遺跡

1．調　査　地　高松市鶴市町・西春日町
2．調査期間　平成15年３月10日～20日
3．調査担当者　小川　賢，末光　甲正
4．調査の原因　御殿浄水場配水池築造工事，
　　都市計画道路木太鬼無線街路事業
5．調査の概要

積石塚古墳で著名な石清尾山塊の南及び西麓で，２つの大規模事業が計画されたのに先立ち，事業主体である高松市水道局浄水課及び都市開発部都市計画課と事前の協議を行い，試掘調査を実施することになった。



第７図 御殿貯水池南遺跡調査地位置図

御殿浄水場配水池築造工事

山頂部の猫塚より西に下った急斜面で，御殿貯水池の東側に位置するもので，工事予定面積は5,631㎡を測る。３箇所にトレンチを設定し，合計98㎡を重機により掘削した。表土層を除去するとすぐに地山となり，遺構・遺物とも確認されなかった。

都市計画道路木太鬼無線街路事業

峠を挟み調査区が西春日町と鶴市町に分かれる。両町でトンネル出入口と道路建設予定地の約53,000㎡を対象として15箇所にトレンチを設定するとともに，分布調査も合わせて実施した。

［西春日町］　トンネル出入口付近の急斜面については，遺構・遺物とも全く確認できなかった。一方，平地となる西春日町第４トレンチでは，平成13年度の試掘調査で確認された北山浦遺跡に隣接していたが，明確な遺構は確認されなかった。

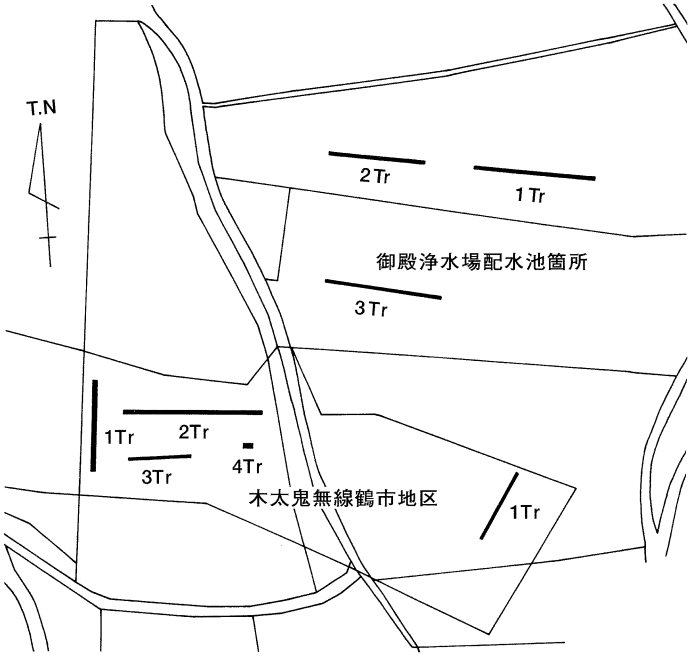
［鶴市町］　御殿浄水場配水池築造工事に隣接するトンネル出入口については，急斜面であり，遺構・遺物とも確認できなかった。一方，丘陵地形である２箇所のトレンチで弥生時代及び中世の遺構・遺物を確認した。この丘陵地形は，調査対象範囲外である西へも続いており，周辺で須恵器片等が表採できることからも，さらに西方においても遺跡が存在する可能性が指摘できる。

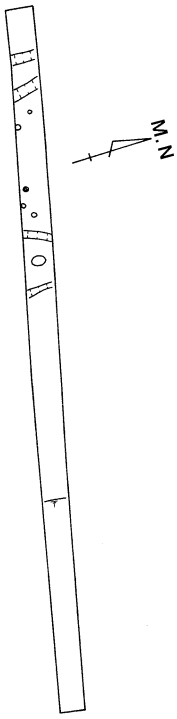
6．まとめ

御殿貯水場配水池予定地や都市計画道路木太鬼無線予定地のうち西春日町や鶴市町のトンネル出入口においては，埋蔵文化財の保護措置は必要ないと考えられる。一方，弥生時代及び中世の遺構・遺物が確認された鶴市町の丘陵部では，事前の保護措置が必要と考えられる。

写真７・８　木太鬼無線鶴市町地区　第２トレンチ　東から全景（左），遺構検出状況（右）

トレンチ名	主な時代	主な遺構	出土遺物等
【御殿浄水場配水池築造箇所】			
第１～３トレンチ	なし	なし	なし
【都市計画道路木太鬼無線　鶴市町】			
第１トレンチ	弥生時代中期？	溝	なし
第２トレンチ	弥生時代中期，中世	柱穴・溝	弥生土器，土師器
第３～５トレンチ	なし	なし	なし
【都市計画道路木太鬼無線　西春日町】			
第１～３トレンチ	なし	なし	なし
第４トレンチ	なし	なし	陶磁器等
第５～10トレンチ	なし	なし	なし

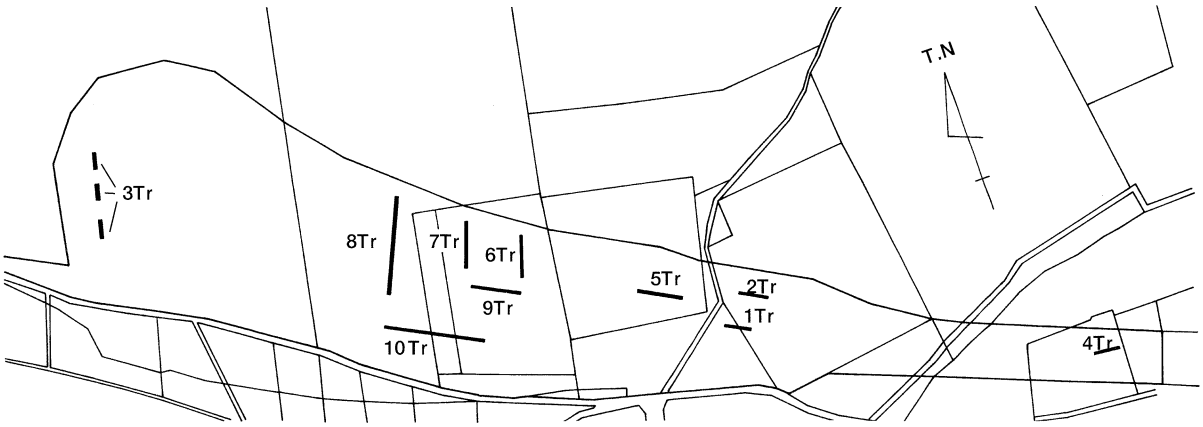




第８図　鶴市町トレンチ配置図（縮尺1/2,000）↑

第９図　木太鬼無線鶴市町第２トレンチ遺構配置図（縮尺1/80）→

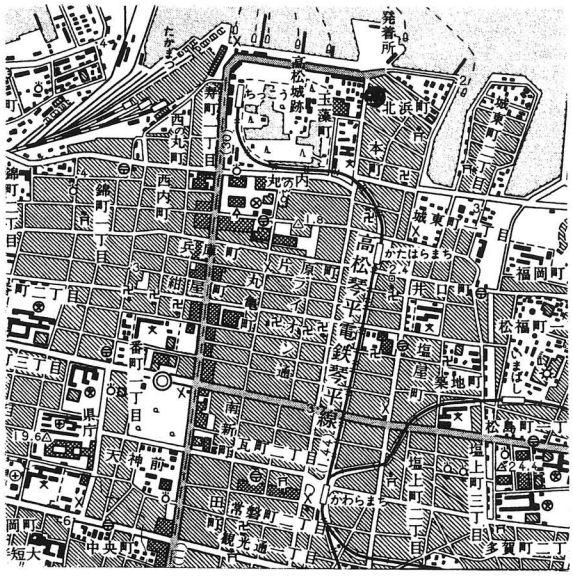
第10図　西春日地区トレンチ配置図（縮尺1/2,500）↓



高松城跡（中堀，北浜町）

1．調　査　地　高松市北浜町11番６号
2．調 査 期 間　平成15年５月13日
3．調査担当者　川畑　聰・末光甲正
4．調査の原因　共同住宅建設
5．調査の概要

工事予定地は，高松城跡中堀の一部と想定され，石垣が予定地内に残存している可能性が想定された。このため，土地所有者（高松琴平電気鉄道株式会社）及び事業主体者（穴吹興産株式会社）と高松市教委は協議を行い，土地所有者の任意協力により試掘調査を実施することになった。調査は，想定される石垣に直交する方向でトレンチを２ヵ所設定し実施した。



第11図　高松城跡（北浜町）調査地位置図

北側の第１トレンチでは，石垣は検出されず，中堀埋土の砂層のみを確認した。地表下40～50㎝に高松空襲時の焦土層が認められ，その下は細砂が厚く堆積していた。深さ約1.6ｍで湧水が激しくなったので，それ以上の掘削は行わなかった。出土遺物は，認められなかった。

南側の第２トレンチでは，中堀埋土である砂層に埋もれた形で，花崗岩の切石を使用した石段を検出した。石段は，全部で５段検出し，一段あたり奥行約33㎝・高さ約17㎝を測り，比較的昇降が容易な傾斜である。その構造は，長さ約80㎝・幅33㎝以上・高さ約17㎝の石材を横方向に積み重ねており，各石材には丁寧な面取りが施されている。伴出遺物はなかったが，石段は比較的精美な加工を施していることから，近代のものと推定される。堆積土層は，第１トレンチとほぼ同様で，湧水が激しくなった深さ約2.2ｍまで掘削した。

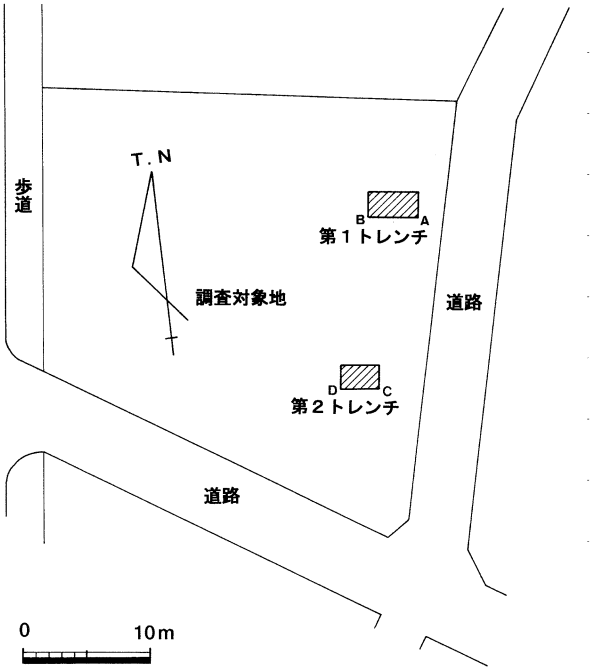
6．まとめ

江戸～昭和時代の絵地図（第47～50図）を参照すると，調査地東側の市道が石垣推定ラインにほぼ一致し，明治時代に中堀から張り出す形で魚市が増設されていることから，今回検出した石段はこの魚市に伴う構造物である可能性が指摘できる。

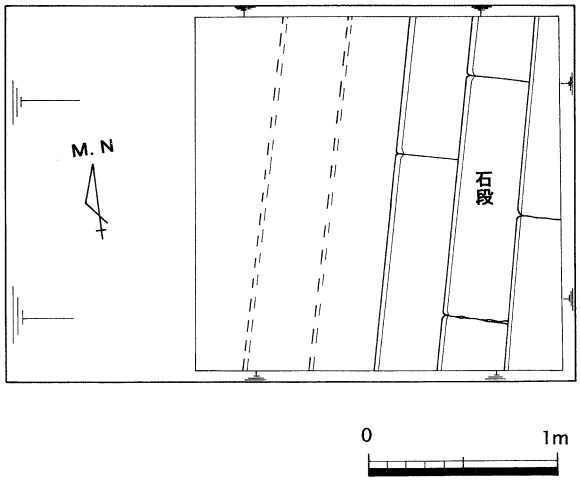
以上のことから，今回の調査地は高松城跡中堀の中に位置し，検出した石段も近代のものであることから，保護措置は必要ないものと判断した。

写真９　調査地全景（南西から）

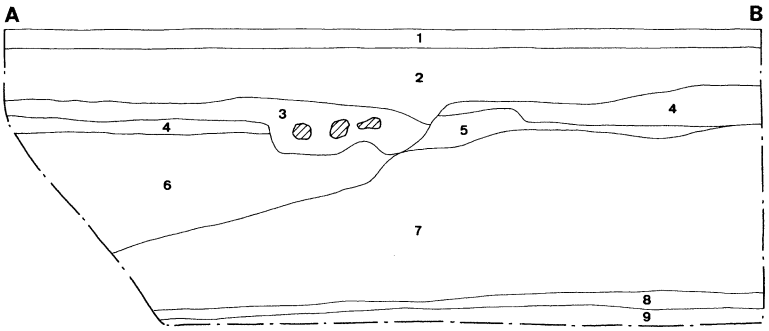
写真10 第２トレンチ石段検出状況



第12図　高松城跡(北浜町)トレンチ配置図（縮尺1/600）



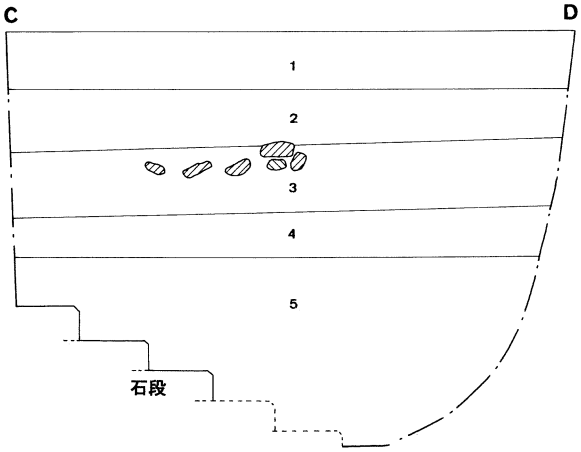
第13図　高松城跡(北浜町)第２トレンチ
平面図（縮尺1/40）



第１トレンチ土層名

1　鉄筋コンクリート
2　オリーブ褐色細砂（2.5Y4/3, 礫混じり）
3　浅黄色細砂～小礫（2.5Y7/4）
4　黒色極細砂（10YR2/1, 高松空襲焦土）
5　褐灰色細砂（10YR6/1）
6　灰オリーブ色細砂（5Y5/2）
7　灰～明黄褐色細砂（5Y5/1～10YR6/8）
8　灰色細砂（7.5YR2/1, シルト質極細砂を含む）
9　灰オリーブ色細砂（5Y5/2）

第14図　高松城跡(北浜町)第１トレンチ南壁土層図（縮尺1/40）



第２トレンチ土層名

1　鉄筋コンクリート
2　黒色極細砂（10YR2/1, 高松空襲焦土）
3　にぶい黄褐色細砂（10YR5/3）
4　灰白色細砂（5Y7/1, 礫混じり）
5　灰オリーブ色細砂（5Y5/2）

第15図　高松城跡(北浜町)第２トレンチ南壁土層図（縮尺1/40）

南山浦遺跡（みなみやまうらいせき）

1．調　査　地　高松市西春日町1418番地1
2．調 査 期 間　平成15年６月９日
3．調査担当者　川畑　聰・末光甲正
4．調査の原因　児童福祉施設建設
5．調査の概要

調査対象地西側丘陵斜面には南山浦古墳群が存在することから，事業主体である社会福祉法人つくし福祉会と高松市教委は協議を行い，試掘調査を実施することになった。試掘調査は，建設予定の建物が東西に長いことから，北側基礎部分に第１トレンチを，南側基礎部分に第２トレンチを設定した。

第16図　南山浦遺跡調査地位置図

第１トレンチでは，地表下約１～1.2ｍは客土が厚く堆積し，その下に厚さ約10㎝の旧水田床土(灰白色シルト質極細砂)が薄く残り，地山に達する。この地山を切り込む形で，トレンチ東半分において，溝２条，土坑３基，柱穴２基を確認した。遺構埋土は，どれも黒褐色シルト質極細砂で，SD01から土器小片が，SD02から弥生土器底部・高杯脚部(第18図１・２)が出土した。検出した遺構は，埋土が同じであることから，SD02と同じ弥生時代後期前半の時期と考えられる。

第２トレンチでも，地表下約1.1ｍまでは客土が厚く堆積していたが，その直下で地山を検出し，遺構は検出されなかった。これは，第２トレンチ側が第１トレンチ側よりやや土地が高く，後世の削平により遺構が消失したためと考えられる。

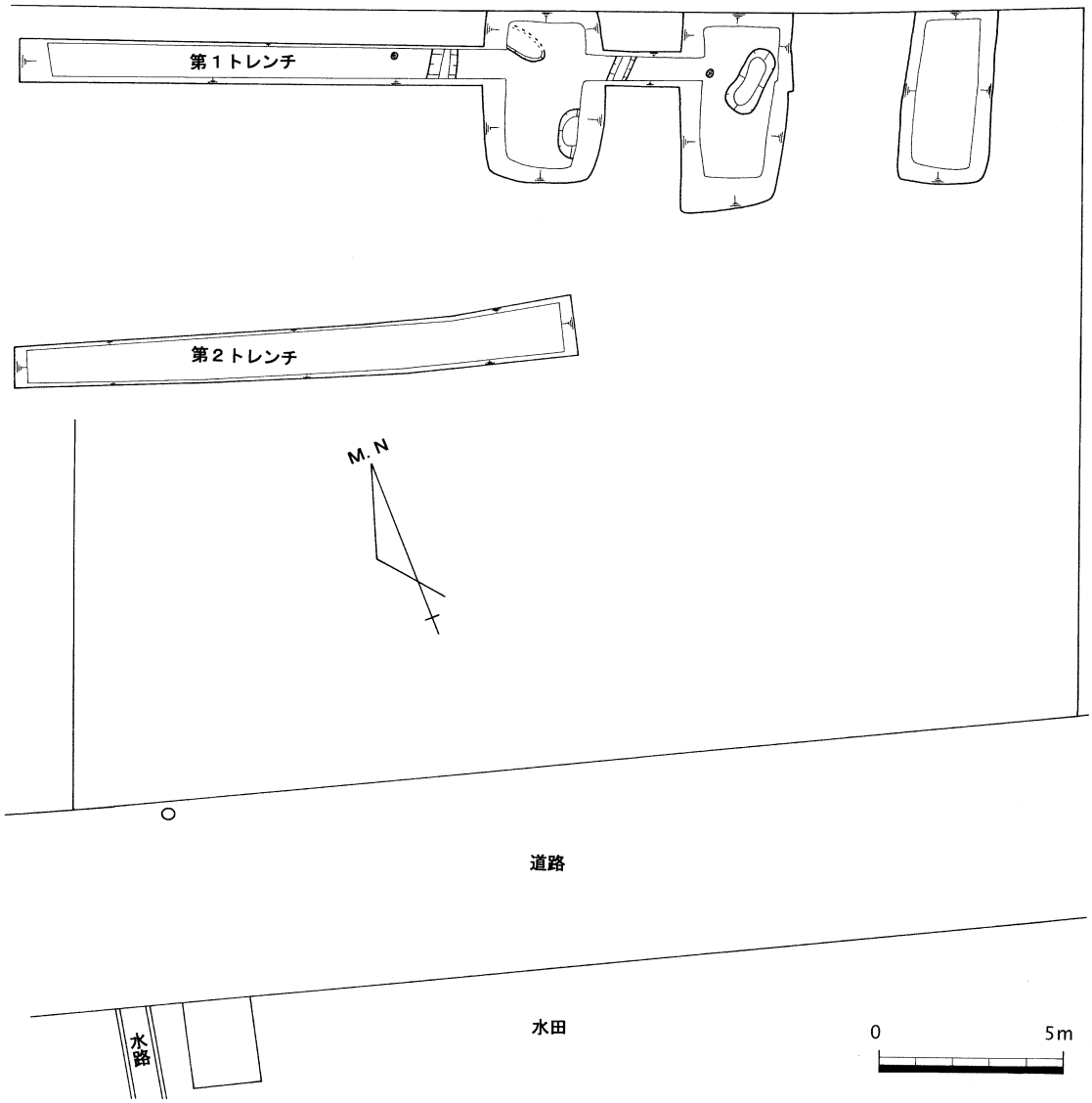
6．まとめ

第１トレンチ東側において保護措置が必要と考えられ，10月29・30日に発掘調査を実施した。

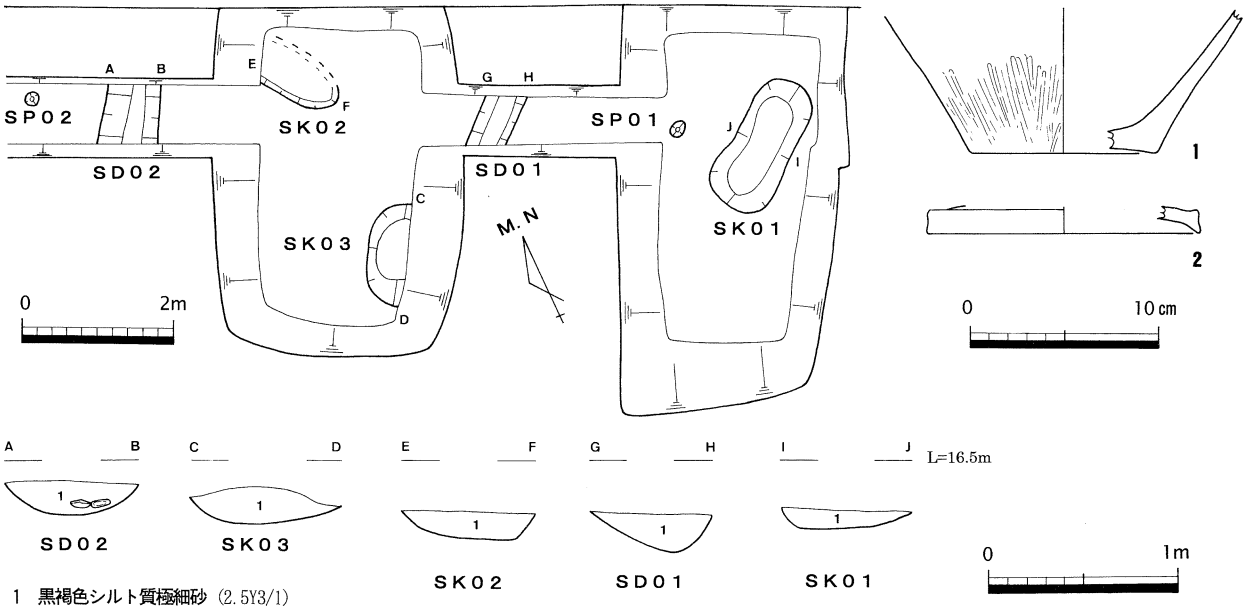
この南山浦遺跡は，比較的狭い範囲に遺構が密集しており，竪穴住居等は検出されなかったが，弥生集落が存在していた可能性は充分想定できる。一方，周辺の遺跡に目を向けると，西約200mの丘陵斜面にある南山浦古墳群や西南約500mの谷間にある坂田廃寺からは，同じ時期の弥生土器が出土している。さらに，北約700mにある北山浦遺跡は弥生時代中期の集落と推定されている。このことより，南山浦地区に弥生時代後期前半の集落が立地し，それ以前にあった北山浦遺跡から南山浦地区へ集落が移動した可能性が指摘できる。

写真11　第１トレンチ全景（東から）

写真12　第１トレンチ遺構全景（西から）



第17図　南山浦遺跡トレンチ配置図（縮尺1/200）



第18図　南山浦遺跡遺構平面・断面図（縮尺1/100，1/40）及びSD02出土遺物実測図（縮尺1/4）

高松城跡（丸の内，都市計画道路高松海岸線街路事業）

1．調　査　地　高松市丸の内３番地42ほか
2．調 査 期 間　平成15年６月11日
3．調査担当者　川畑　聰・末光甲正
4．調査の原因　都市計画道路高松海岸線街路事業
5．調査の概要

調査対象地は，高松城の旧大手近くにあたり，中堀の南側に位置する。江戸時代の遺構面３面を確認した平成13年度試掘調査地点の西隣接地でもあり，事業主体である高松市都市開発部都市計画課と協議を行い，試掘調査を実施することになった。

調査は，対象地のほぼ中央にＬ字形で深さ約30㎝の仮トレンチを設定し，遺構の検出状況を見ながら，中央及び西側の２箇所（中央トレンチ，西トレンチ）を更に深く掘削した。

第19図　高松城跡（海岸線）調査地位置図

中央トレンチでは，遺構面３面を確認するとともに，南東部分で第１遺構面から切り込む廃棄土坑等を検出した。廃棄土坑からは，18世紀末を中心とする遺物が出土した。第21図１～４は肥前系（伊万里）染付碗・壺，５・６は京信楽系陶器碗，７は唐津産陶器碗，８は産地不明陶器，９は土師質土器，10は瓦質土器釜である。なお，西トレンチでは，第１遺構面から切り込む不明遺構を確認している。

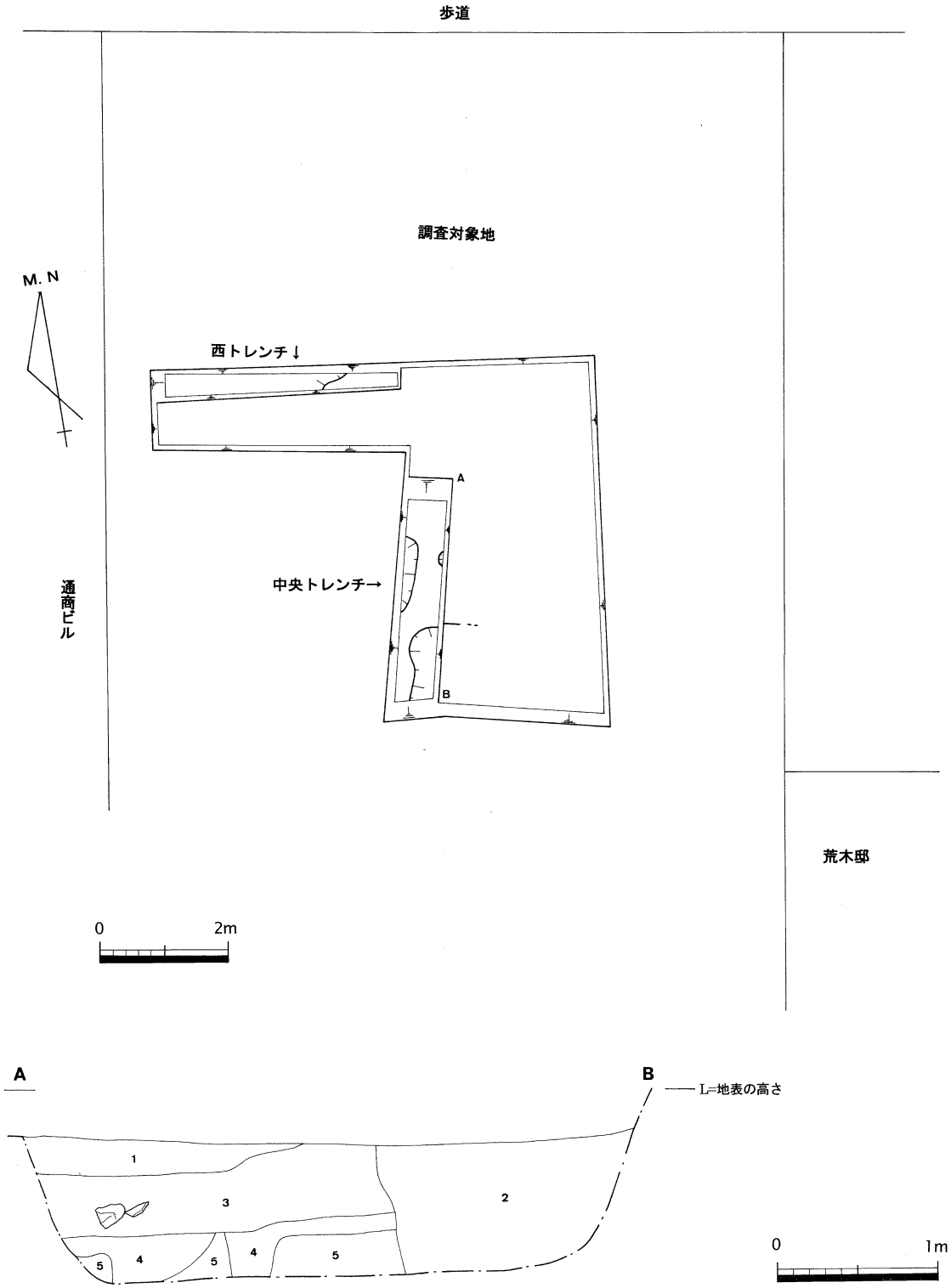
また，中央・西トレンチ付近の第１遺構面を精査した際に，数多くの遺物が出土している。第22・23図１～６は肥前系(伊万里)染付碗・皿・仏飯具，７は肥前系青磁染付花器，８・９は京信楽系陶器碗・皿，10は瀬戸美濃系陶器碗，11・12は産地不明磁器碗・蓋，13は産地不明陶器碗，14は軟質施釉陶器，15～17は堺・明石焼擂鉢，18・19は備前焼灯明皿，20は土師質土器焜炉，21は瓦質土器釜である。おおむね18世紀後半を中心とする時期のものが見られる。

6．まとめ

今回の調査対象地は，江戸時代後期の絵図を見ると「江戸長屋」と書かれている地域に該当し，高松藩の中下級武士が居住していた地域と想定される。今回検出した遺構も18世紀後半～末のものであることから，「江戸長屋」に関わるものと推定され，工事に先立つ保護措置が必要と考えられる。

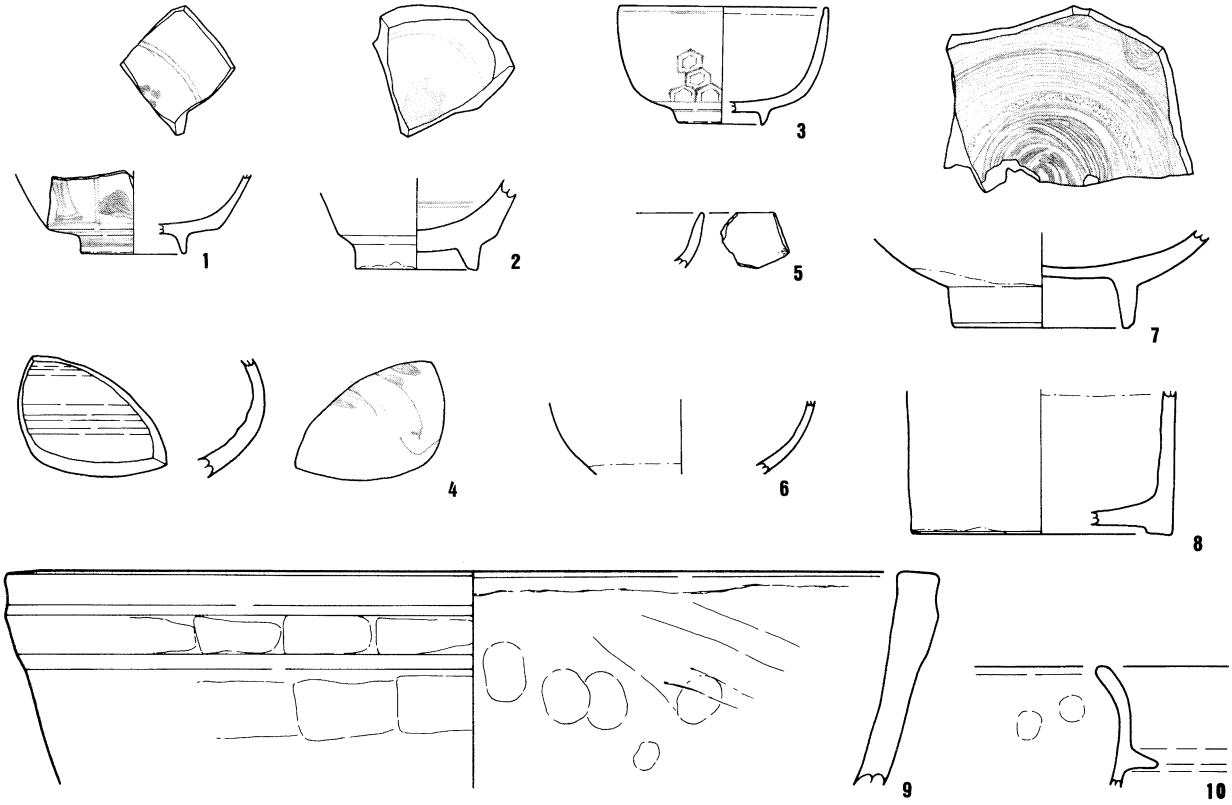
写真13　調査地全景（南から，背景は旧太鼓櫓台）

写真14　中央トレンチ東壁土層（北から）

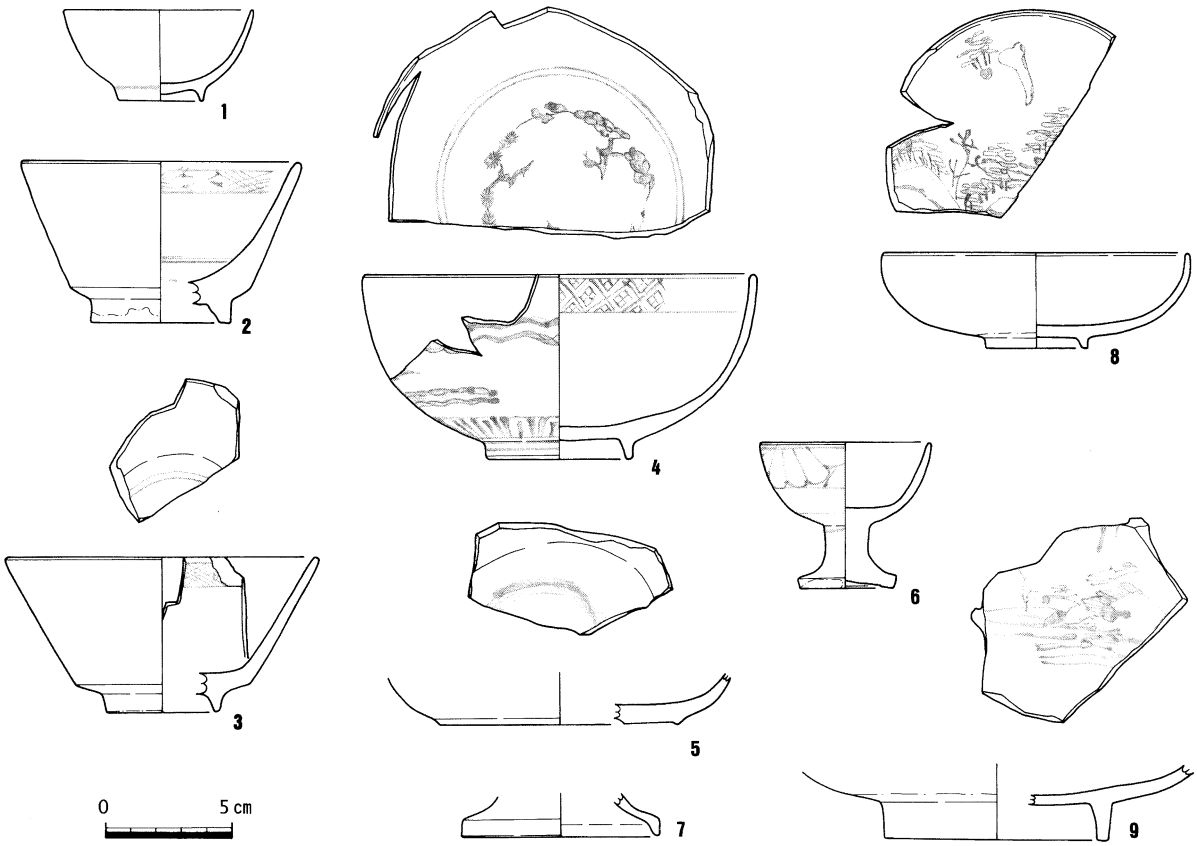


1 整地層 にぶい褐色シルト質細砂 (7.5YR6/3)
2 廃棄土坑 褐灰色シルト質細砂 (10YR4/1, 土器・瓦多く含む)
3 整地層 にぶい黄褐色シルト質細砂 (10YR4/3, 礫混じり)
4 整地層 黄灰色シルト質細砂 (2.5Y4/1)
5 地山層 にぶい黄橙色細砂～小礫 (10YR7/4)

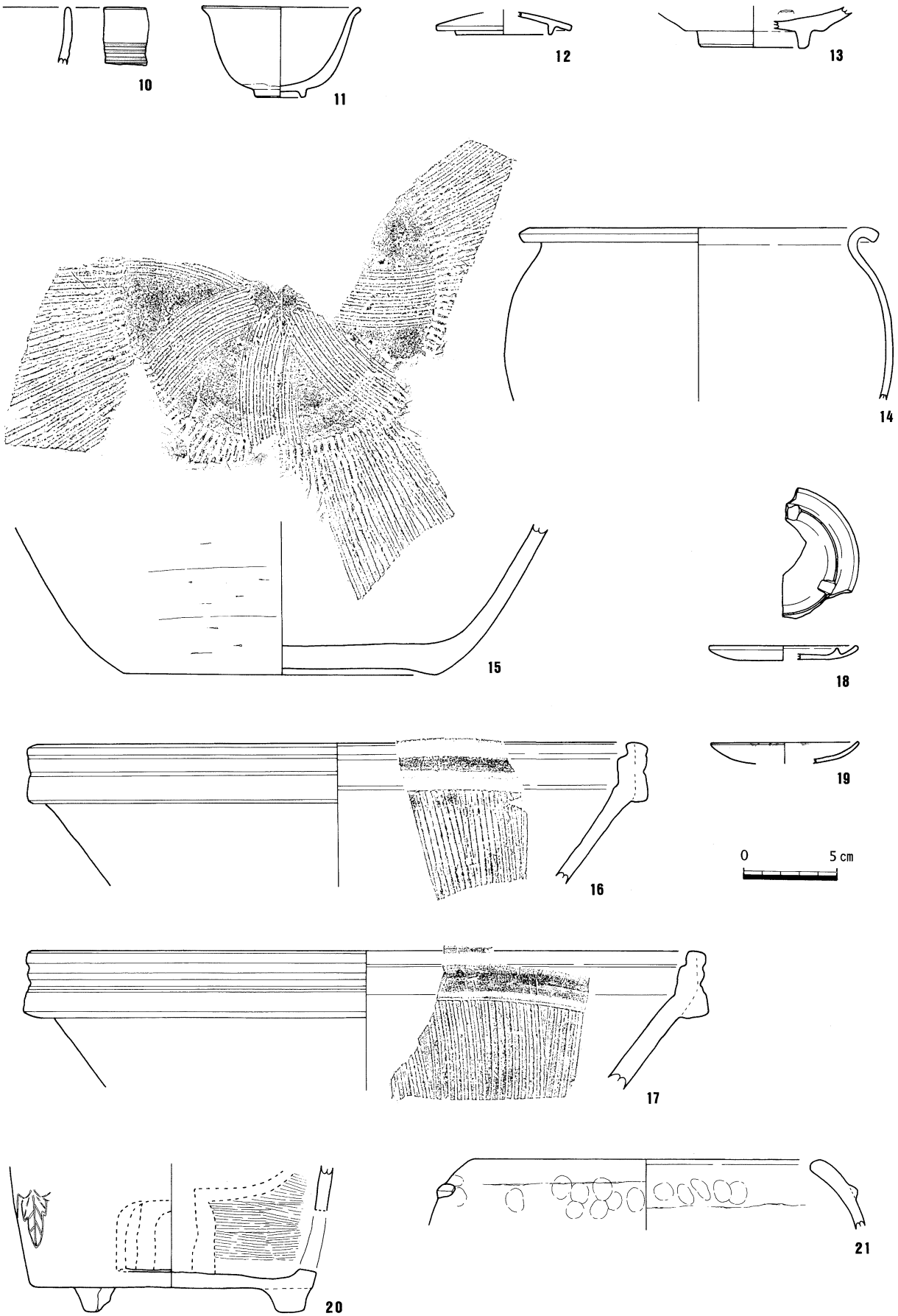
第20図 高松城跡（海岸線）遺構平面・中央トレンチ東壁土層図（縮尺1/100，1/40）



第21図　高松城跡（海岸線）中央トレンチ廃棄土坑出土遺物実測図（縮尺1/3）



第22図　高松城跡（海岸線）中央・西トレンチ精査出土遺物実測図①（縮尺1/3）



第23図　高松城跡（海岸線）中央・西トレンチ精査出土遺物実測図②（縮尺1/3）

由良南原遺跡

1．所　在　地　高松市由良町372番地17
2．調 査 期 間　平成15年７月17日
3．調査担当者　大嶋和則
4．調査の原因　児童福祉施設建設
5．調査の概要

調査地は，市営住宅川東団地建設に伴い平成12年度に発掘調査を実施した由良南原遺跡の北方に位置することから，事業主体である高松市健康福祉部母子児童課と協議を行い，現状地盤下に掘削が及ぶ範囲について試掘調査を実施することで合意した。工事で地表面下に掘削が及ぶ範囲は，水道管及び浄化槽埋設部分と建物基礎部分である。

第24図　由良南原遺跡調査地位置図

基本層序は８層に分層できる。第１層は20cm程度の厚さの耕作土である。第２層は灰色砂混粘質土，第３層は明赤褐色粗砂でいずれも厚さ５cm程度の堆積である。第４層は淡黄色シルト～細砂層が40cmにわたって堆積している。第５層は黒色粘土，第６層はにぶい黄褐色粘土，第７層は青灰色砂混粘土で，これら80cmにわたって堆積した粘土層は，旧河道埋土の可能性が考えられる。第８層はオリーブ灰色の粗砂である。

遺構面は第４層上面で確認し，溝７条，土坑６基，ピット22基を検出した。このうちＳＫ２とＳＤ４は須恵器の杯（第25図６）と碗（４）が出土しており，中世頃の遺構と考えられる。ＳＤ１は幅1.4m，深さ40cmの南北方向の溝で，須恵器杯（３）の出土が認められるが，肥前系磁器皿（１），瓦質焙烙（２）等の出土から近世の遺構と考えられる。それ以外の遺構については，遺物量が少なく，時期が不明である。包含層出土の遺物は京信楽系陶器碗（７）と須恵器杯蓋（８）が見られる。ＳＤ６出土遺物にも須恵器杯蓋（５）が見られるが，確実な古墳時代の遺構は見られない。

6．まとめ

遺跡の時期は概ね中世から近世と考えられる。また，平成12年度調査地と同一微高地上と考えられ，今回の調査地との間に遺構の広がりが想定できる。

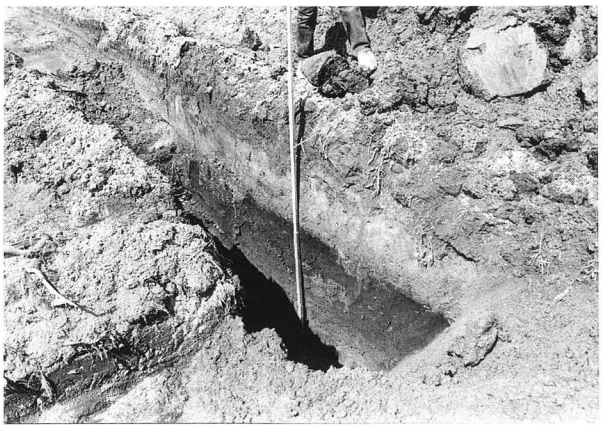
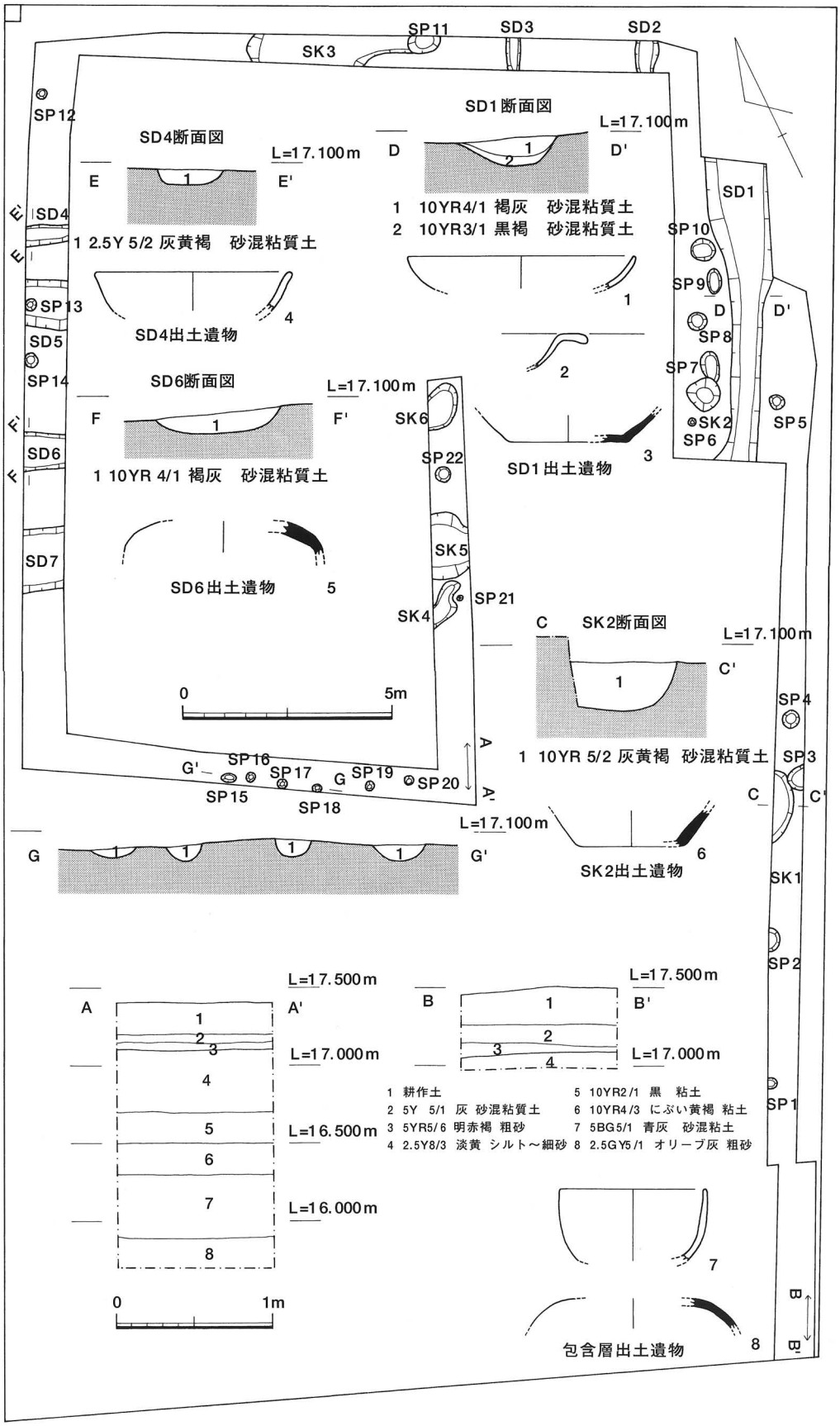


写真15　調査区土層断面

写真16　SD1完掘状況



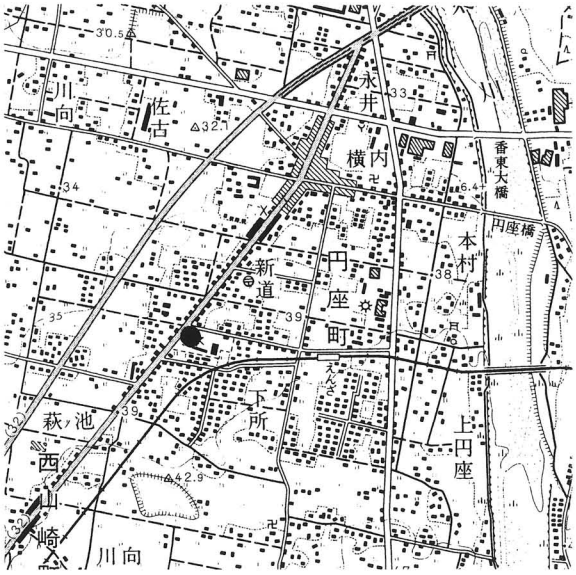
第25図　由良南原遺跡平面・断面図（縮尺1/150，1/40）及び出土遺物実測図（縮尺1/4）

円座町下所地区（えんざちょう）

1．調　査　地　高松市円座町字下所1629番地1･3
2．調 査 期 間　平成15年８月５日
3．調査担当者　川畑　聰・末光甲正
4．調査の原因　円座小学校校舎増築工事
5．調査の概要

高松平野西南部に位置する円座町は，中世城館がわずかに知られるだけで，遺跡の空白地域である。しかしながら，近辺においては，最近の道路建設に先立つ試掘調査により，新たな遺跡が確認されつつある。

さて，高松市教委教育部総務課において，高松市立円座小学校校舎増築工事の計画がなされ，工事予定面積が1,344㎡と規模が大きいこと，近辺における遺跡発見の増加を踏まえて，試掘調査を実施することになった。



第26図　円座町下所地区調査地位置図

増築場所は，運動場西端において，南北に長く建物が建てられることから，南北方向にトレンチを１本設定した。堆積していた土層は，現地表面から深さ約50㎝は花崗土（運動場盛土），その下約20㎝は旧水田層，そして地山である黄灰色シルト質極細砂に達する。ただし，トレンチ北半分では，旧水田層は認められず，花崗土直下に地山が存在している。

トレンチ全体において，花崗土を除去すると，昭和50年頃まで建っていた旧円座村役場の建物に関係すると考えられる礎石や廃棄土坑が確認できた。一方，トレンチ南半分においては，旧水田層を除去すると灰白色細砂の埋土をもつ土坑や溝が確認された。これらの遺構は，伴出遺物はないが，埋土の特徴等から江戸時代頃と推定される。以上のことから，調査対象地は安定した微高地であり，北から南に向けて緩やかに傾斜していることが明らかになった。しかしながら，安定した微高地ゆえ，後世の削平を受けており，遺構・遺物とも確認されなかった。

6．まとめ

以上のことから，今回の調査対象地は，保護措置の必要がないものと判断した。

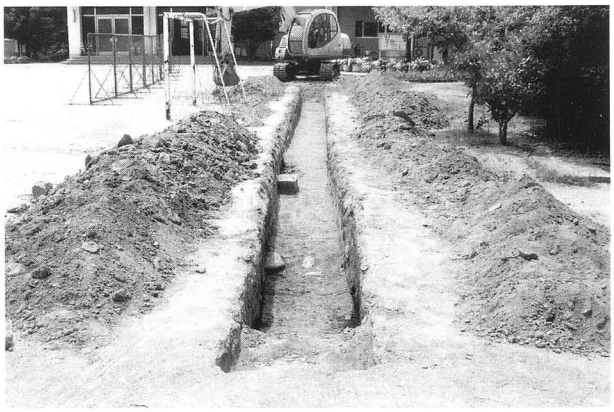


写真17　調査地全景（北から）

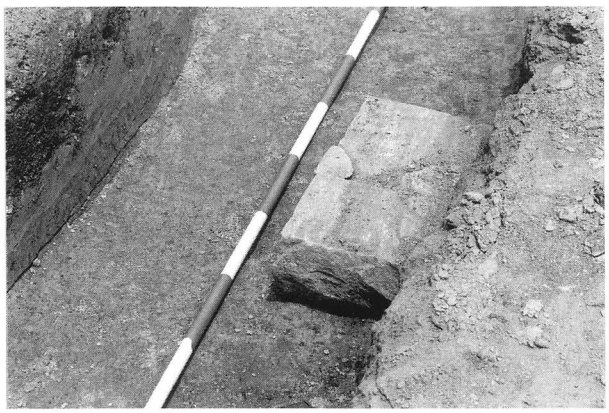
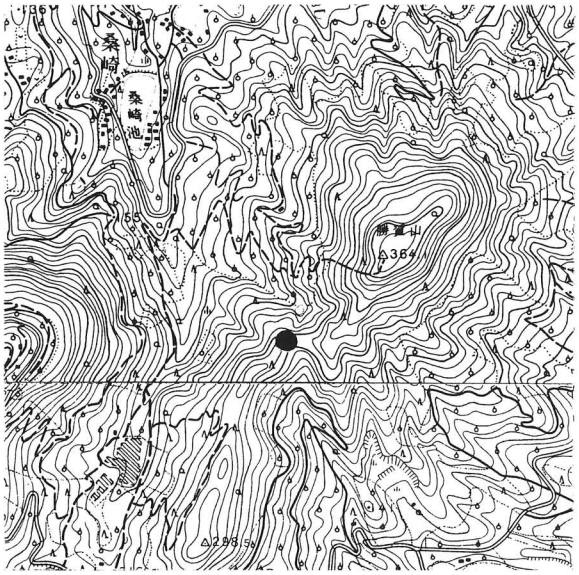


写真18　旧円座村役場礎石検出状況（南から）

鬼無町佐藤地区（きなしちょうさとうちく）

1．調　査　地　高松市鬼無町佐藤1112番１
　　中山町1443番１
2．調 査 期 間　平成15年８月20日
3．調査担当者　山元 敏裕
4．調査の原因　送電線鉄塔建設
5．調査の概要

四国電力株式会社より，鬼無町から中山町にかけて送電線鉄塔の新設工事を予定しており，予定地内における埋蔵文化財包蔵地について，高松市教委に照会があった。送電線鉄塔建設予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である勝賀城跡が所在しており，平成15年3月発行の『香川県中世城館詳細分布調査報告』に記載のある縄張図と照合したところ，鉄塔建設予定地のうち，２箇所が縄張内あるいは近接していた。北側建設予定地は，主郭から西側に伸びる尾根上にある郭に近接しており，一方，南側建設予定地は，郭状の平坦地に含まれると判断された。そこで，香川県教委・高松市教委・四国電力株式会社の３者で協議を行い，この２箇所について分布調査を実施し，現地の状況を確認することになった。



第27図　鬼無町佐藤地区調査位置図

分布調査

鉄塔建設予定地２ヵ所の分布調査結果は，北側については郭から少し離れた急斜面部で，遺跡の広がりは認められなかった。一方，南側については，近接した部分に遺構らしきものが認められたことから，当初予定地から約10m移動させた上，さらに試掘調査を実施することになった。

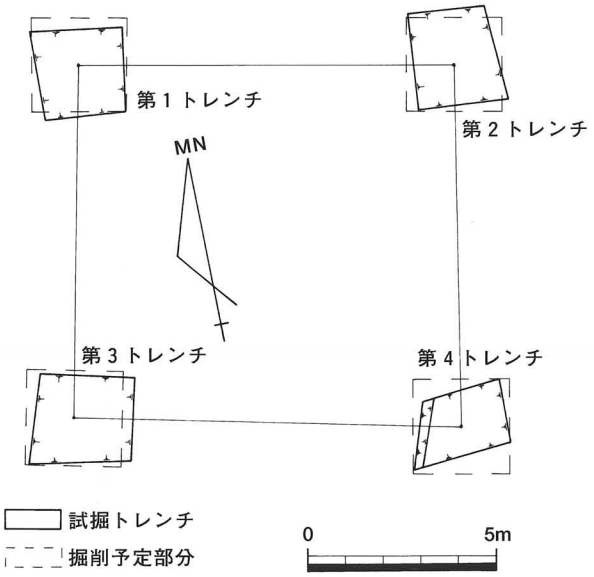
試掘調査

鉄塔基礎工事に伴い掘削が行われる４箇所について調査を行った。トレンチ調査を行った４箇所とも多少の差はあるが，腐葉土を含む表土を除去した段階で地山を検出した。地山上面を精査したが，遺構は認められなかった。

6．まとめ

試掘調査を実施した鉄塔建設予定地は，勝賀城跡の縄張図に含まれていたことから，中世後半頃の遺構も想定されたが，各トレンチにおいて遺構・遺物ともに確認されなかった。このため，埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと考えられる。

今回の試掘調査結果から周知の埋蔵文化財包蔵地である勝賀城跡南側の広がりは，鉄塔建設予定地の北側にある土橋状遺構までで，それより南側については遺跡の範囲外である可能性が高いと考えられる。



第28図　鬼無町佐藤地区トレンチ配置図（縮尺1/200）

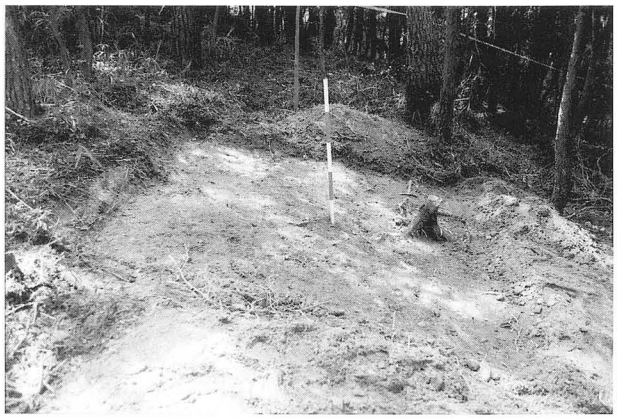


写真19　第１トレンチ完掘状況（西から）

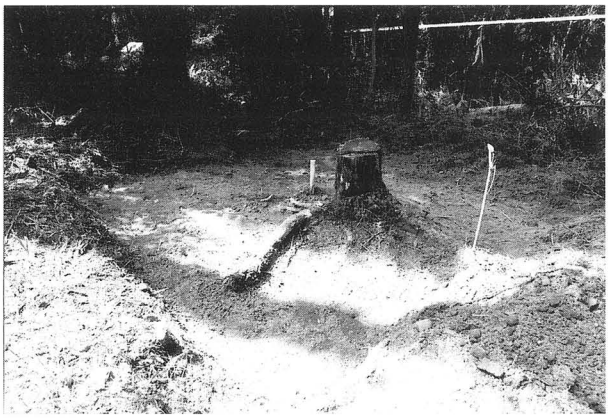


写真20　第２トレンチ完掘状況（西から）

写真21　第３トレンチ完掘状況（北から）

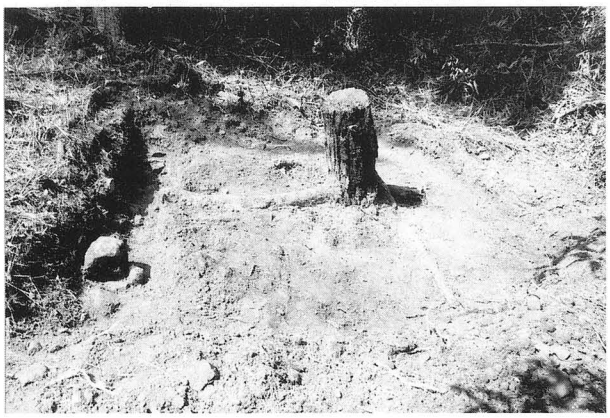


写真22　第４トレンチ完掘状況（南から）

香西東町新田地区（こうざいひがしまち しんでん）

1．調　査　地　高松市香西東町
2．調 査 期 間　平成15年７月14日
3．調査担当者　山元 敏裕
4．調査の原因　都市計画道路郷東檀紙西線街路事業
5．調査の概要

都市計画道路郷東檀紙西線予定地内において水路工事が計画されたため，工事にあわせて，立会調査を実施した。調査地周辺部は地割りが乱れていることから，旧河道であることが想定された。調査の結果，現水田層の下は青灰色砂礫が存在し，砂礫層上面において遺構は認められなかった。以上のことから，調査地における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと考えられる。

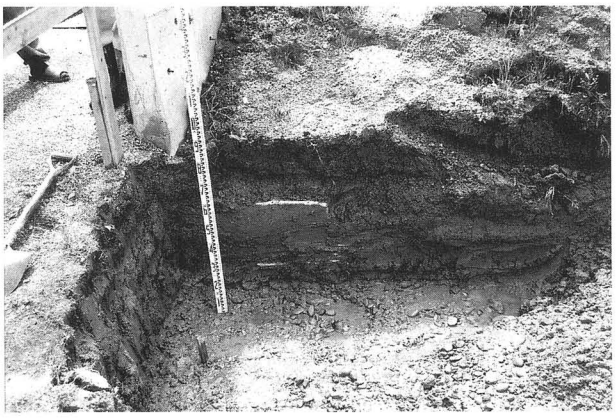


写真23 調査地土層堆積状況（西から）

第29図　香西東町新田地区調査地位置図

高松城跡（丸の内，個人住宅建設）

1．調　査　地　高松市丸の内７番３
2．調 査 期 間　平成15年８月25・26日
3．調査担当者　川畑　聰・中西克也
4．調査の原因　個人住宅建設
5．調査の概要

調査対象地は，高松城の旧大手近くにあたり，中堀の南側に位置する。このため，個人住宅建設にあたり施工者より調査協力の申し出があり，施主の了解を得た上で，立会調査を実施することになった。調査は，重機による基礎掘削部分の壁面土層観察を中心として実施した。

第30図　高松城跡（丸の内）調査地位置図

調査の結果，第２・７層上面で遺構面を確認するとともに，第８・９層上面も遺構面の可能性がある。第２層上面は，東壁において石列を検出したが，第１層が高松空襲の焦土層であることから，近代のものと考えられる。第７層上面がもっとも遺構を多く確認した遺構面で，廃棄土坑や溝（第６・12層）を確認しており，近代の第２層より下位にあることから江戸時代のものと推測される。

機械掘削中に採集できた遺物のうち，図化できたものは５点である。第31図１～３は肥前系染付碗で，１は18世紀，２・３は19世紀のものである。４は産地不明の陶器鉢で，18世紀末頃のものである。５は京信楽系陶器急須で，18世紀末頃のものである。これらの遺物が第７層上面の遺構に伴うものではないが，第７層上面が近代に近い江戸時代と推測されることから，18世紀末～19世紀を中心とする時期の可能性が指摘できる。

6．まとめ

調査対象地は，江戸時代後期の絵図を見ると「江戸長屋」と書かれている地域に該当し，高松藩の中下級武士が居住していた地域と想定される。今回検出した遺構も，18世紀末～19世紀を中心とした時期の可能性があることから，「江戸長屋」に関わるものと推定される。なお，立会調査では，掘削が及んだ部分について記録保存を図り，掘削しない部分については現状保存の措置を講じた。

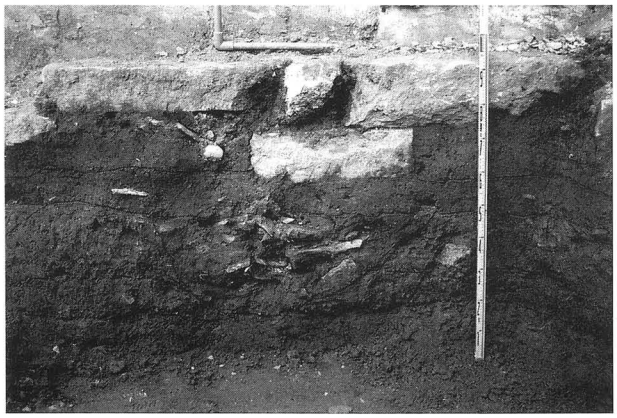
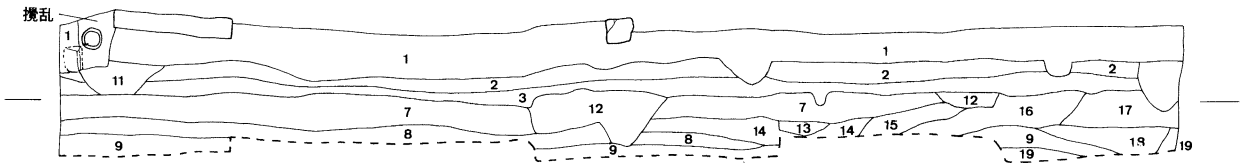
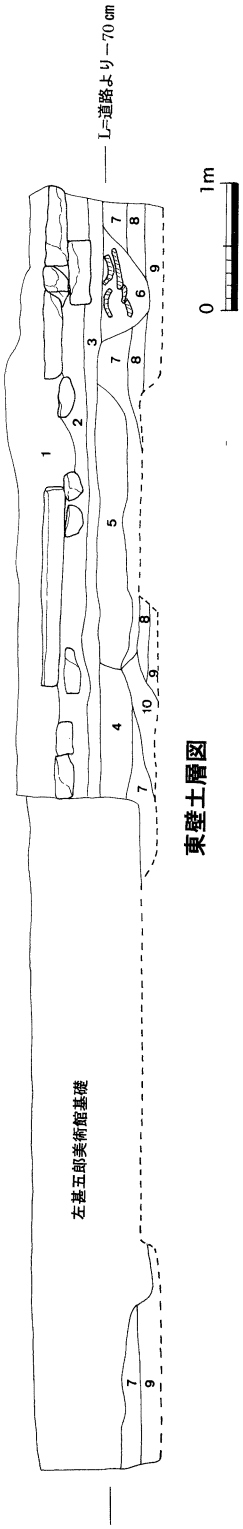
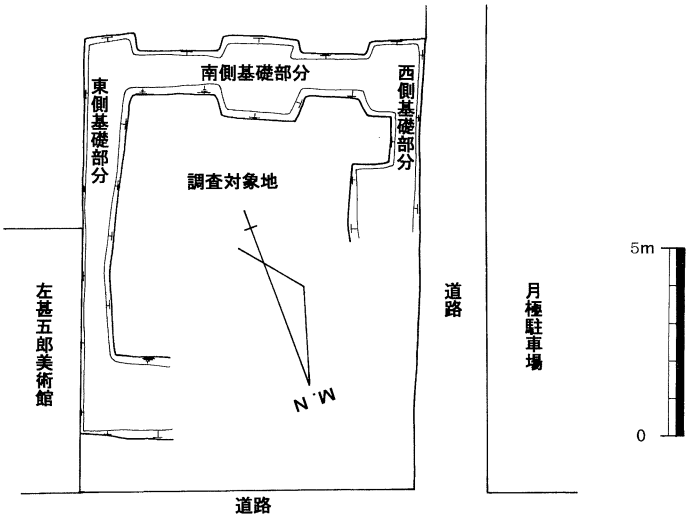


写真24　調査地東壁土層（西から）

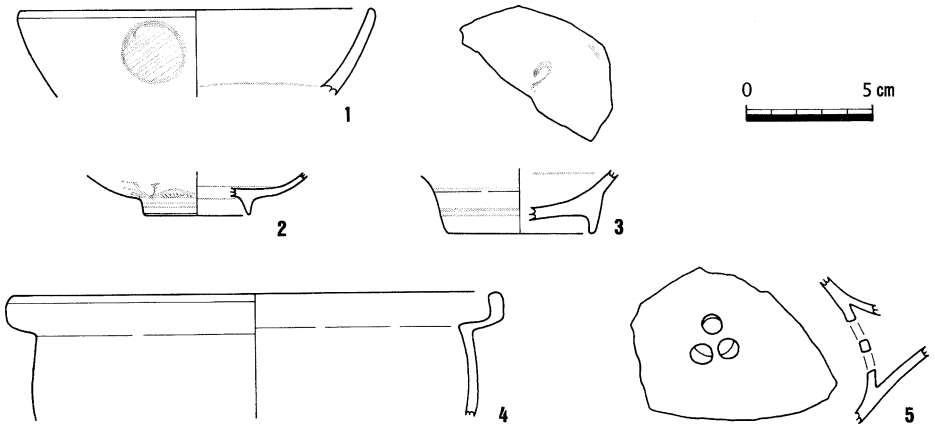
写真25　調査地南壁（北東から）







1　焦土層（第２次世界大戦，高松空襲）
2　浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/3，焦土・炭を若干含む）
3　灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/2，焦土・炭を若干含む）
4　黄灰色シルト質細砂（2.5Y6/1，小石・礫を含み粒子が粗い）
5　灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2，瓦・焦土を若干含み，ややしまりがある）
6　褐灰色シルト質極細砂＋灰黄色シルト質細砂（10YR6/1＋2.5Y7/2，瓦・土器を含む，土坑１）
7　浅黄色シルト質極細砂＋灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/4＋2.5Y7/2）
8　焦土＋にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/4，灰・炭を含む，18 世紀頃の大火）
9　黄灰色細砂＋灰黄色細砂（2.5Y6/1＋2.5Y6/2，小石を含み粒子がやや粗い）
10　灰黄色シルト質細砂（10YR6/2，焦土粒を含む）
11　黄灰色シルト質細砂（2.5Y5/1，土器・瓦を含む）
12　第６層と同じ
13　褐灰色シルト質細砂（10YR6/1，炭を若干含む）
14　淡黄色シルト質細砂（2.5Y8/4，灰黄色シルト質細砂（2.5Y7/2）を含む）
15　淡黄色シルト質細砂（5Y8/4，シルトに近い）
16　暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2，炭を含む）
17　第７層とほぼ同じだが，水分を多く含み粒子が細かい
18　黄灰色シルト質細砂（2.5Y6/1）
19　灰色シルト質細砂（5Y6/1，粒子が粗い）

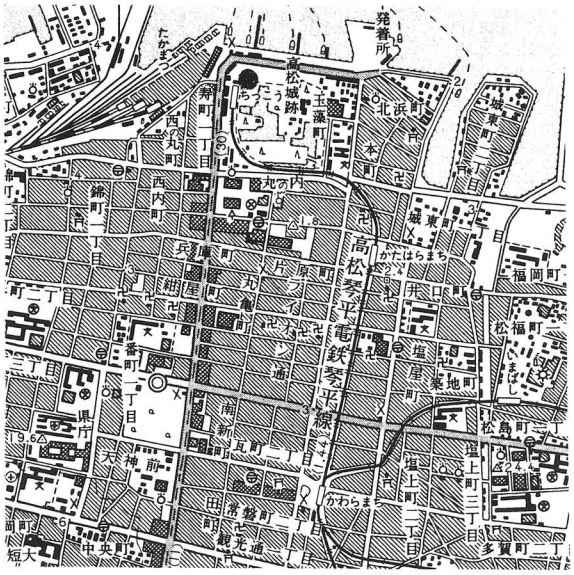


第31図　高松城跡(丸の内)調査対象地平面・土層図（縮尺1/200，1/60）及び出土遺物実測図（縮尺1/3）

史跡高松城跡（二の丸，玉藻公園西門料金所整備工事）

1．調　査　地　高松市玉藻町２番１号
2．調 査 期 間　平成15年８月26日～９月４日
3．調査担当者　川畑　聰・末光甲正
4．調査の原因　玉藻公園西門料金所整備工事
5．調査の概要

高松城は，天正15年(1587)に入封した生駒親正によって翌年より築城され，寛永19年(1642)に高松藩主となった松平頼重を初代とする松平家の居城であった。今回の調査対象地は，城内のうち，二の丸北西部である。事業主体である高松市都市開発部公園緑地課と協議を行い，香川県教委の指導を仰いだ結果，既存の料金所建物撤去後，試掘調査を実施することになった。国の現状変更申請許可を受け，ただちに着手した。



第32図　史跡高松城跡調査地位置図

調査は，新規料金所建築部分の四辺にトレンチを設定した。確認した主な土層は，表土層である第１層，漆喰を含んだ整地層である第２層，築城時の盛土と推定される第３層である。この第３層上面で平面Ｌ字形の石列を検出した。南端は調査区外に続き，東端は現代のコンクリート枠埋設によって破壊されていた。検出した長さは，南北約185㎝，東西約45㎝を測る。細長い石材を使用し，平坦面を上にして並べており，材質は安山岩と花崗岩が見られる。用途は，建物の壁を受ける基礎石として使用されていたと推測される。

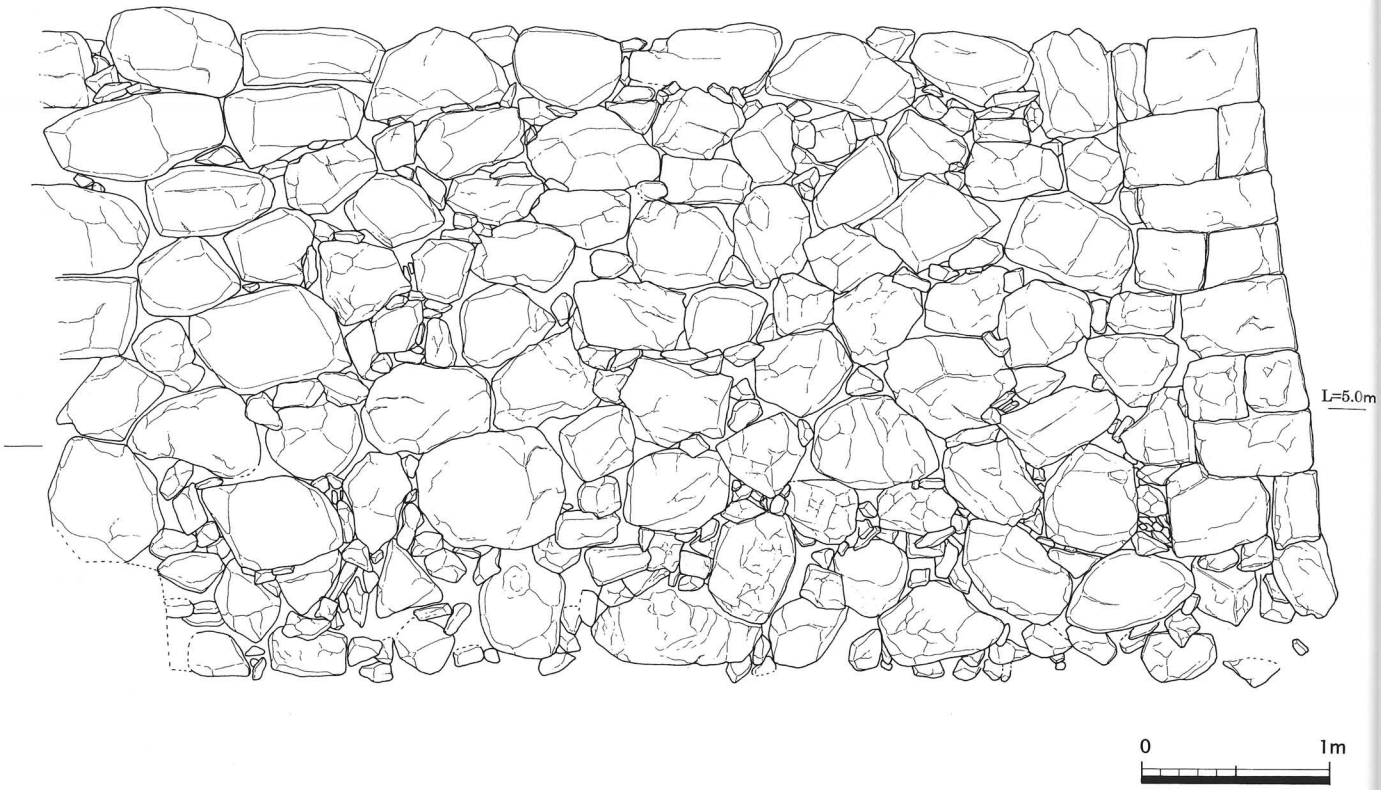
第１・２層から瓦片が，第２層より土器・陶磁器片が出土した。第３層は無遺物層であった。第２層出土瓦のうち，第37図２・４が17世紀，３が18世紀前半，５がキラコを使用していて18世紀中頃以降，６は18世紀中頃である。第１層出土瓦では，７～９・12が17世紀，10が18世紀前半，14は18世紀中頃，11がキラコを使用していて18世紀中頃以降である。一方，第２層出土の土器類では，第38図17・18は弥生土器底部で弥生後期のもの，19・20は土師質土器椀・釜で中世のもので，これらは混入品である。21・22は肥前系染付皿で18世紀頃のものである。遺物の年代から検討すると，第２層の整地層は18世紀中頃以降であり，瓦に17世紀代のものが目立っことから，石列の年代は17世紀～18世紀前半の可能性が指摘できる。

また，トレンチ調査と合わせて，トレンチに接する土塀台石垣が新規料金所建物により目視できなくなることから，石垣立面の実測作業も実施した。

6．まとめ

調査地は，17世紀中頃の「高松城下図屏風」によると，建物が集中していた場所である。「高松城下図屏風」を詳細に見ると，もっとも大きな建物の北西隣（弼櫓東隣）に白壁の小さな建物が描かれており，調査地からもっとも至近距離にあたる。しかしながら，厳密に言えば，調査地はこの建物より更に北にずれる。屏風絵と石列の年代が比較的近く，また絵画という性格を考慮した場合，屏風絵に描かれた建物の基礎が，今回検出した石列の可能性もあるが，現段階では断定はできない。

なお，石列が残っている範囲において，工事による掘削深度を浅くし，基礎と石列の間に約30㎝の保護層を確保することによって，現状保存の措置を講じた。



第33図　史跡高松城跡二の丸西側石垣実測図（トレンチ隣接部分，縮尺1/40）

写真26　調査地全景（北から）

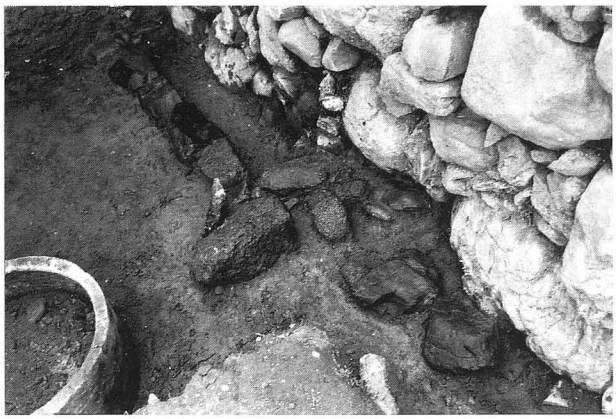
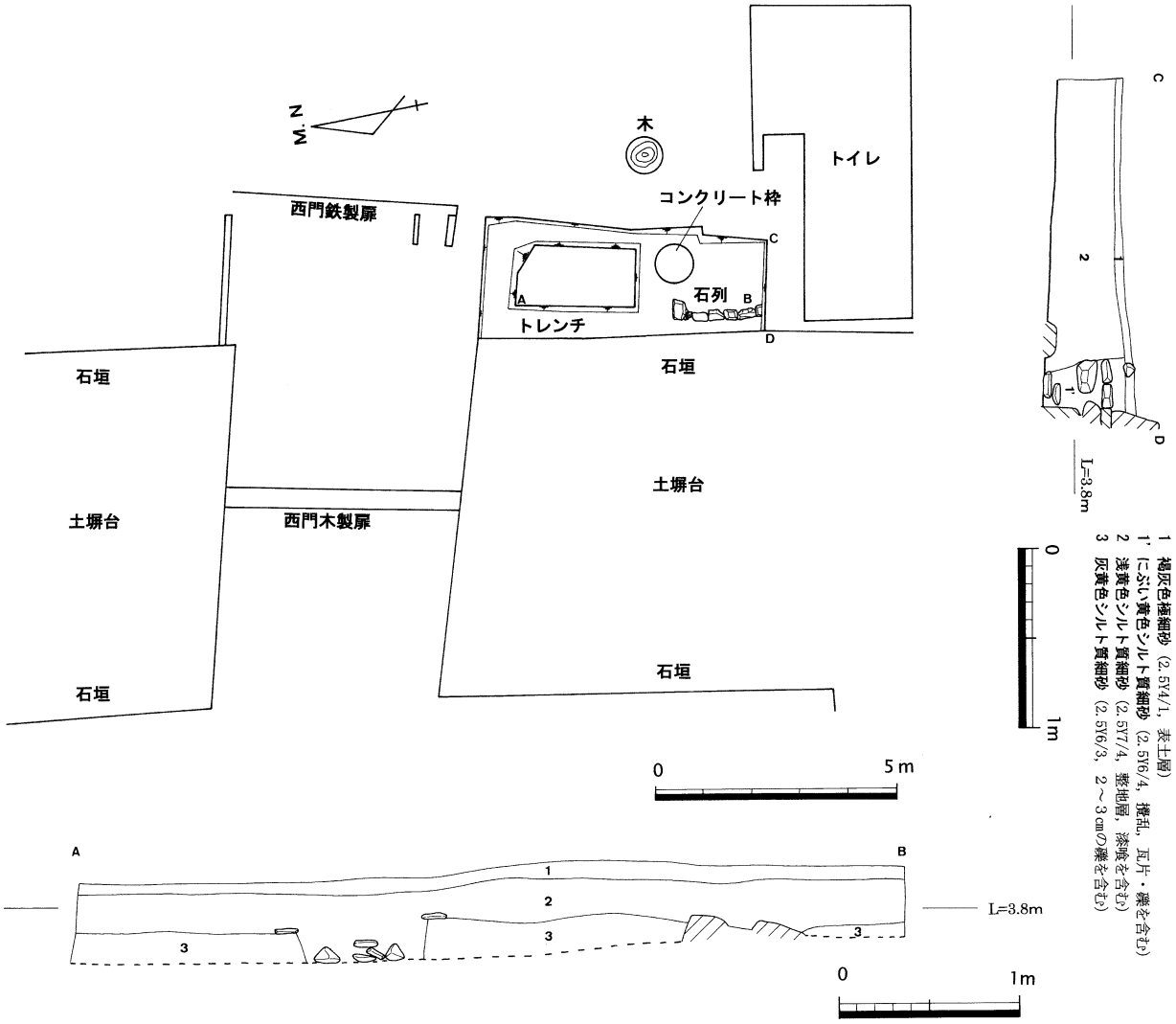


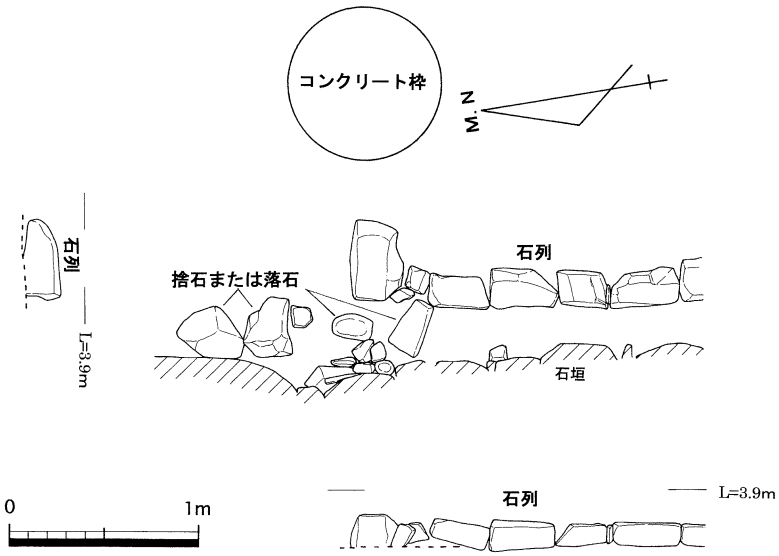
写真27　石列検出状況（北東から）

写真28　土塀台石垣（南側，東から）

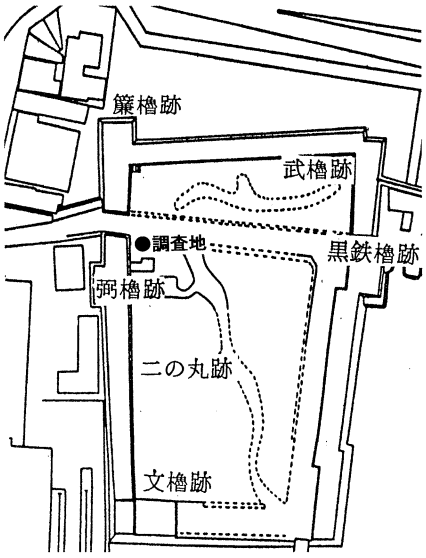
写真29　土塀台石垣（北側，東から）



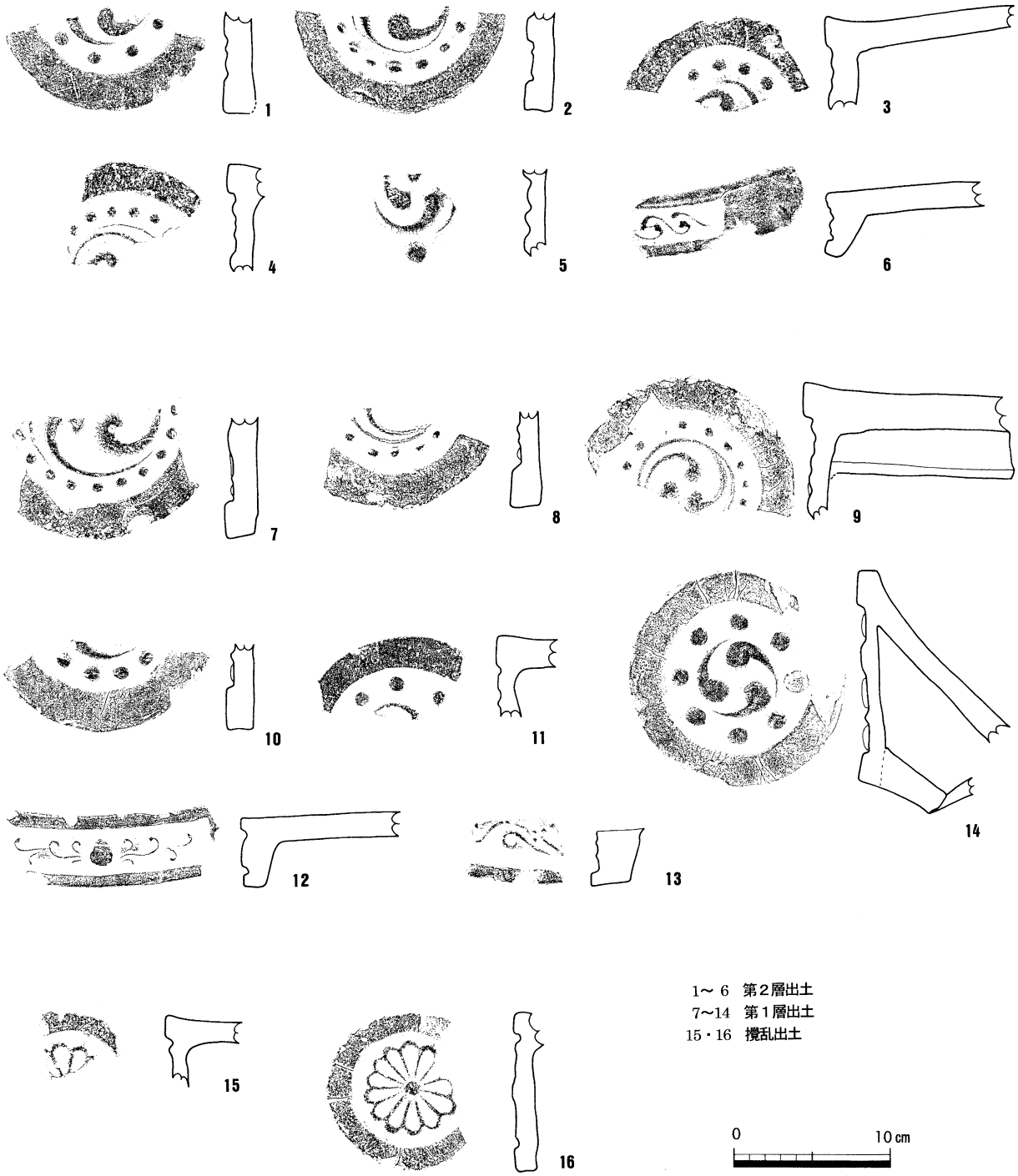
第34図　史跡高松城跡トレンチ配置・土層図（縮尺1/150，1/40）



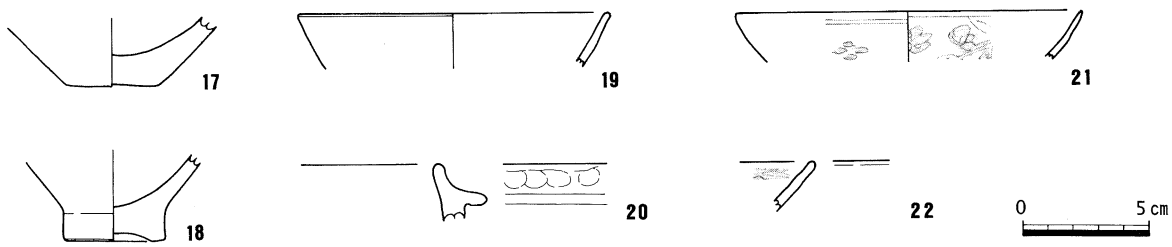
第35図　石列平面・立面図（縮尺1/40）



第36図　史跡高松城跡平面図（縮尺1/2,000）



第37図　史跡高松城跡第1・2層及び撹乱出土瓦実測図（縮尺1/4）



第38図　史跡高松城跡第2層出土遺物実測図（縮尺1/3）

高松城跡（たかまつじょうあと）（丸の内，再生水管布設工事）

1．調　査　地　高松市丸の内
2．調 査 期 間　平成15年８月18日～９月22日
3．調査担当者　川畑　聰
4．調査の原因　再生水管布設工事
5．調査の概要

調査対象地は，高松城の旧大手近くにあたり，中堀と外堀に挟まれた武家屋敷跡地に該当する。このため，事業主体である高松市土木部下水道建設課と協議し，立会調査を実施することになった。調査は，幅約90㎝・延長約330ｍを重機掘削するのに伴い，必要に応じて掘削壁面の土層観察及び遺物の採集を実施した。その結果，江戸時代～近代の整地層と埋甕・廃棄土坑（第13’・20層）を確認した。ただし，高松空襲や既埋設管の撹乱が多く，遺構の残存状況は良くなかった。

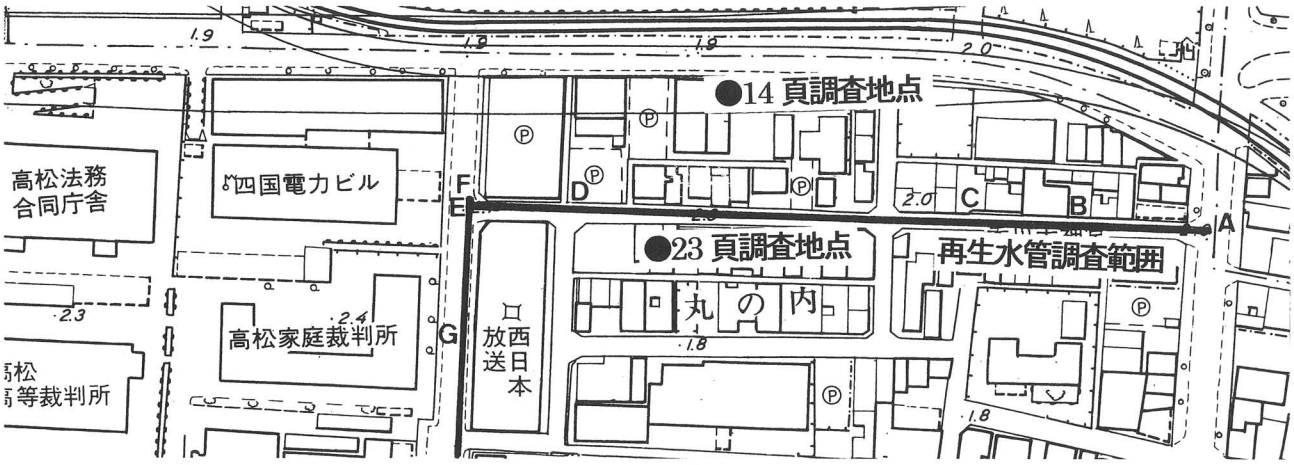
写真30　東西掘削部分東端付近検出埋甕

出土遺物のうち層別に採集できたのは，東西道路東地区の第５層出土の第41図１～３と南北道路第12層出土の４である。１は肥前系染付碗で18世紀中頃，２は瓦質土器釜，３は土師質土器，４は肥前系染付蓋付段箱で18世紀末のものである。以下は，出土層位は不明だが，地点ごとに採集したものである。５は肥前系染付碗，６は中国景徳鎮窯産染付，７は刷毛目唐津の陶器碗，８は唐津の呉器手碗である。９・10は肥前系染付碗である。11～15は肥前系染付碗・蓋・壷，16・17は京信楽焼系陶器碗・急須，18は瀬戸美濃系陶器鉢である。19～21は肥前系青磁染付碗・蓋，22は京信楽焼系陶器皿，23は瀬戸美濃系陶器植木鉢である。24～27は肥前系染付碗である。28・29は肥前系染付碗，30は京信楽焼系陶器碗である。31～33は肥前系染付碗・青磁染付蓋，34・35は京信楽焼系陶器碗，36は瀬戸美濃系陶器碗，37は中国産青磁（？）である。38～40は肥前系染付碗・紅猪口・皿，41は瀬戸美濃系陶器鎧茶碗，42は土師質土器の焼塩壷である。

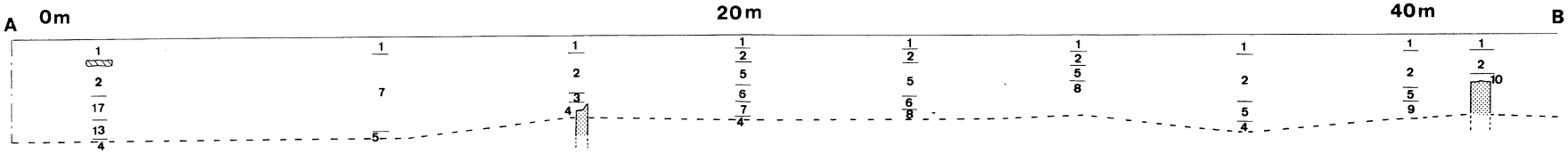
6．まとめ

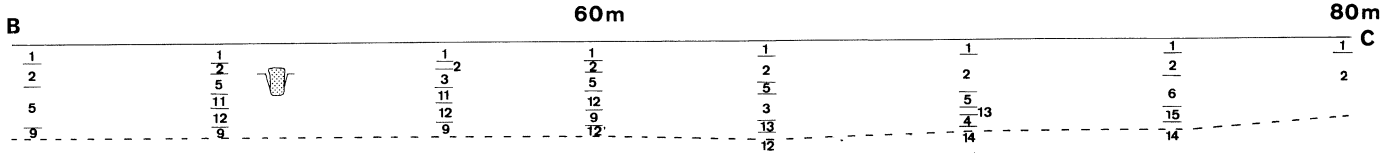
調査対象地は，『弘化年間高松城下絵図』によれば，東側は「常諦院君御殿前御屋敷ト云」西側は「江戸長や」の記述が見られ，武家屋敷が存在していたことが知られており，今回の調査で検出した整地層や遺構も，武家屋敷に伴う遺構である可能性がある。

なお，再生水管布設工事中の立会調査であるため，掘削壁面の土層図作成及び写真撮影といった記録保存の保護措置を図った。

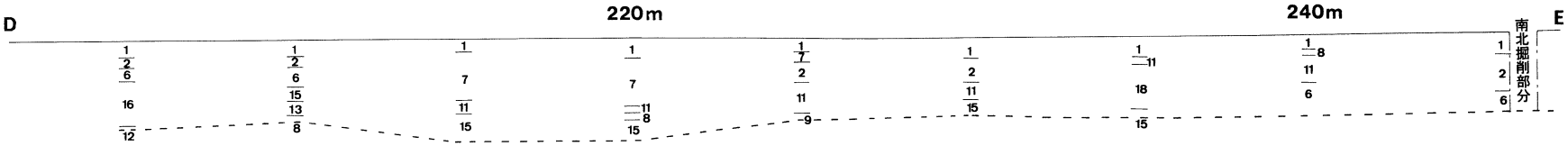


第39図　高松城跡（丸の内再生水管布設工事）調査地位置図（縮尺1/2,500）

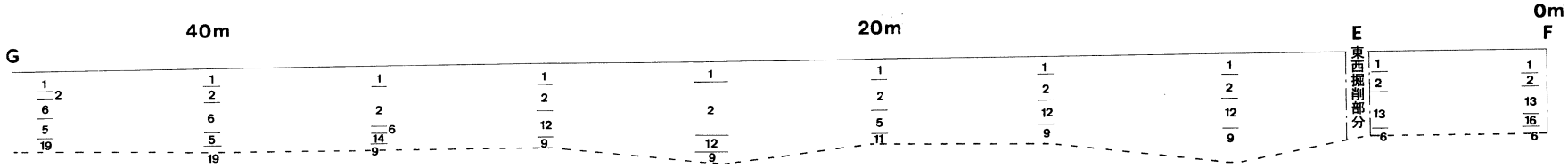




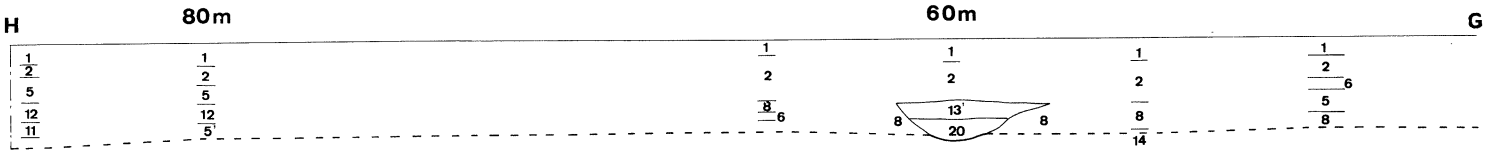
【東西道路掘削土層図】



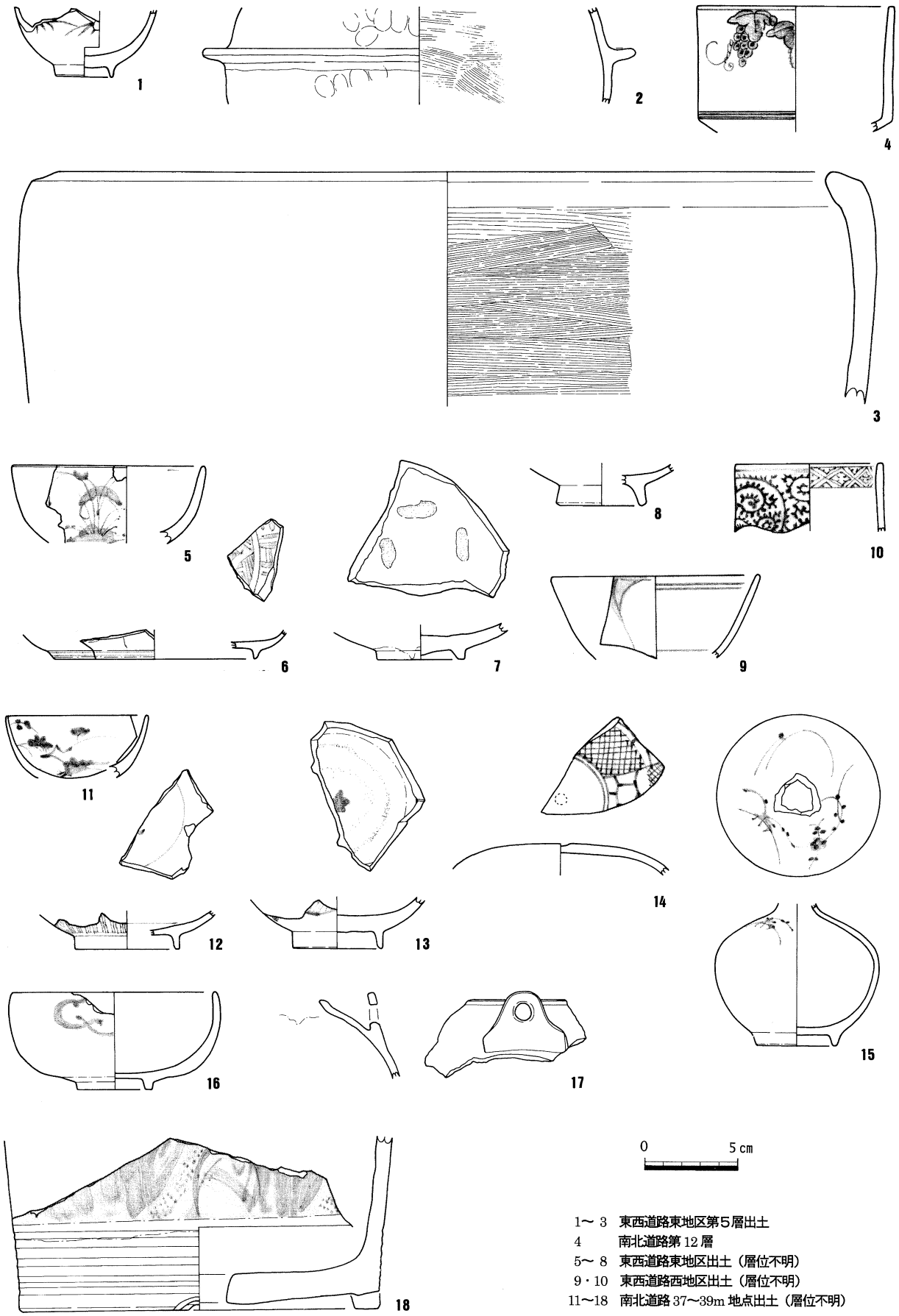
1 アスファルト＆砂利敷
2 攪乱（焼土・レンガ片・瓦片・石を多く含む）
3 暗黄褐色細砂
4 暗灰色シルト質極細砂
5 暗黄褐色シルト質極細砂
5' 暗黄褐色シルト質極細砂（炭含む）
6 暗茶褐色シルト質極細砂
6' 暗茶褐色シルト質極細砂（瓦多く含む）
7 花崗土
8 灰褐色細砂
9 灰褐色シルト質極細砂
9' 灰褐色シルト質極細砂（礫含む）
10 暗灰色細砂
11 茶褐色シルト質極細砂
12 黄褐色細砂
12' 黄褐色細砂（礫含む）
13 暗灰褐色細砂
13' 暗灰褐色細砂（焼土・瓦多く含む）
14 黄褐色シルト質極細砂
15 暗灰褐色シルト質極細砂
16 暗茶褐色細砂
17 黄灰色細砂
18 茶褐色細砂～礫（10㎝大の丸石多く含む）
19 黄褐色シルト質極細砂
20 黒褐色細砂（焼土・瓦多く含む）



【南北道路掘削土層図】

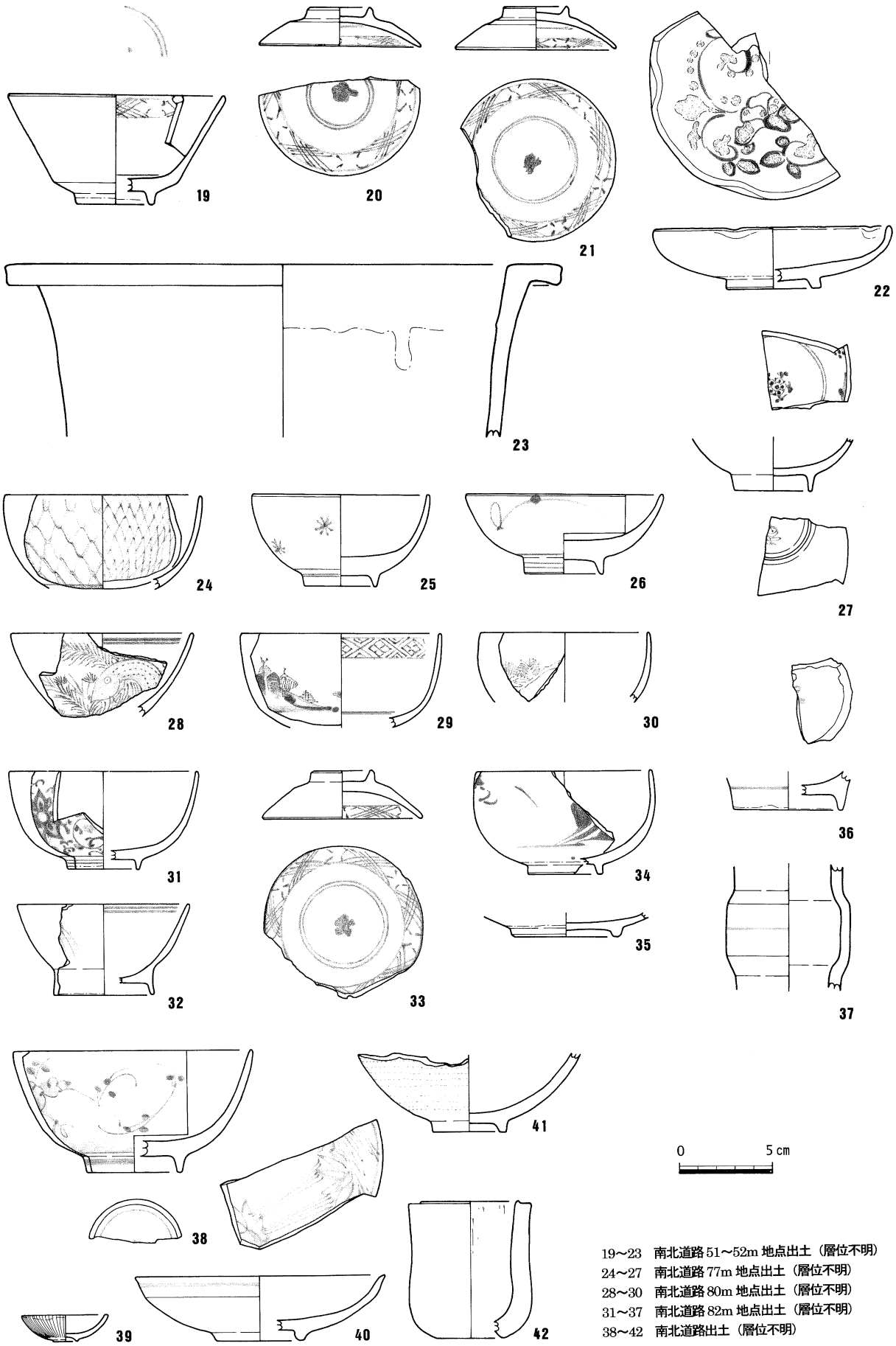


第40図　高松城跡（丸の内再生水管布設工事）土層図（横1/200，縦1/100）



1～3　東西道路東地区第5層出土
4　南北道路第12層
5～8　東西道路東地区出土（層位不明）
9・10　東西道路西地区出土（層位不明）
11～18　南北道路37～39m地点出土（層位不明）

第41図　高松城跡（丸の内再生水管布設工事）出土遺物実測図①（縮尺1/3）

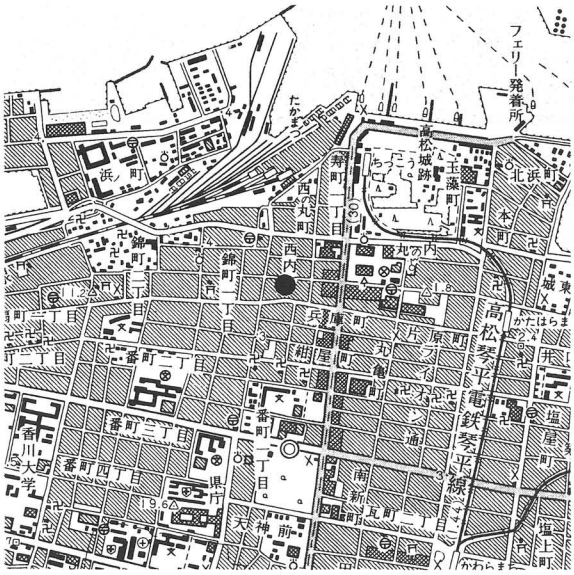


19～23　南北道路 51～52m 地点出土（層位不明）
24～27　南北道路 77m 地点出土（層位不明）
28～30　南北道路 80m 地点出土（層位不明）
31～37　南北道路 82m 地点出土（層位不明）
38～42　南北道路出土（層位不明）

第42図　高松城跡（丸の内再生水管布設工事）出土遺物実測図②（縮尺1/3）

高松城跡（外堀，西内町，共同住宅建設）

1．調　査　地　高松市西内町
2．調 査 期 間　平成15年10月８・９日
3．調査担当者　大嶋和則
4．調査の原因　共同住宅建設
5．調査の概要



第43図　高松城跡(西内町)調査地位置図

調査地は高松城跡の外堀部分にあたり，共同住宅建設予定地の東端と西端に石垣が想定された。工事による掘削は現地表面下1.6m程度で，堀底には影響がないことから，石垣部分の調査のみを実施した。

第１調査地点は建設地の東端にあたる。コンクリート等により塗り固められた状態ではあったが，約10mにわたって石垣を検出した。石垣は３つに分けられる。まず，石垣１は調査区の東端で検出した石垣で，最も残りが良い。松の丸太を横に置き，その上部に石積みを行っている。花崗岩の切石を使用し，石の面は西を向き，最も残りの良い部分では３段の石積みが認められる。また，石垣２は石垣１の50cm西側で検出した石垣で，石垣１同様，松の丸太を横に置き，その上部に石積みを行っている。花崗岩の切石を使用し，石の面は東を向いており，１段のみ石積みが残っている。なお，石垣２を背面から支えるような松の丸太が約1.1m間隔で認められた。石垣１と石垣２の底面はほぼ同レベルであり，松の丸太の上に石垣を構築している共通点があり，石垣１と石垣２の間には質の悪いコンクリートが敷設されている。このことから，石垣１と石垣２を両側壁とする幅50cmの溝（SD1）と考えられる。SD１の埋土は３層に分層でき，ラミナ状の堆積が認められ，植物遺存体が見られた。出土遺物は瀬戸美濃系磁器の碗（４）が１点見られた。近現代のものと考えられる。

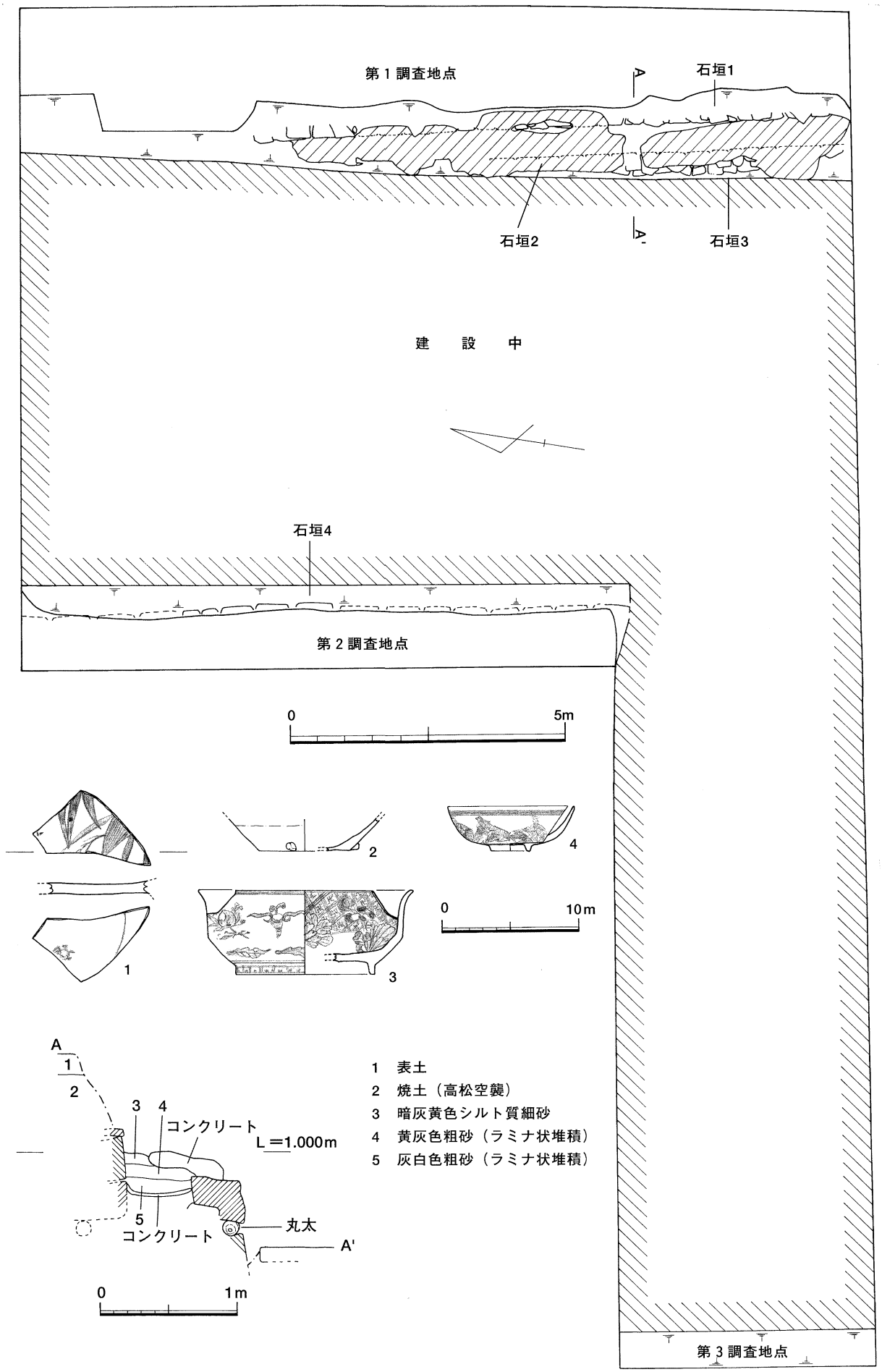
また，石垣２に伴う松の丸太の下部において石垣３を検出した。石垣２の下部であるが，安山岩の自然石を使用し，面を西に向け並べており，上部の石垣とは一見して異なることがうかがえる。現地表面下1.6mまでしか工事を行わないため，今回掘削した深さにおいては最上段の１段しか検出していない。検出位置から，外堀の東肩の可能性が考えられる。なお，石垣前面から肥前系磁器皿（１），肥前系磁器鉢（３），京信楽系陶器土瓶（２）が出土しており，概ね18世紀後半から19世紀のものと考えられる。

第２調査地点は建設地の中央にあたる。ここで石垣４を検出した。石垣４は安山岩の自然石を使用し，面を東に向け並べている。石垣３同様，今回掘削した深さにおいては最上段の１段しか検出していない。なお，石垣４の背面には外堀埋土と考えられる黒褐色粘土層が認められ，この石垣が外堀内に作られた施設であることがうかがえる。

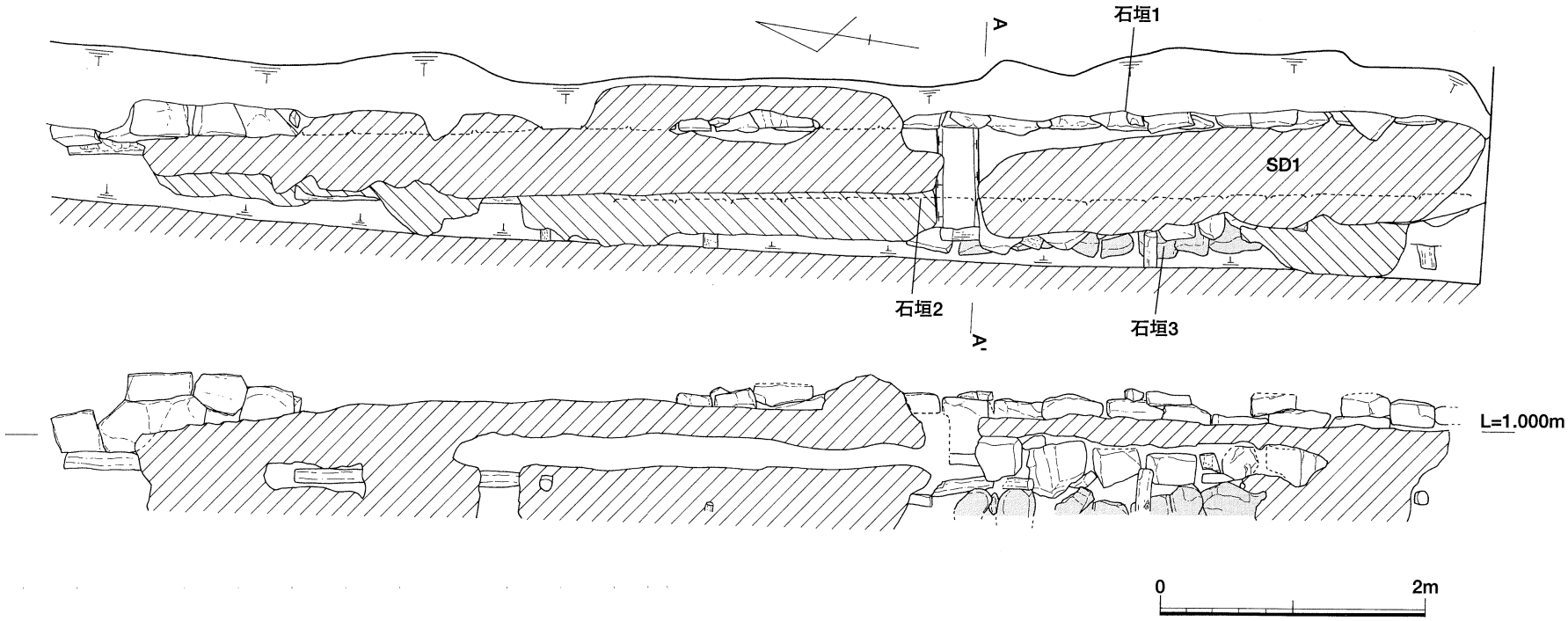
第３調査地点は建設地の西端にあたる。ここでは外堀西肩の石垣の検出が予想されたが，石材は１点も見られなかった。掘削部分の断面では暗褐色から黒褐色の粘土層が続いており，この地点がまだ外堀内であることがうかがえた。

6．まとめ

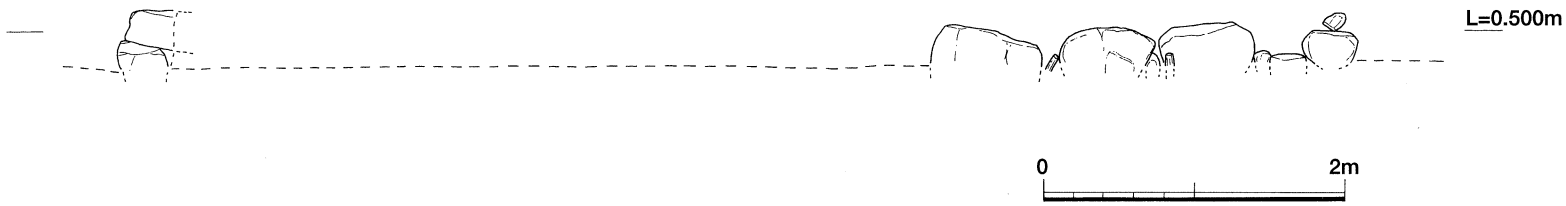
高松城の外堀は江戸時代の絵図等と現在の地形の比較から，今回の調査地の東西が概ね堀の東西端になると考えられる。明治15年の地図『讃岐高松市街細見新図』によると，高松城の外堀の外側半分が埋め立てられていることがうかがえる。『讃岐高松市街細見新図』は縮尺があいまいで，わかりにくいが，同様の事実を示すものとして，明治28年の地図『高松市街明細全図』がある。江戸時代の絵図においては外堀の外側が道路であるのに対し，これらの地図によると外堀と道路の間に宅地と考えられる区画が認められる。このた



第44図　高松城跡（西内町）平面・断面図（縮尺1/100，1/40）及び出土遺物実測図（縮尺1/4）



第45図　高松城跡（西内町）第１調査地点平面・立面図（縮尺1/50）



第46図　高松城跡（西内町）第２調査地点石垣４立面図（縮尺1/50）

め，外堀の外側が埋め立てられた時期が明治元年から明治15年の間であったことがうかがえる。なお，大正10年の地図『高松市街全図』によると外堀は東浜港を残し，完全に埋め立てられていることがうかがえる。このことから，明治28年から大正10年の間に外堀の内側半分が埋められたこととなる。

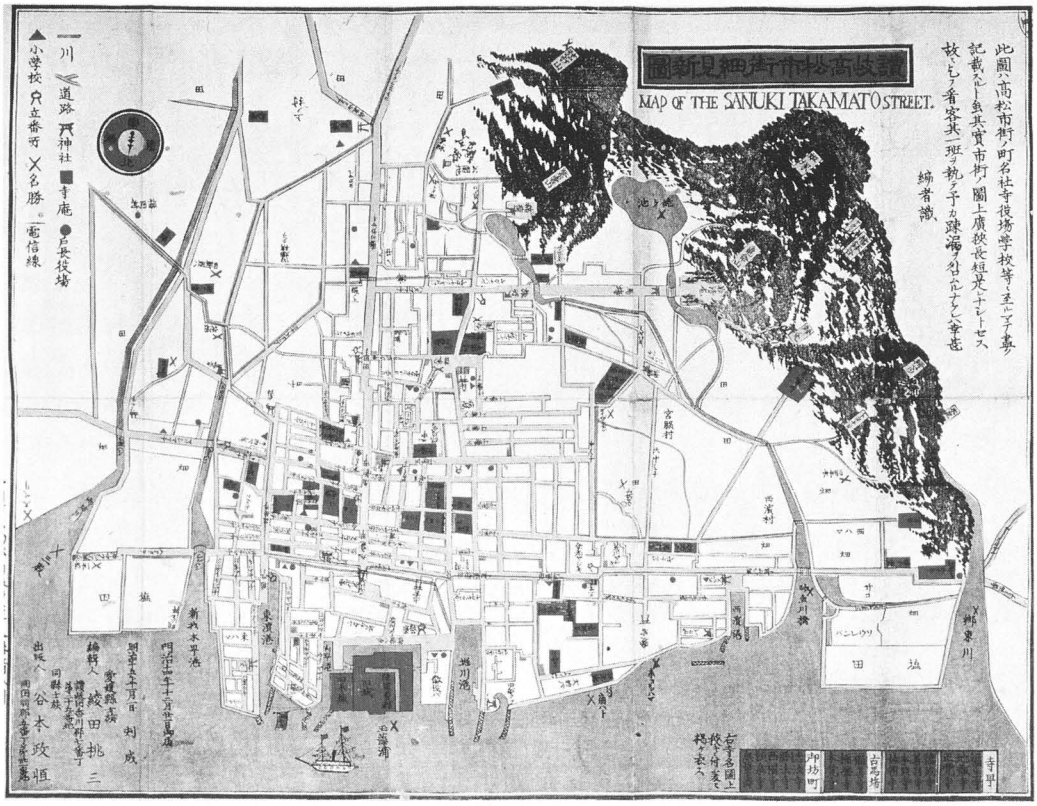
発掘調査で検出した石垣３は外堀東肩推定位置とほぼ同位置であり，石垣の前面から江戸時代の陶磁器が出土していることからも，外堀東肩と考えるのが妥当である。一方，調査地西端では堀の埋土と考えられる粘土層が認められ，外堀西肩は調査範囲の西側に位置すると考えられる。このことから外堀の幅は21m以上と考えられる。また，第２調査地点で検出した石垣は『讃岐高松市街細見新図』や『高松市街明細全図』から明治元～15年に埋め立てられた際の石垣と考えられる。石垣１・２で構成されるSD１は外堀東肩石垣に重なって存在することから，堀の埋め立て時に作られたと考えられる。このため，『高松市街全図』からSD１は明治28～大正10年に作られたものと推定できる。SD1の石垣の最上段の石材が被熱を受けていることと，その上部には高松空襲時の焦土層が認められることからSD１の廃絶は昭和20年と考えられる。

写真31　第１調査地点石垣（西から）

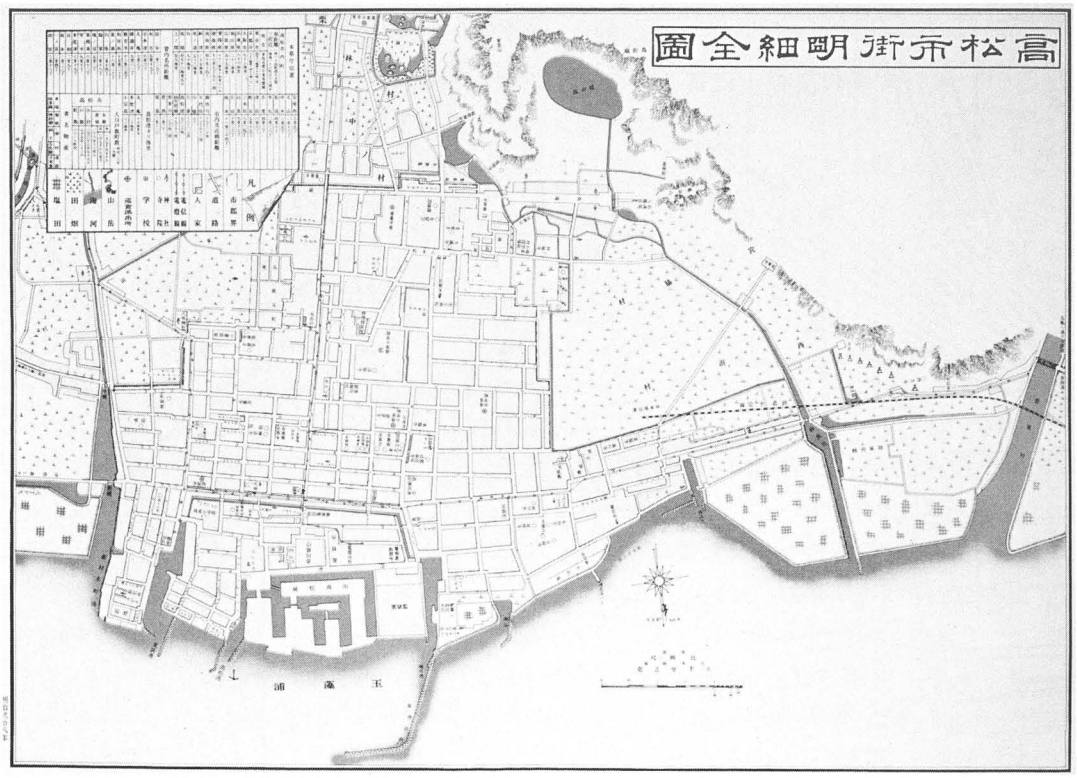
写真32　明治28年～大正10年頃の溝

写真33　石垣下部木材

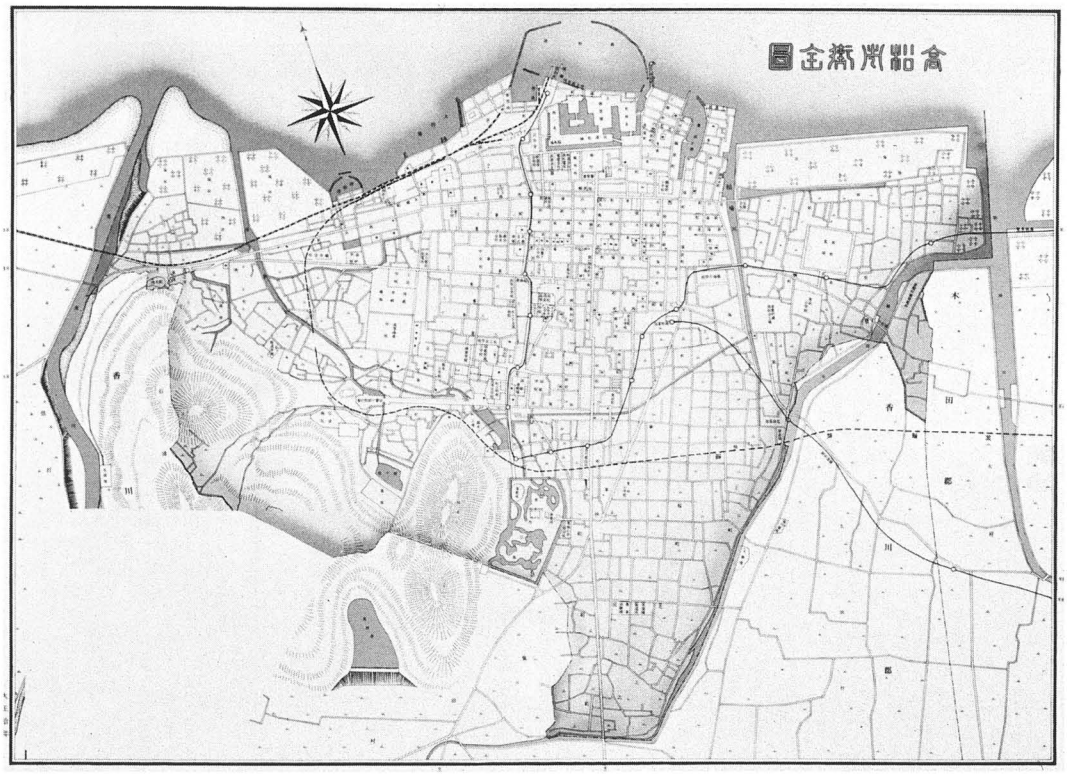
写真34　第２調査地点石垣



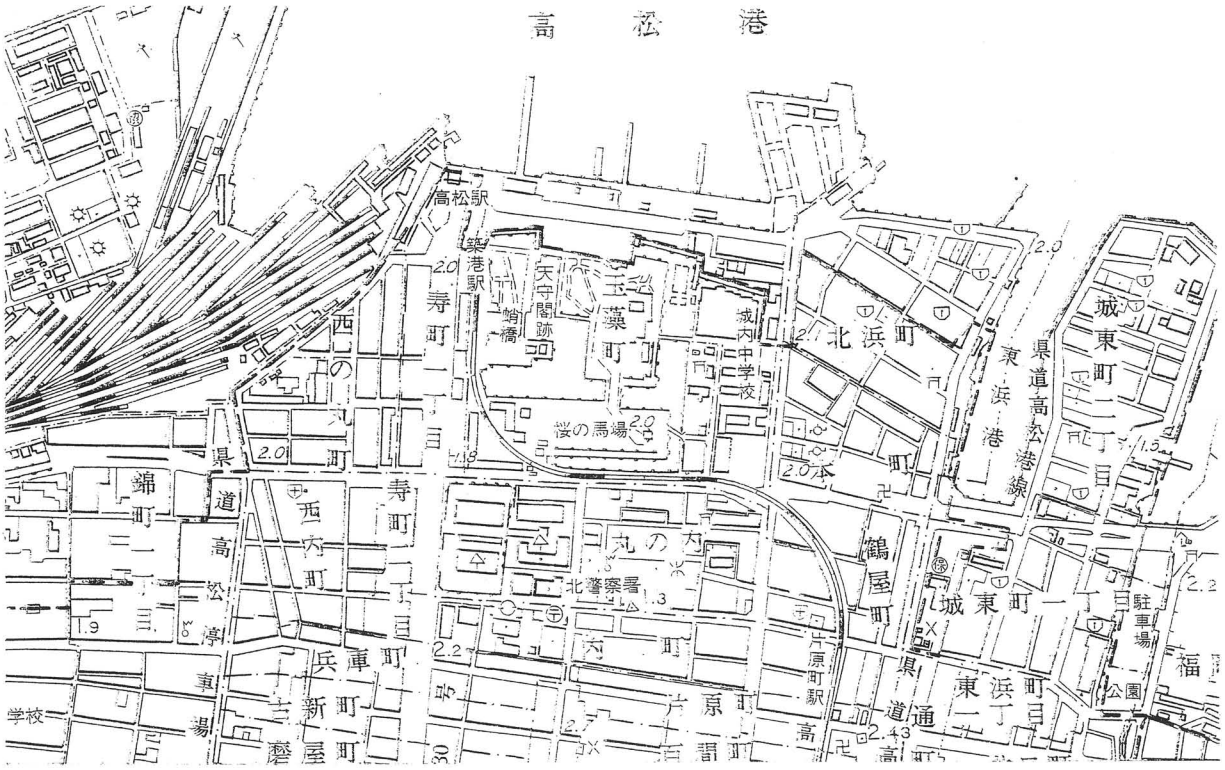
第47図　『讃岐高松市街細見新図』　明治15年



第48図　『高松市街明細全図』　明治28年



第49図　『高松市街全図』　大正10年



第50図　『都市計画図』　昭和63年

高松城跡（鶴屋町，共同住宅建設）

1．調　査　地　高松市鶴屋町９番３
2．調 査 期 間　平成15年10月８・９日
3．調査担当者　川畑　聰・末光甲正
4．調査の原因　共同住宅建設
5．調査の概要

調査対象地は，高松城外堀内側の南東隅に位置する。このため，土地所有者である高松琴平電気鉄道株式会社と高松市教委は協議を行い，土地所有者の任意協力により試掘調査を実施することになった。

調査は，共同住宅建設予定範囲のうち四隅に南北方向のトレンチ（幅1．5ｍ×長さ10ｍ）を設定した。各トレンチの概要を説明する。

第51図　高松城跡（鶴屋町）調査地位置図

【南西トレンチ（第53図）】　近代の池状遺構（第５・７層）をトレンチのほぼ全域で確認した。ただし，池状遺構はトレンチ北端で岸となって終わっている。池状遺構から１～９の遺物が出土している。１～４は染付鉢・碗で，19世紀末～20世紀のものである。５～７は，土師質の浮具である。８・９は須恵器甕で，古墳時代～古代のものである。

【南東トレンチ（第54図）】　室町時代の遺物包含層（第13層）を確認したが，遺物の出土量は少ない。江戸時代においては，土層堆積から窪地だった可能性があり，その上に整地層が認められる。第11層から１の土師質土器鍋が，第13層から２の土師質土器釜，３の備前焼甕が出土しており，14～15世紀のものである。

【北西トレンチ（第55図）】　室町時代の遺物包含層（第５層）と江戸時代の整地層（第３・４層）・石組を検出した。石組はトレンチ北端で検出したもので，乱雑に30㎝～１ｍの石が置かれていた。出土遺物のうち，１は第５層出土の土師質土器釜で14～15世紀のもの，２は第３層出土の肥前系染付碗で18世紀末のもの，３・４は石組周辺出土の肥前系染付碗で18世紀末～19世紀のものである。

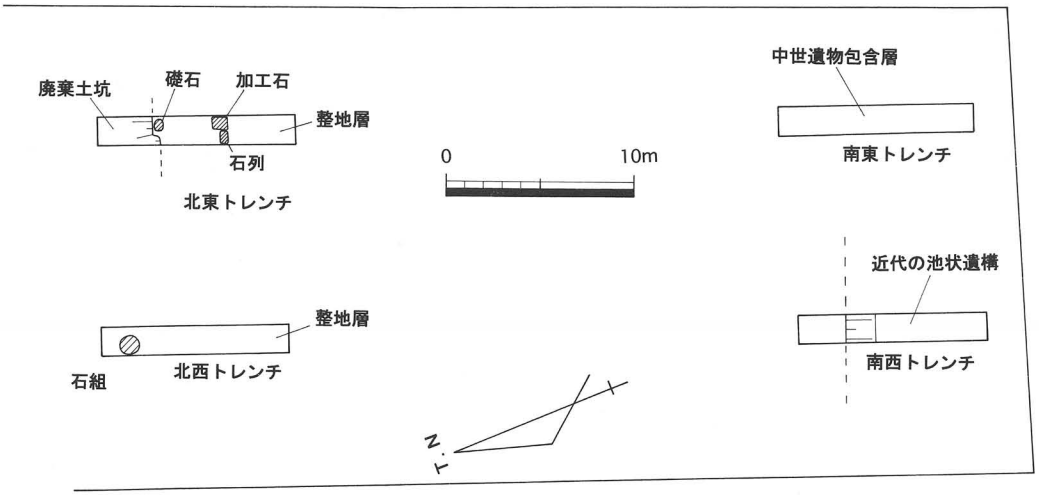
【北東トレンチ（第56図）】　江戸時代の整地層（第４・５層）とともに，廃棄土坑（第７層）・礎石や石列といった遺構を検出した。廃棄土坑上面から数多くの遺物が出土した。１～４は肥前系染付碗・香炉，５は京焼風陶器輪花碗，６・７は京信楽焼系の小杉茶碗・注口，８は産地不明陶器徳利，９は瀬戸美濃系陶器瓶掛，10・11は富田焼の可能性がある陶器鉢，12は土師質土器急須蓋である。これらの遺物は，おおむね18世紀末のものである。

6．まとめ

【絵図との比較】　17世紀中頃の『高松城下図屏風』や18世紀前半の『享保年間高松城下絵図』では，調査地は「吉田藤右衛門」の名が見られるように家臣の屋敷地であり，外堀が調査地南側に入り込んでいたか隣接していたと考えられる。19世紀中頃の『弘化年間高松城下絵図』では，外堀が埋め立てられ「東町奉行役所」となっており，以来この地割が明治時代まで続く。以上のことより，南東トレンチで確認した窪地は，外堀に由来または関係する可能性（浅瀬等）が考えられる。また，北西・北東トレンチで確認した整地層・遺構は，屋敷または奉行所に伴う可能性が指摘できる。

【調査後の措置】　南トレンチ設定範囲は，近代の池があり，中世遺物包含層も出土量が少ないため，保護措置の必要はないと考えられる。一方，北トレンチ設定範囲は，江戸時代の整地層・遺構を確認しており，保護措置が必要と考えられる。また，南北トレンチの間については，南西トレンチで池状遺構の岸が確認されていること，北トレンチでは整地層が南に続いていること，江戸時代後期に奉行所が設置されていたこと

を考慮すると，遺構が確認できる可能性が指摘できる。



第52図　高松城跡（鶴屋町）トレンチ配置図（縮尺1/400）

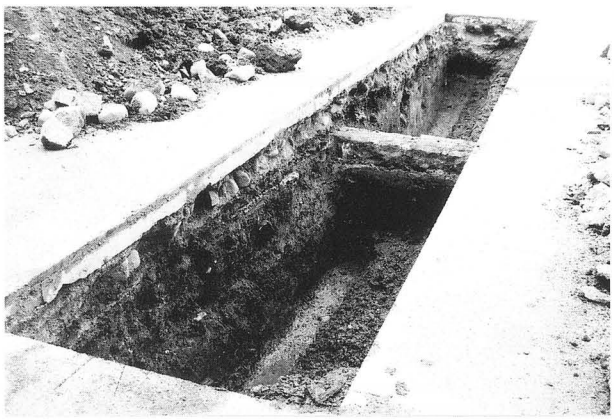


写真35　南西トレンチ全景（南東から）

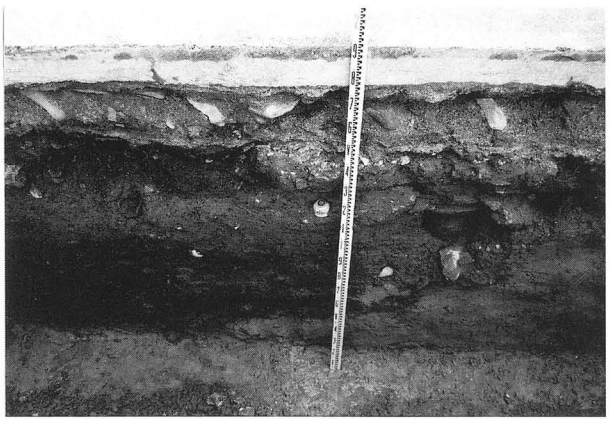


写真36　南西トレンチ西壁土層（東から）

写真37　南東トレンチ全景（南から）

写真38　南東トレンチ東壁土層（西から）

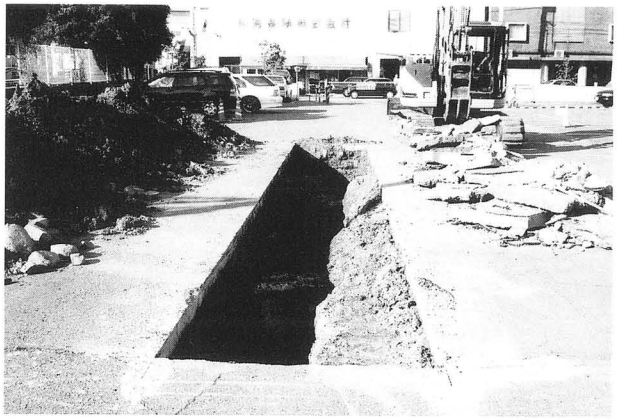


写真39　北西トレンチ全景（南から）

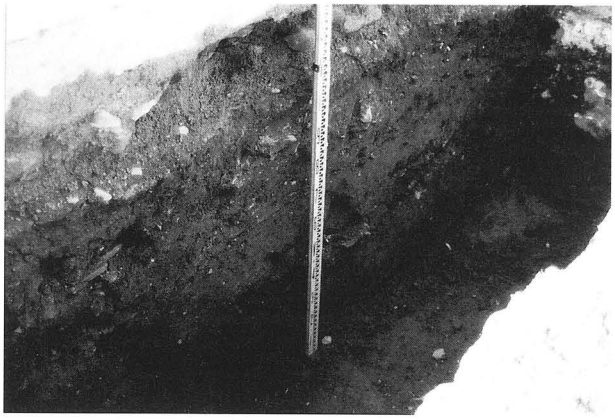


写真40　北西トレンチ西壁土層（南東から）

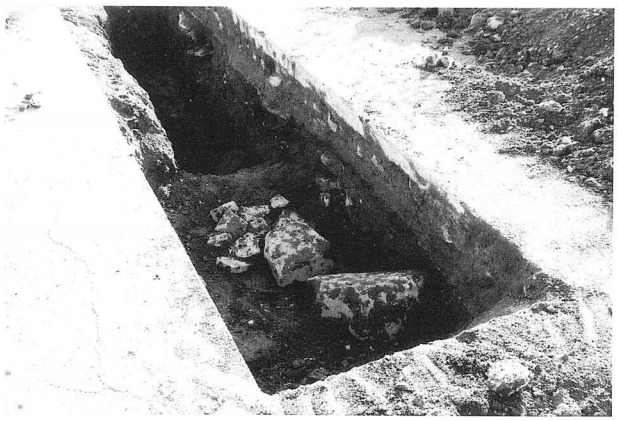


写真41　北西トレンチ石組検出状況（北東から）

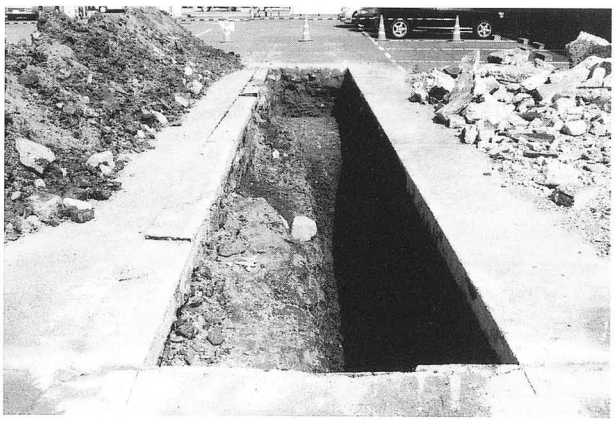


写真42　北東トレンチ全景（南から）

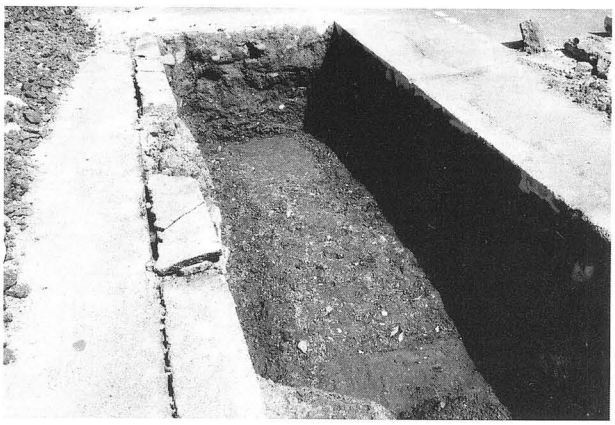


写真43　北東トレンチ廃棄土坑検出状況（南から）

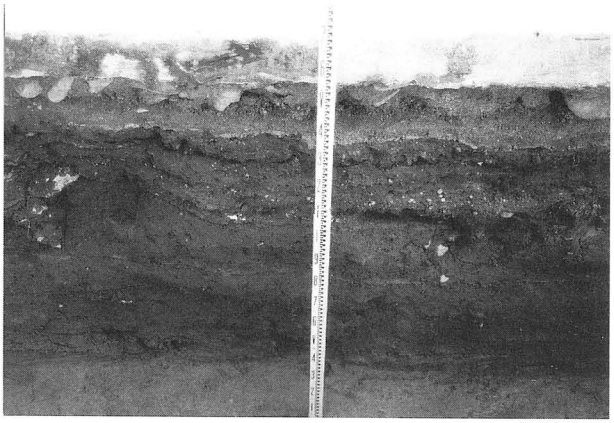


写真44　北東トレンチ東壁土層（西から）

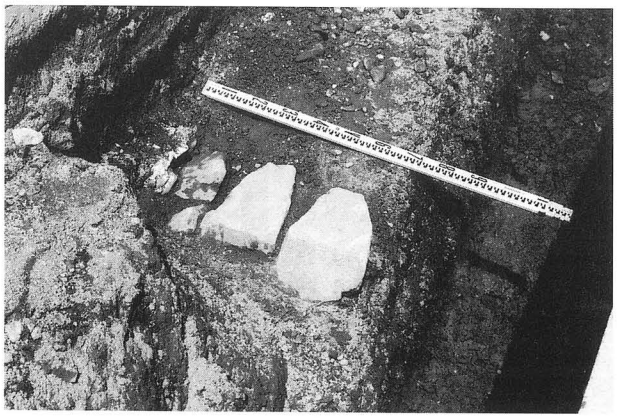


写真45　北東トレンチ石列検出状況（南から）

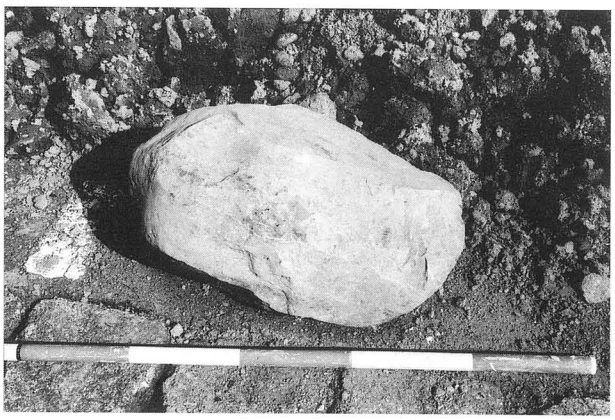
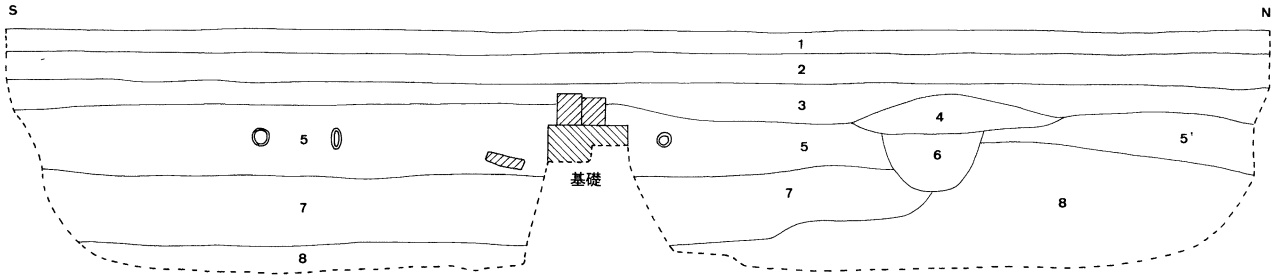


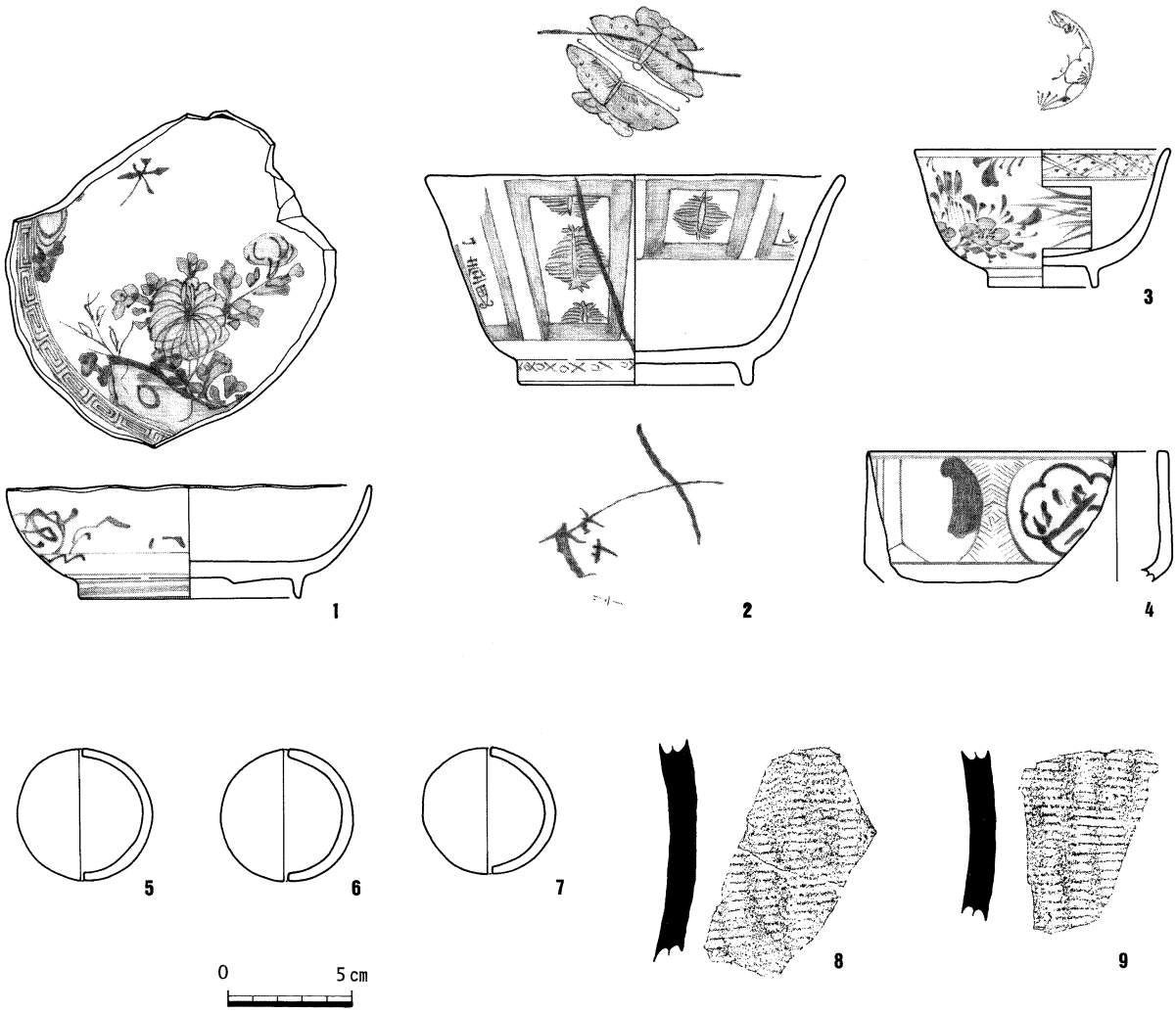
写真46　北東トレンチ出土礎石



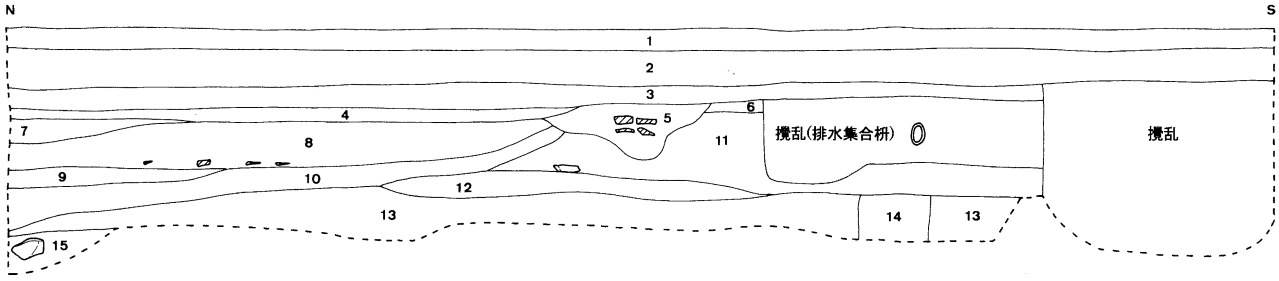
南西トレンチ土層名

1 アスファルト＆コンクリート
2 栗石＆花こう土（コンクリートの支持層）
3 高松空襲焦土層
4 褐色細砂（10YR4/6，埋甕被覆土）
5 にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/3）
5' にぶい黄色シルト質細砂（2.5Y6/4）
6 埋甕
7 暗緑灰色シルト質極細砂（10GY4/1，ヘドロ層，近代の池状遺構）
8 灰色細砂（7.5Y5/1，地山）～にぶい黄橙色細砂（10YR6/3）

0 1m



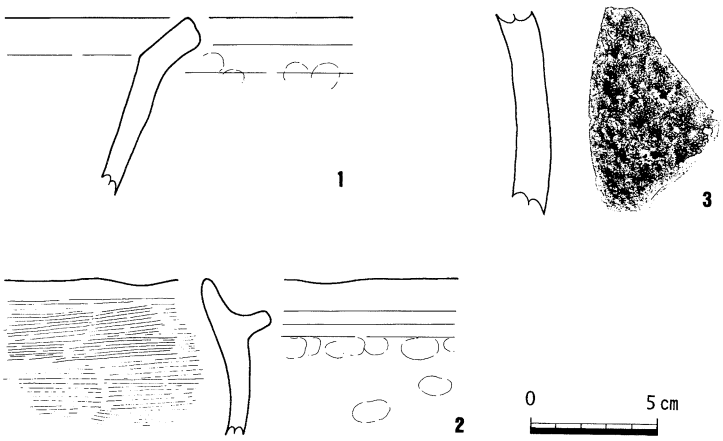
第53図　高松城跡（鶴屋町）南西トレンチ土層図（縮尺1/60）及び出土遺物実測図（縮尺1/3）



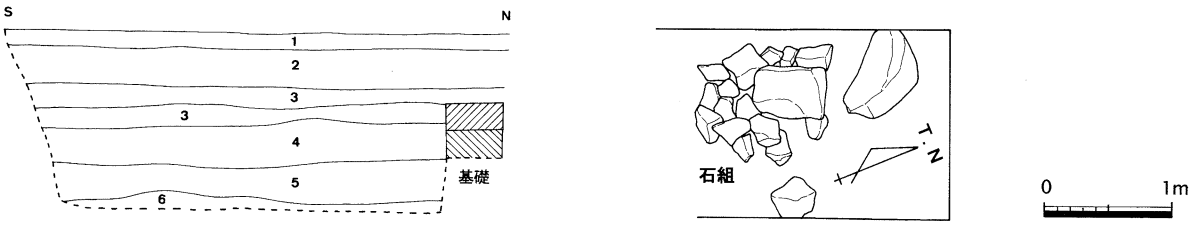
0　1m

南東トレンチ土層名

1 アスファルト&コンクリート
2 栗石&花こう土（コンクリートの支持層）
3 高松空襲焦土層
4 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2）
5 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2，石粱片を含む）
6 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2）
7 浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4）
8 灰オリーブ色シルト質細砂（5Y5/2）
9 灰黄色シルト質細砂（2.5Y6/2）
10 灰色シルト質細砂（5Y5/1）
11 黄褐色シルト質細砂（2.5Y5/4）
12 灰色シルト質細砂（7.5Y4/1）
13 浅黄色シルト質細砂（2.5Y7/4，中世遺物包含層）
14 灰色シルト質細砂（5Y4/1）
15 オリーブ黒色シルト質細砂（10Y3/1，有機物質含む）

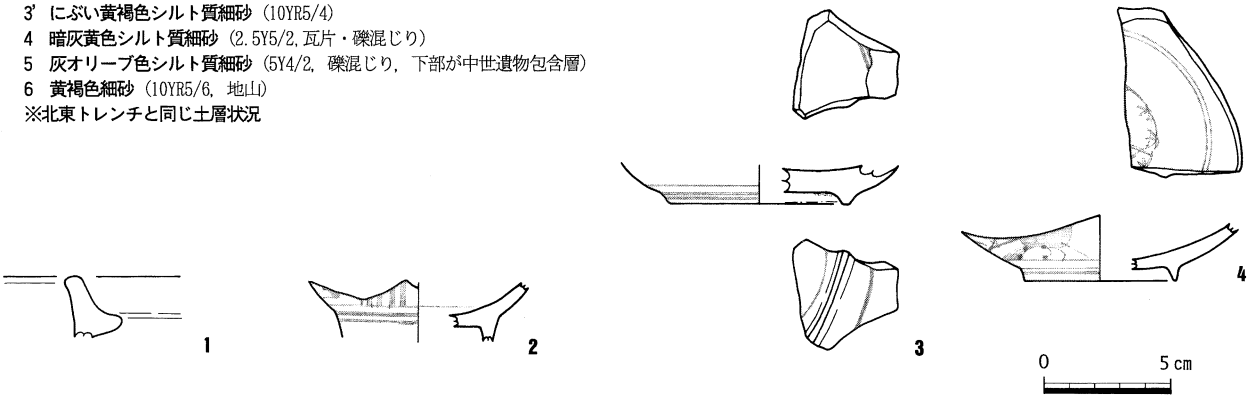


第54図　高松城跡（鶴屋町）南東トレンチ土層図（縮尺1/60）及び出土遺物実測図（縮尺1/3）

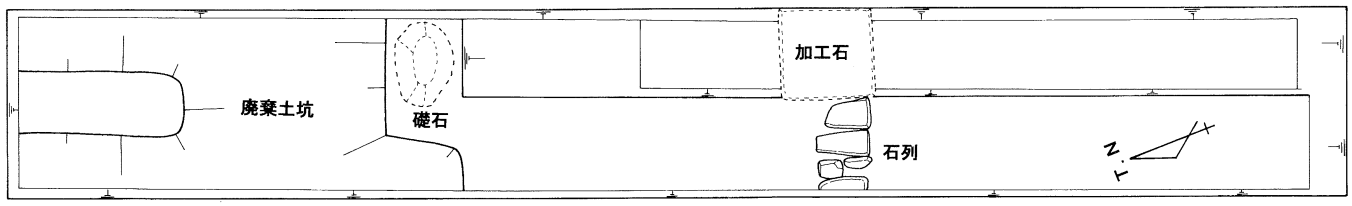


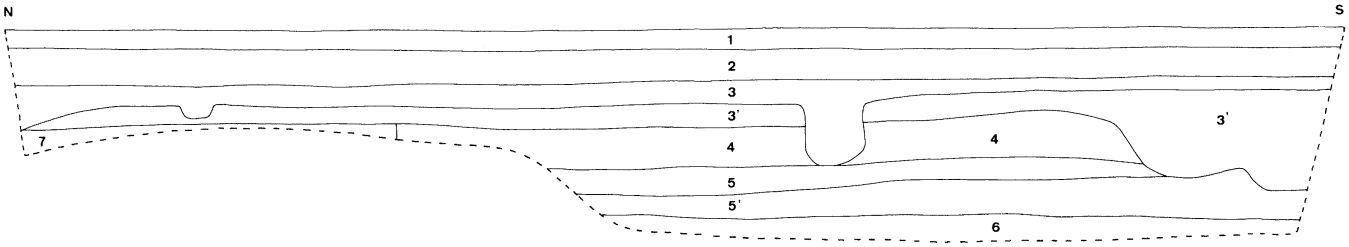
北西トレンチ土層名

1 アスファルト&コンクリート
2 栗石&花こう土（コンクリートの支持層）
3 高松空襲焦土層
3' にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/4）
4 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2，瓦片・礫混じり）
5 灰オリーブ色シルト質細砂（5Y4/2，礫混じり，下部が中世遺物包含層）
6 黄褐色細砂（10YR5/6，地山）
※北東トレンチと同じ土層状況



第55図　高松城跡（鶴屋町）北西トレンチ平面・土層図（縮尺1/60）及び出土遺物実測図（縮尺1/3）

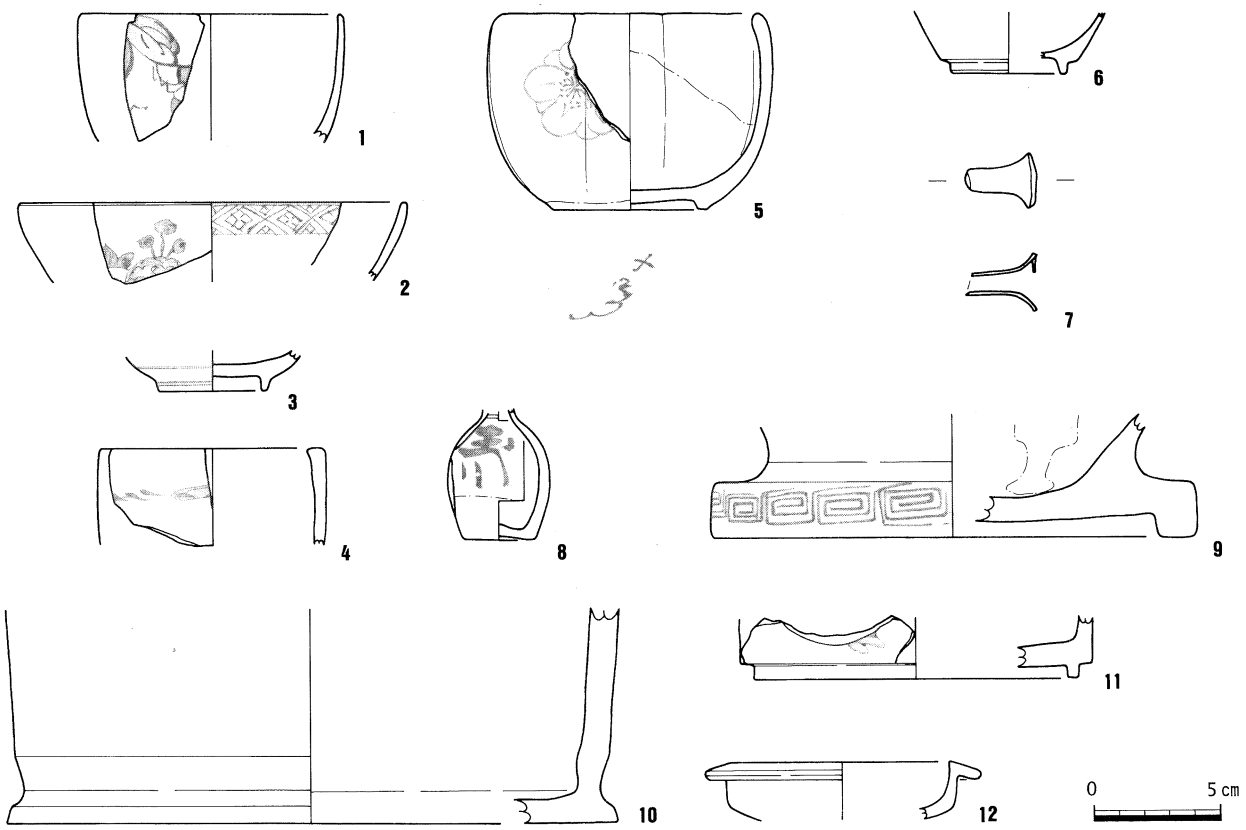




北東トレンチ土層名

1 アスファルト＆コンクリート
2 栗石＆花こう土（コンクリートの支持層）
3 高松空襲焦土層
3' にぶい黄褐色シルト質細砂（10YR5/4）
4 暗灰黄色シルト質細砂（2.5Y5/2, 瓦片・礫混じり）
5 灰オリーブ色シルト質細砂（5Y4/2, 礫混じり）
5' オリーブ黒色シルト質細砂（5Y3/1, 中世遺物包含層）
6 黄褐色細砂（10YR5/6, 地山）
7 黒褐色シルト質細砂（10YR3/1, 廃棄土坑）
※北西トレンチと同じ土層状況

0 1m



第56図　高松城跡（鶴屋町）北東トレンチ平面・土層図（縮尺1/60）及び出土遺物実測図（縮尺1/3）

高松城跡（丸の内，共同住宅建設）

1．調　査　地　高松市丸の内６番18
2．調 査 期 間　平成15年11月12日～19日
3．調査担当者　山元敏裕・中西克也
4．調査の原因　共同住宅建設
5．調査の概要

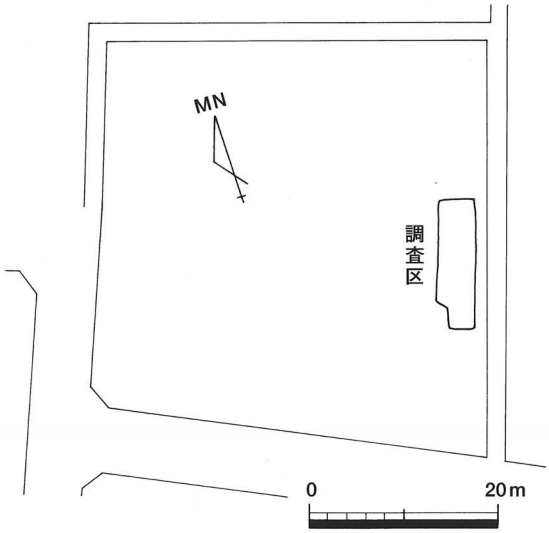
（1）調査の経緯

調査対象地は，高松城跡の中堀と外堀に挟まれた旧城内にあたり，埋蔵文化財包蔵地である可能性が想定された。このため，土地所有者である日本たばこ産業株式会社と高松市教委は協議を行い，土地所有者の任意協力により立会及び試掘調査を平成14年度に実施した。その結果，既存建物の建築範囲は埋蔵文化財が存在しないが，それ以外については包蔵地であることが確認された。これを受けて，日本たばこ産業株式会社から土地を購入した穴吹興産株式会社は，既存建物建築範囲に共同住宅を建設する計画を立てた。しかしながら，設計上，既存建物建築範囲からはみ出す部分が生じるため，穴吹興産株式会社と高松市教委で協議を行った結果，はみ出す部分について試掘調査を実施することになった。

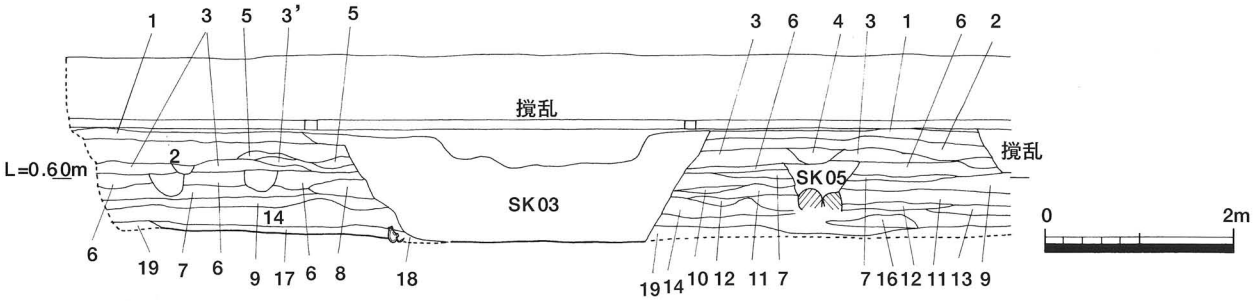
（2）調査の概要と基本層序（第58・59図）

調査範囲は南北方向に長い長方形を呈し，南北14.4ｍ，東西4ｍを測る。現地表から0.8ｍの深さの花崗土を重機で取り除いた後に，人力による遺構検出を行った。しかし，調査区の大部分は既存建物に

第57図　高松城跡（丸の内）調査地位置図



第58図　調査区設定図（縮尺1/800）



1 黄灰色極細砂（2.5Y 6/1）
2 灰黄色極細砂（2.5Y 6/2）
3 淡黄色細～粗砂＋灰黄色細砂（5Y 8/3＋2.5Y7/2）
4 灰黄色＋黄灰色細砂（2.5Y7/2＋2.5Y6/1）
5 灰黄色極細砂（2.5Y 6/2焼土粒を含む）
6 灰黄褐色細砂（10YR 6/2）
7 灰白色細砂（5Y 8/1）
8 灰黄色＋黄灰色細砂（2.5Y7/2＋6/1）
9 灰白色＋淡黄色細砂（5Y 7/1＋2.5Y8/3）
10 褐灰色極細砂（10YR5/1焼土粒を若干含む）
11 灰白色細砂（2.5Y7/1）
12 灰白色粗砂（2.5Y8/1）
13 灰白色細砂（7.5Y8/2）
14 黄灰色＋灰白色細砂（2.5Y6/1＋5Y 7/1）
15 褐灰色シルト質極細砂（10YR5/1 粘性強い）
16 灰白色細～粗砂（7.5Y8/1）
17 褐灰白色シルト質極細砂（10YR4/1粘性強い）
18 灰色細～粗砂（10Y6/1）
19 灰色細砂（7.5Y6/1固くしまる）

第59図　高松城跡（丸の内）東壁土層図（縮尺1/80）

よる撹乱を受けており，遺構検出ができたのは南壁から約４ｍ～７ｍ及び北東隅の長さ約３ｍで幅約１ｍの範囲のみであった。

土層は調査区の東壁で作成したが，南端から3.5ｍは撹乱のため図化しなかった。土層は21層に細分され，ほぼ水平な堆積をなしている。確認された遺構面は４面あり，第１面は淡黄色細～粗砂＋灰黄色細砂の第３層上面，第２面は灰黄褐色細砂の第６層上面，第３面は灰白色細砂の第11層上面，第４面は灰色細砂の第14層上面である。標高は第１面が0.9ｍ前後，第２面が0.7～0.8ｍ，第３面が0.5ｍ前後，第４面が0.1ｍである。

（３）遺構・遺物

第１面

ＳＫ－０１（第60・61図）

調査区南側で検出した楕円形の土坑であり，南側はコンクリート基礎により消失している。長径180㎝，深さ約20㎝を測る。埋土は２層に分層でき，断面形態は逆台形である。

出土遺物のうち，１はミニチュアの陶器，２は珉平焼磁器蓋，３は染付蓋，４は染付碗，５は染付皿である。６～17は屋島焼の陶器で，６は段鉢，７は徳利，８～11は蓋，12は両耳付鍋，13は片手付片口鍋，14～17は土瓶である。18は軟質施釉陶器急須，19は瀬戸美濃系陶器ねり鉢，20は瓦質土器焙烙である。時期は，幕末～明治時代のものと考えられる。

ＳＫ－０２（第60・62図）

調査区北東隅で検出した円形の土坑であり，西側は既存建物による撹乱を受けて消失している。現存部の径は170㎝，深さ10㎝を測る。埋土は単層で，断面形態は浅い逆台形である。

出土遺物のうち，21は染付杯，22は染付徳利，23は陶器行平の柄，24は軒丸瓦である。21は18世紀後半のものだが，23は明治時代のものであり，SK-01と同じ時期と考えられる。

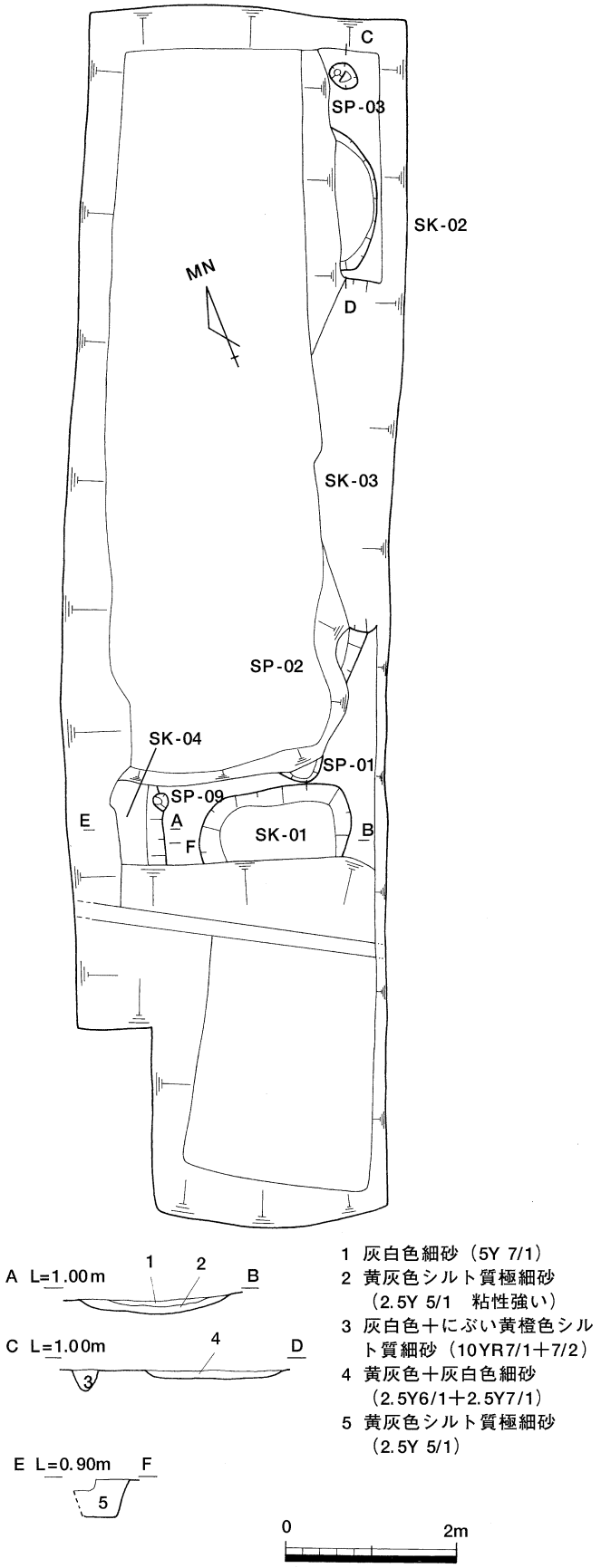
ＳＫ－０３（第60・62図）

調査区東壁中央で検出した土坑である。直径は4.42ｍ，深さは1.15ｍを測り，断面形態は逆台形を呈する。埋土中には多量の土器・瓦・礫があり，焦土・灰層も含まれている。

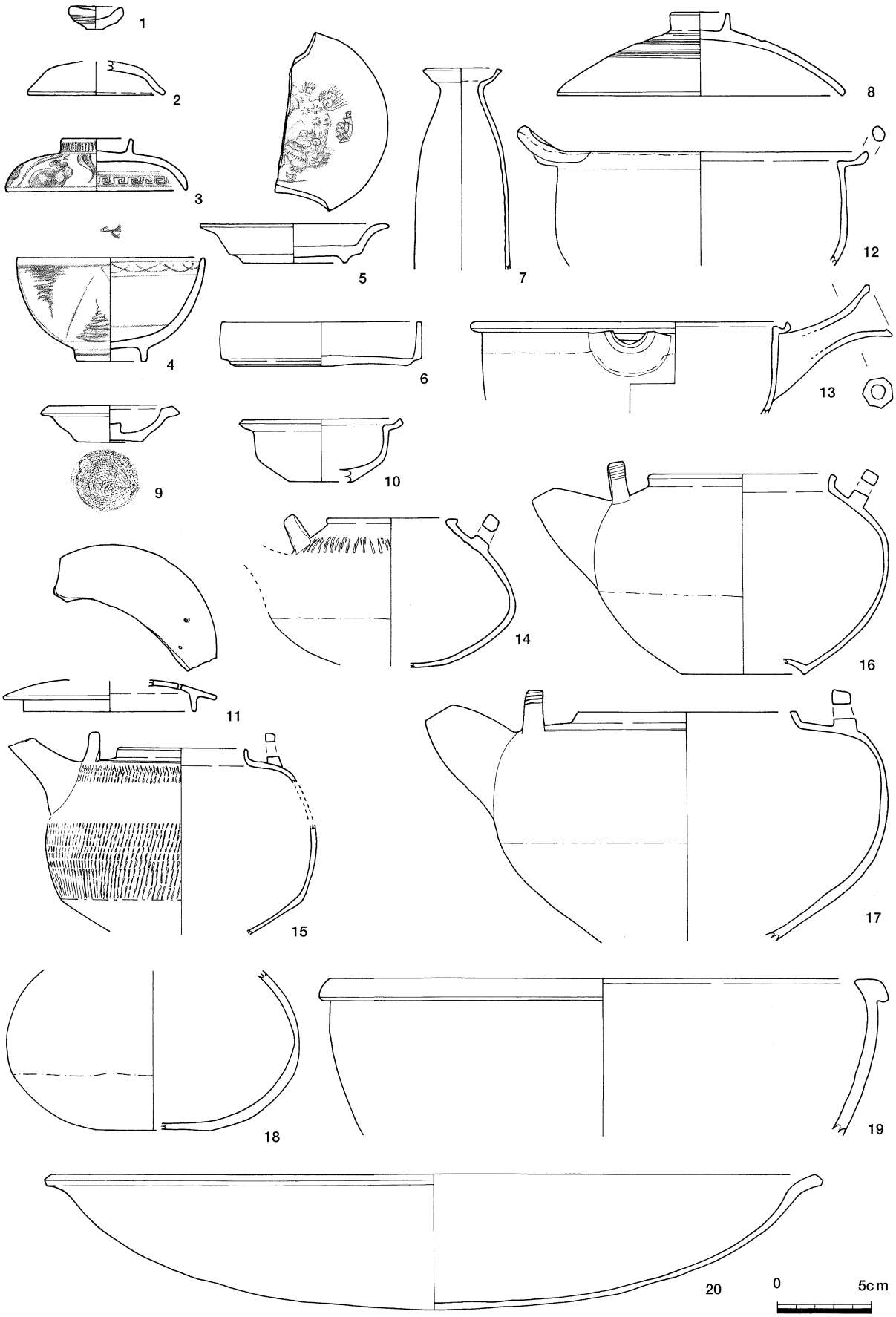
出土遺物は，25・26の染付碗があり，明治時代のものである。

ＳＫ－０４（第60・62図）

調査区南側で検出した土坑であり，南側と北側は



第60図　高松城跡（丸の内）第１面
遺構平面・断面図（縮尺1/80）



第61図　高松城跡（丸の内）SK-01出土遺物実測図（縮尺1/3）

撹乱を受け，西側が調査区外に延びる。平面形は不明である。深さは45cmを測り，断面形態は逆台形を呈する。埋土は単層である。

出土遺物は，27・28の染付碗があり，明治時代のものである。

ＳＰ－０１（第60・62図）

調査区南側においてＳＫ－０１の北側で検出した柱穴である。北半は撹乱を受け，直径は50㎝，深さ13㎝を測る。埋土は灰白色＋鈍い黄橙色シルト質細砂の単層である。

出土遺物は，29の断面円形の土製品のみであり，時期は不明である。

ＳＰ－０２（第60・62図）

調査区南側で検出した柱穴である。大部分は撹乱を受け，平面形や規模は不明である。深さは12㎝である。埋土は灰白色＋鈍い黄橙色シルト質細砂の単層である。

出土遺物のうち，30は染付碗，31は屋島焼陶器蓋，32は土師質土器杯があり，明治時代のものと考えられる。

ＳＰ－０３（第60図）

調査区北東隅で検出した楕円形の柱穴である。長径は37cm，短径は27cmを測り，掘り方は段を有する。深さは20㎝を測る。埋土は灰白色＋鈍い黄橙色シルト質細砂の単層である。

ＳＰ－０９（第60図）

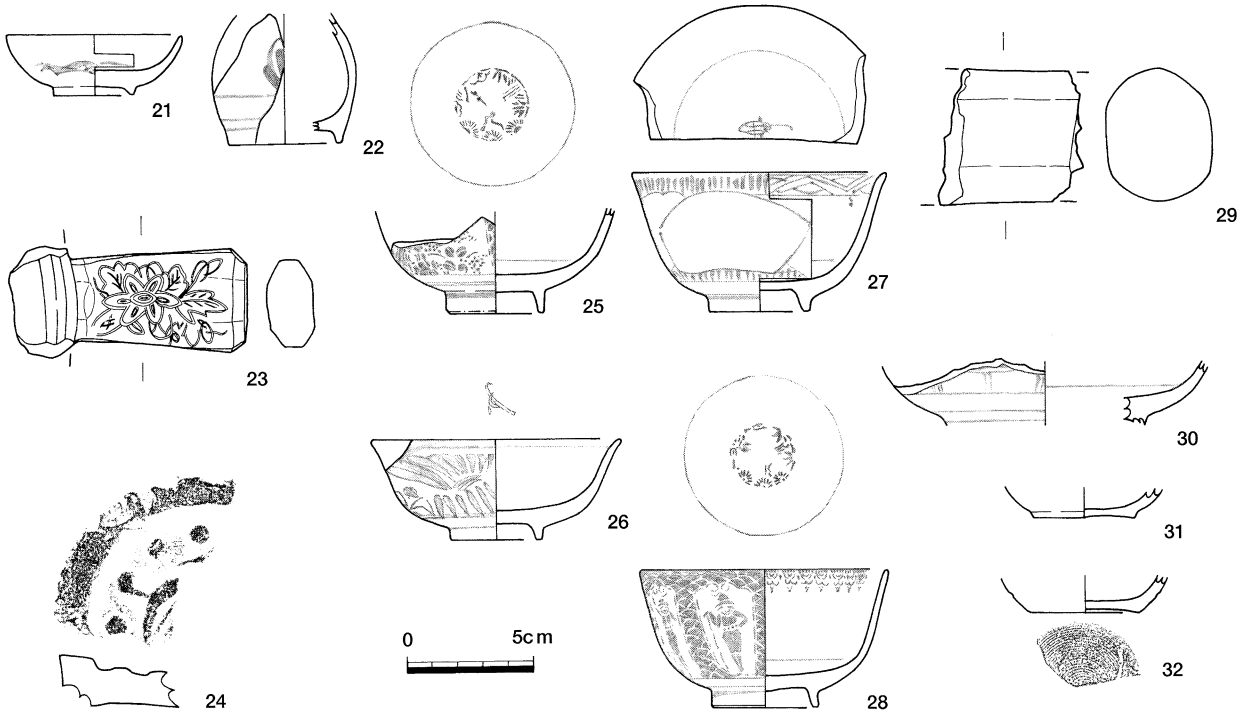
調査区南側においてＳＫ－０４に切られた状態で検出した円形の柱穴である。直径は22㎝，深さは19㎝を測る。埋土は灰白＋褐灰色細砂の単層である。

第２面

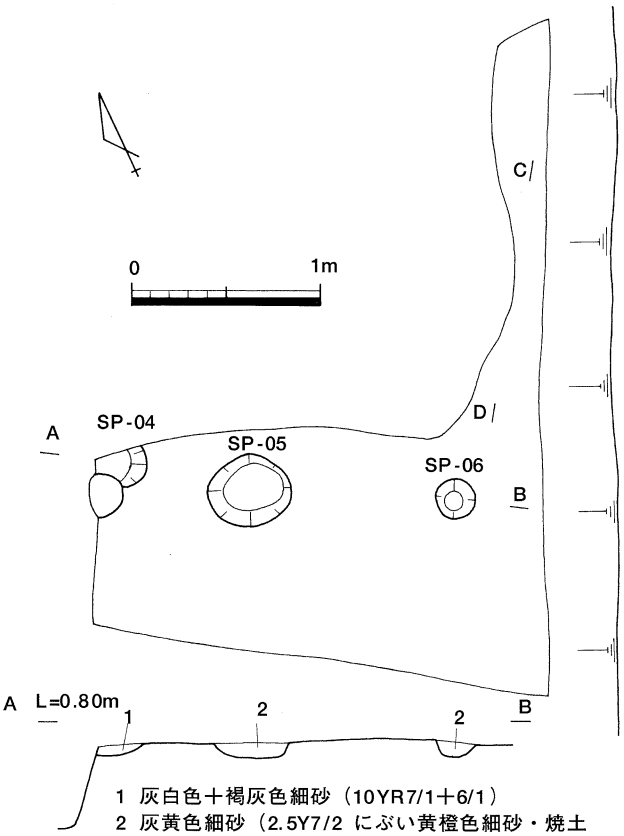
検出された遺構は土坑１基・柱穴３基であり，土層観察で北側に２基の柱穴を確認する。

ＳＫ－０５（第63・64図）

調査区南側で検出した円形の土坑であり，西半は撹乱により消失する。直径は80㎝，深さは約50㎝を測る。底面に安山岩の石が円形に並べられている。埋土は４層に分層でき，上層の灰色＋灰白色細砂には安山岩が混在する。

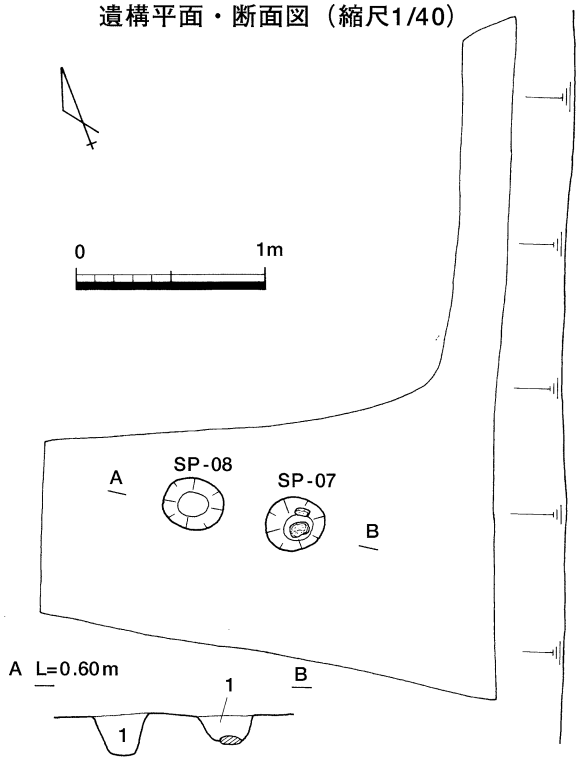


第62図　高松城跡（丸の内）SK-02～04・SP-01・02出土遺物実測図（縮尺1/3）



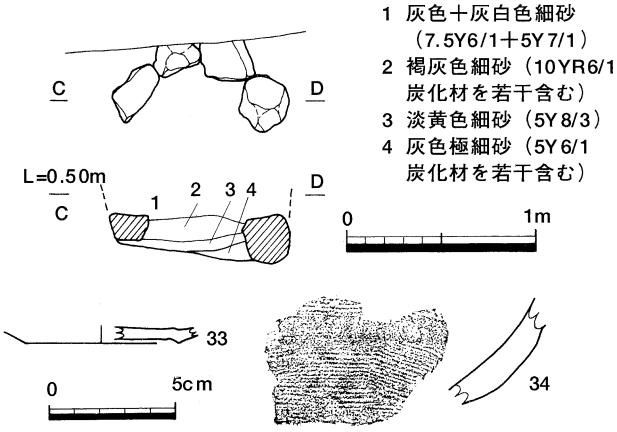
1 灰白色十褐灰色細砂（10YR7/1十6/1）
2 灰黄色細砂（2.5Y7/2 にぶい黄橙色細砂・焼土粒を若干含む）

第63図　高松城跡（丸の内）第２面
遺構平面・断面図（縮尺1/40）



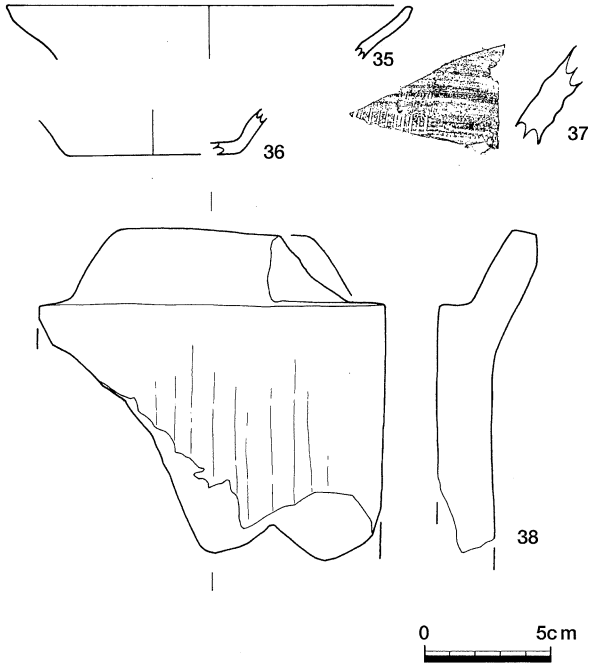
1 灰黄色細砂（2.5Y7/2 にぶい黄色細砂・焼土粒・炭化材を若干含む）

第66図　高松城跡（丸の内）第３面
遺構平面・断面図（縮尺1/40）

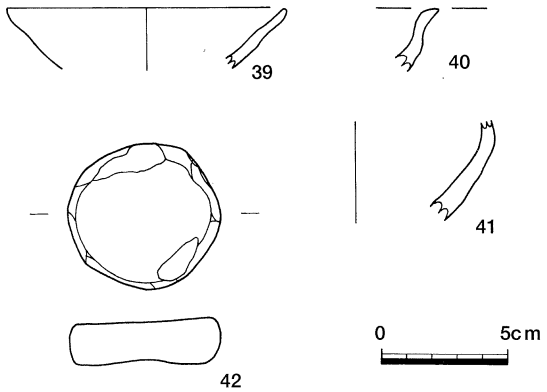


1 灰色十灰白色細砂（7.5Y6/1十5Y7/1）
2 褐灰色細砂（10YR6/1 炭化材を若干含む）
3 淡黄色細砂（5Y8/3）
4 灰色極細砂（5Y6/1 炭化材を若干含む）

第64図　SK-05平面・断面図（縮尺1/40）
及び出土遺物実測図（縮尺1/3）



第65図　第２面出土遺物実測図（縮尺1/3）



第67図　第３面出土遺物実測図（縮尺1/3）

出土遺物は，33の陶器底部，34は土師質土器鍋があり，時期は不明である。

ＳＰ－０４（第63図）

調査区南側においてＳＫ－０４に切られた状態で検出した円形の柱穴である。深さは５㎝を測り，埋土は単層である。

ＳＰ－０５（第63図）

調査区南側で検出した円形の柱穴であり，直径は43㎝，深さは８㎝を測る。埋土は単層である。

ＳＰ－０６（第63図）

調査区南側で検出した円形の柱穴であり，直径は21㎝，深さは６㎝を測る。埋土は単層である。

第２面出土遺物（第65図）

35は磁器皿，36は土師質土器杯，37は陶器擂鉢，38は丸瓦である。

第３面

ＳＰ－０７（第66図）

調査区南側で検出した円形の柱穴であり，直径は30㎝，深さは14㎝を測る。底面と側面に根石が残存する。埋土は単層であり，若干の焦土粒・炭化材を含む。

ＳＰ－０８（第66図）

調査区南側で検出した円形の柱穴であり，直径は30㎝，深さは20㎝を測る。埋土は単層で，若干の焦土粒・炭化材を含む。

第３面出土遺物（第67図）

39は土師質土器杯，40は陶器皿，41は瀬戸美濃系の天目茶碗であり17～18世紀のもの，42は土師質土器の円盤である。

第４面（第68～72図）

明確な遺構は確認されていないが，調査区南側において第14層に僅かな凹地があり，漆椀・板・加工材・植物遺体が出土した。また，北側の凹地では打ち込んだ杭を挟むように横に並べた竹が確認された。

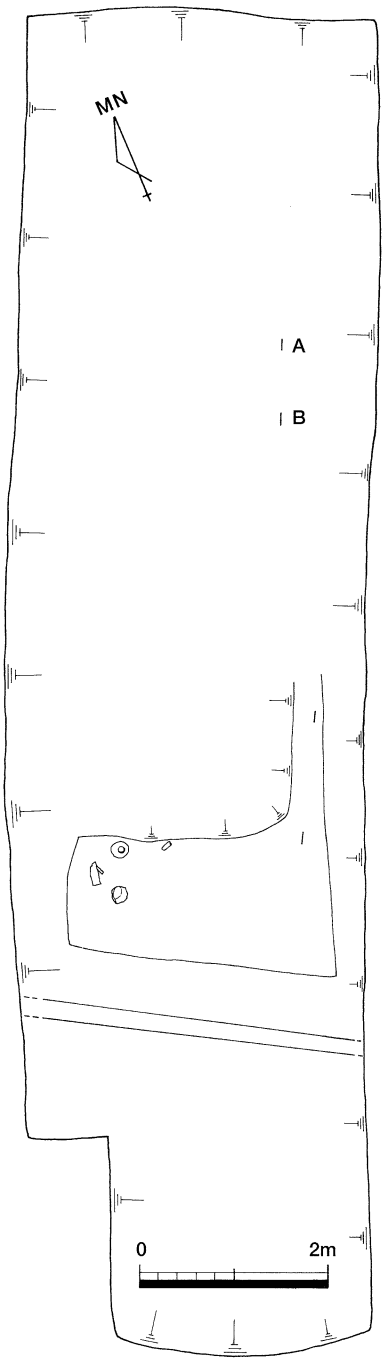
出土遺物のうち，43は弥生土器複合口縁壺で弥生後期末のもの，44は安山岩で表面に擦痕がある。45～56は木製品で，45は漆椀，46も漆椀と考えられるが底部に穿孔が認められる。47・48は箸，49は曲物の底板，50・51は加工材，52～56は板材である。

６．まとめ

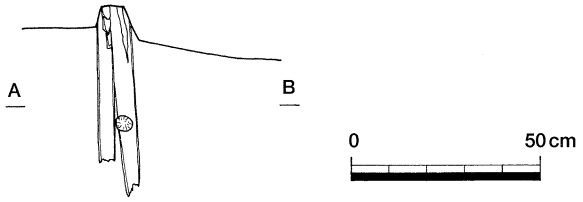
江戸時代の絵地図や記録を参照すると，調査対象地は，18世紀は家老の屋敷に，19世紀は高松藩主に近い人物や元藩主の未亡人の屋敷となっており，今回確認された遺構は，これらの屋敷に伴う可能性がある。なお，今回の調査対象地は，大部分が後世の撹乱を受けており，残されていた包蔵地の範囲も狭いことから，事前の保護措置は必要ないものと判断した。

写真47　第１面遺構全景（北から）

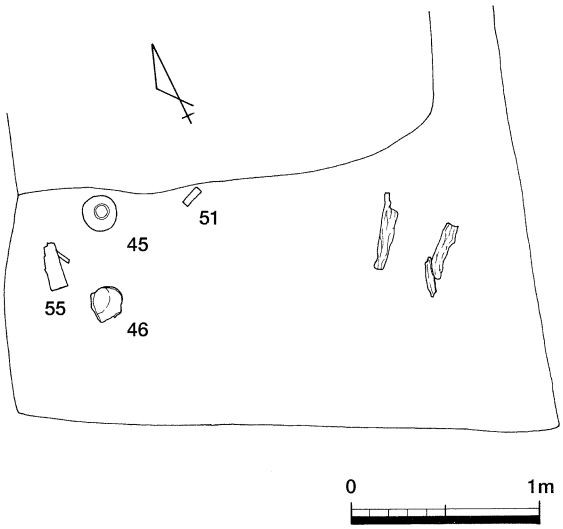
写真48　SP-07・08



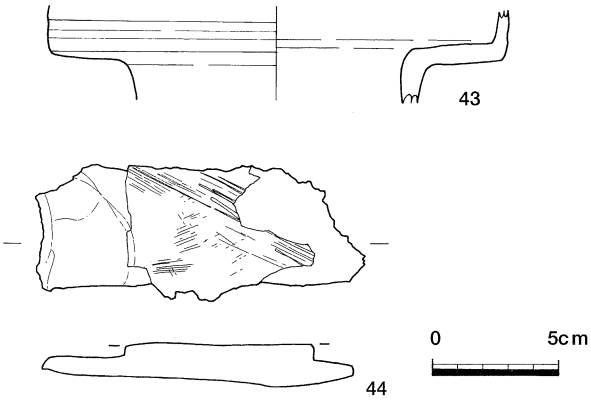
第68図　高松城跡（丸の内）第４面
遺構平面図（縮尺1/80）



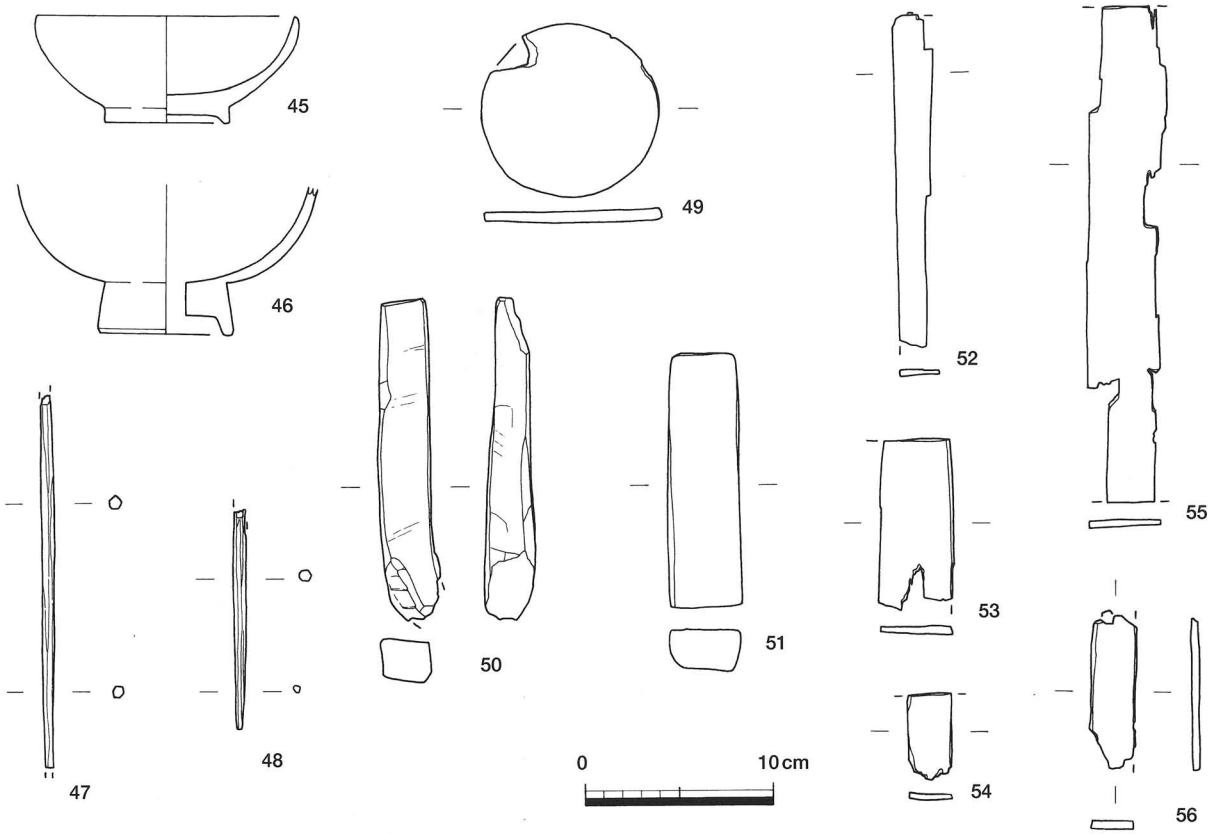
第69図　杭・竹平面図（縮尺1/20）



第70図　第４面遺物出土状況平面図（縮尺1/40）



第71図　第４面出土遺物実測図①（縮尺1/3）



第72図　高松城跡（丸の内）第４面出土遺物実測図②（縮尺1/4）

写真49　第４面遺物出土状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	たかまつしないいせきはっくつちょうさがいほう
書名	高松市内遺跡発掘調査概報
副書名	平成15年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第７２集
編著者名	川畑 聰，山元敏裕，大嶋和則，小川 賢，中西克也
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087（839）2636
発行年月日	平成16年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
飯田町東青木遺跡	高松市飯田町	37201		34°19′02″	134°00′33″	H15. 2.20～H15. 3. 5	100㎡	公園整備
御殿貯水池南遺跡	高松市鶴市町 西春日町	37201		34°19′30″	134°01′18″	H15. 3.10～H15. 3.20	356㎡	配水池・道路建設
高松城跡（中堀，北浜町）	高松市北浜町	37201		34°20′50″	134°03′23″	H15. 5.13	14㎡	共同住宅建設
南山浦遺跡	高松市西春日町	37201		34°18′49″	134°01′37″	H15. 6. 9	43㎡	児童福祉施設建設
高松城跡（丸の内）	高松市丸の内	37201		34°20′41″	134°03′16″	H15. 6.11	23㎡	道路建設
由良南原遺跡	高松市由良町	37201		34°16′50″	134°05′25″	H15. 7.17	68㎡	児童福祉施設建設
円座町下所地区	高松市円座町	37201		34°16′54″	134°00′25″	H15. 8. 5	20㎡	校舎増築
鬼無町佐藤地区	高松市鬼無町 佐藤・中山町	37201		34°20′05″	133°58′46″	H15. 8.20	21㎡	送電線鉄塔建設
香西東町新田地区	高松市香西東町	37201		34°20′18″	134°00′37″	H15. 7.14	3㎡	道路建設
高松城跡（丸の内）	高松市丸の内	37201		34°20′39″	134°03′15″	H15. 8.25～H15. 8.26	22㎡	個人住宅建設
史跡高松城跡（二の丸）	高松市玉藻町	37201		34°20′55″	134°03′08″	H15. 8.26～H15. 9. 4	10㎡	料金所整備
高松城跡（丸の内）	高松市丸の内	37201		34°20′40″	134°03′15″	H15. 8.18～H15. 9.22	296㎡	再生水管布設工事
高松城跡（外堀，西内町）	高松市西内町	37201		34°20′37″	134°02′56″	H15.10. 8～H15.10. 9	30㎡	共同住宅建設
高松城跡（鶴屋町）	高松市鶴屋町	37201		34°20′34″	134°03′27″	H15.10. 8～H15.10. 9	60㎡	共同住宅建設
高松城跡（丸の内）	高松市丸の内	37201		34°20′38″	134°03′20″	H15.11.12～H15.11.19	50㎡	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飯田町東青木遺跡	集落	古墳	溝，土坑，柱穴	土師器，須恵器	
御殿貯水池南遺跡	集落	弥生	溝，柱穴	弥生土器，土師質土器	
高松城跡（北浜町）					
南山浦遺跡	集落	弥生	溝，土坑，柱穴	弥生土器	
高松城跡（丸の内）	城館	江戸	廃棄土坑，柱穴	陶磁器，土師質土器	
由良南原遺跡	集落	中世	柱穴	須恵器	
円座町下所地区					
鬼無町佐藤地区					
香西東町新田地区					
高松城跡（丸の内）	城館	江戸	廃棄土坑，溝	陶磁器	
史跡高松城跡	城館	江戸	石列	陶磁器，土師質土器，瓦	高松城内建物基礎
高松城跡（丸の内）	城館	江戸	廃棄土坑	陶磁器，土師質土器	
高松城跡（西内町）	城館	江戸	石垣	陶磁器	高松城外堀石垣
高松城跡（鶴屋町）	城館	江戸	廃棄土坑，石列	陶磁器，土師質土器，須恵器	
高松城跡（丸の内）	城館	江戸	土坑	陶磁器，土師質土器，瓦	

高松市内遺跡発掘調査概報

—平成15年度国庫補助事業—

平成16年3月31日発行

編集　高松市教育委員会

発行　高松市番町一丁目8番15号

印刷　有限会社 中央ファイリング